



# やまぎき

創立100周年記念 副読本

横須賀市立山崎小学校



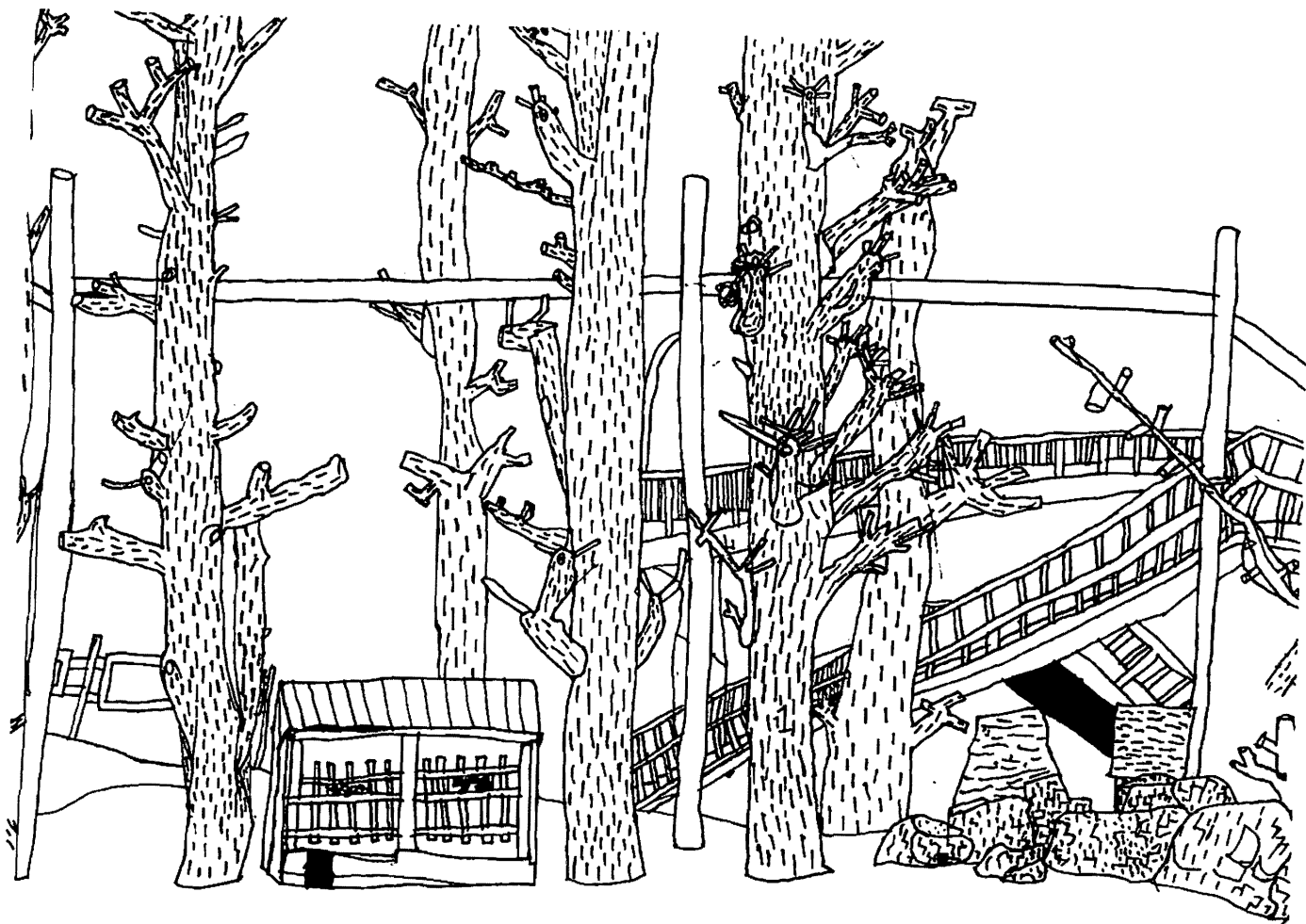


祝100周年

2012 山崎小

山崎小100周年





# も く じ

あいさつ .....	3	3. 暮らしのうつりかわり .....	77
1. 学校のうつりかわり .....	4	(1) 服そう .....	77
(1) 学校のシンボル .....	4	(2) 食べ物 .....	81
(2) 学校のはじまり .....	5	(3) 生活の道具 .....	82
(3) 戦争前の学校 .....	6	(4) 遊び .....	84
(4) 戦争中の学校 .....	10	4. わたしたちの町にある公共施設 .....	90
(5) 戦争後の学校 .....	16	(1) 安全な暮らし .....	90
(6) きれいになった学校 .....	20	(2) 健康な暮らし .....	94
(7) 山崎小学校のうつりかわり .....	23	(3) ゆたかな暮らし .....	102
2. わたしたちの町 .....	28	年表 .....	106
(1) 商業 .....	28	資料 .....	111
(2) 漁業 .....	36	あとがき .....	113
(3) 工業 .....	41	参考文献 .....	114
(4) 交通 .....	47		
(5) 土地の開発 .....	62		
(6) 歴史 .....	67		



# まえがき

校長 柏木 雅一



本年度は本校創設から数えて100年目、輝かしい節目の年に当たります。人に例えるなら一世紀を生きることになり、この三春町の発展を見守ってきたことになります

山崎小学校が誕生したのは、明治時代の終わり（明治45年）、豊島小学校から分かれ、横須賀で9番目の小学校としてスタートしました。

開校初年度は、1年生～5年生まで全5学級の児童数303人が平屋校舎へ通うようになりました。

100年の歩みの間には、様々な出来事がありました。大正時代には関東大震災が起き、創立当時の校舎が壊れ、陸軍の建物を借りて勉強をしていましたが、遠いため地域の方々（山崎青年団）の協力で、バラック校舎が建てられました。さらに、児童数が増加するに当たり、校舎の建て増しを行っていきましたが、それでも足りず2部授業を余儀なくされました。

戦後になると、お母さん方のご協力で、味噌汁給食が始まり、やがて完全給食へと移行しました。

また、1965（昭和40）年には、講堂と木造2階建て校舎が火災に見舞われるという悲しい出来事もありました。そして、1972（昭和47）年の60周年と同じくして、待望の鉄筋校舎が新築され、近代化への脱皮が一段と進められました。さらに、80周年には、校舎内の整備ということで、放送室・職員室・校長室などの改修が行われました。

このように、地域の多くの方々に温かく見守られ、ご支援・ご協力をいただきながら、100年という歴史を積み重ねることができました。この副読本を作成するに当たり、学校の歴史はもちろん、町の様子を地域の方に尋ね、様々な方の郷土愛が詰まっています。ぜひ、この副読本を、郷土学習に生かし、将来立派な社会人になるための道標になると確信しています。大いに利用してほしいと考えています。



# 1 学校のうつりかわり

## (1) 学校のシンボル

### ○校章



横須賀市のしるしにならって横須賀港にやってくる船の羅針盤をかたちどっています。

方位（東西南北の位置）をしめす八つの矢印が「山」を表し、その中にかたかなで「サキ」を案化して校名を表しています。羅針盤は、目的地

に向かってまちがいなく船が進むための道しるべであり、児童が目ざすところに向かってあやまりなく、力強く進んでほしいという願いがこめられています。

### ○シンボル

山崎小のシンボル（特ちょうを表すもの）といえるのは、校庭にそびえる大きなイチョウの木です。イチョウの木は、今から100年前、学校が建てられたころにうえられたもので、山崎小の歴史をずっと見守ってきました。秋には、たくさんのぎんなんが実りま



歴史を見守るいちょうの木



## (2) 学校のはじまり

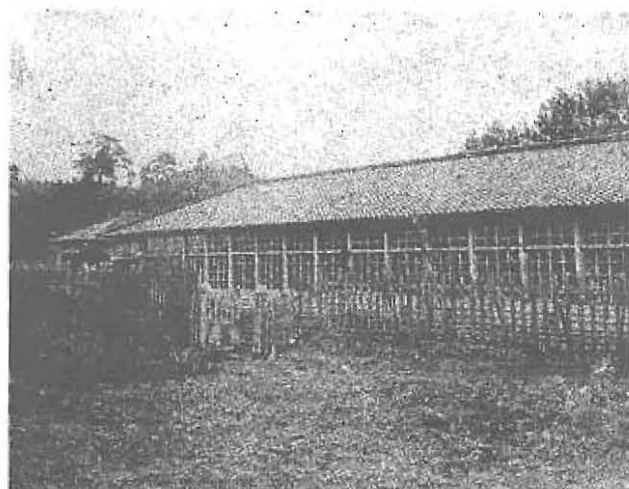
### ○寺子屋の学校

武士の世の中（江戸時代）から明治のはじめのころの学校は、寺子屋といって勉強する場所はお寺やふつうの家でした。このあたりに住んでいた人は、浄蓮寺（公郷村中村）の寺子屋で勉強していました。

明治5年になると政府は、国民全体の教育を高めるため、全国にたくさんの小学校を建てました。この時に、浄蓮寺の寺子屋も公郷小学校として生まれました。その後、この公郷小学校は、豊島小学校の分校となりましたが、後に豊島小学校といっしょになりました。(P.50.51参照)

### ○学校ができた

1912（明治45）年1月14日、横須賀市の9番目の学校として今の場所に建てられました。それまで、1年生は春日神社内の分教場、2年生からは、豊島小学校へ通学していましたが、校舎ができると1年生から5年



創立当時の学校

生まで、全部で5学級、303人が通うようになりました。6年生は卒業間近のため、今まで通り豊島小学校へ通っていましたが、つぎの年6年生までそろって通えるようになりました。



学科は、修身、<sup>しゅうしん</sup>国語、<sup>さんじゆつ</sup>算術、<sup>し</sup>国史、<sup>しやうか</sup>地理、<sup>そく</sup>理科、<sup>しやうか</sup>唱歌、<sup>そく</sup>体操、<sup>さいほう</sup>裁縫、<sup>しゆこう</sup>手工にわかれていました。勉強することも、今とは少しちがってました。

下の写真は、1914（大正3）年、第1回卒業生の写真です。

服そうやはき物を見ると、今とはだいぶちがいます。かみのかたちも男子はぼうず頭、<sup>あたま</sup>女子はかみを長くのばして結っています。



第一回卒業生（女子）



第一回卒業生（男子）

### (3) <sup>せんそう</sup>戦争前の学校

#### ○<sup>きもの</sup>着物で通学

下の写真は、1919（大正8）年の朝礼のようすです。校舎は木造で、二階建と平屋からできています。そのころは、みんな着物を着て、げたばきで登校していました。男の子は、校章のついた学生帽をかぶってました。持ち物は、ズック（<sup>あつじ</sup>厚地のもめん）のカバンに入れてかたから下げたり、ふろしきにつつんだりしてました。



大正8年の校舎

1922（大正11）年4月には、と

なりの田戸小学校が開校し、それまでの豊島小、鶴久保小、諏訪小、山崎小の学区がかわりました。6月に4教室ふえて、1918（大正7）年から行われていた二部授業（午前と午後にかけて同じ教室を2クラスで使う）がなくなりました。

1923（大正12）年4月、学校の名前が山崎尋常小学校とかわりました。学級数は12、児童数は613人でしたから今の山崎小学校の人数とあまりかわりありません。

### ○関東大しん災

1923（大正12）年9月1日、午前11時58分、関東地方一帯に大きな地しんがおこりました。

市内では、山くずれがおき、家がたおれたり、火災がおきるなどしてたいへんな被害がでました。



山崎小学校でも、創立当時の校舎がこわれたのをはじめ、二階建校舎や、便所の建物がたむいてしまいました。市内の小学校では、被害をうけなかった陸軍の建物（今の不入斗中学校のふきん）をかりて勉強するようにしました。

しかし、山崎小学校では、通学に遠いため、山崎青年団（地いきの青年たちの集まり）の人たちの協力によって、バラック校舎（鉄板平屋建4教室）がいそいで建てられたのです。バラック校舎が完成したのはよく年の6月でしたが、それまでは二部授業を行うなどたいへん不自由な思いをして学習を続けました。



## ○スポーツがさかんなころ

大正の<sup>たいしやう</sup>終わりごろになると、スポーツに力が入られるようになりました。特に、1924（大正13）年ごろから横須賀市では、少年野球が



大正14年ごろの運動会

さかんになりましたが、山崎小チームは、市内はもちろん、県代表として全国大会に2回出場しました。そのほか、陸上<sup>きやうぎ</sup>競技や水泳にもすばらしい記録を残しました。左の写真は、そのころの運動会のようなようです。

今と少し服そうがちがっています。

昭和11年から15年ごろまでは大津<sup>おおつ</sup>海岸で水泳会が行われました。

そのころは、きれいな砂浜<sup>すなはま</sup>で、海は遠浅<sup>とほあそ</sup>、そして水もたいへんきれいで泳ぐのに<sup>かよ</sup>適<sup>てき</sup>していましたし、泳ぎに来る人も少なかったので、児童にとっては、楽しい海岸でした。



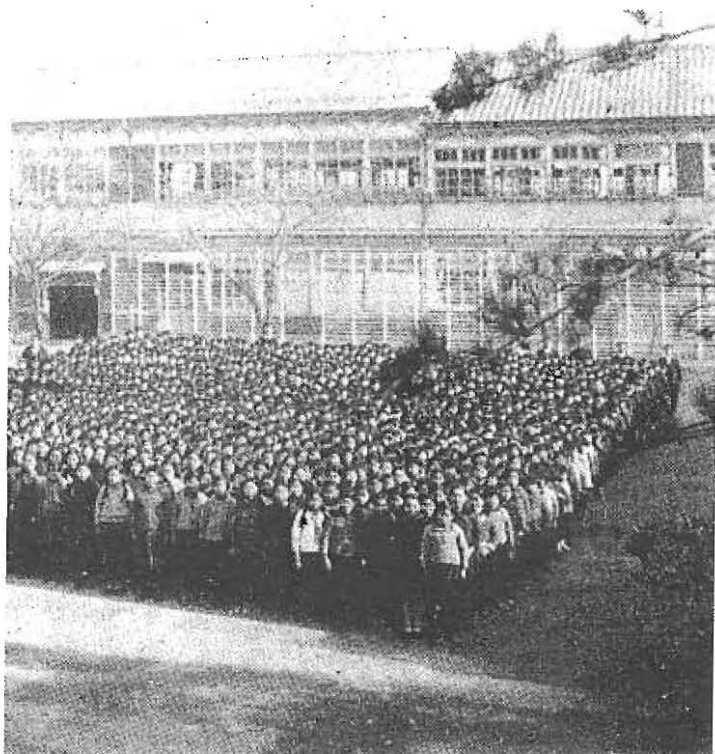
水泳会

## ○ふえてきた児童数とせまい校地

1925（大正14）年、児童数がふえてきたため、2月に二階建校舎6教室、11月に講堂<sup>こうどう</sup>（体育館<sup>かん</sup>）、さらに二階建校舎7教室ができました。この時、学校のしき地もわずかですが広げられました。

それ以後、げんざい<sup>いご</sup>まで全部で5回ほど、校地が広げられてきましたが、まだまだじゅうぶんな広さとはいえません。

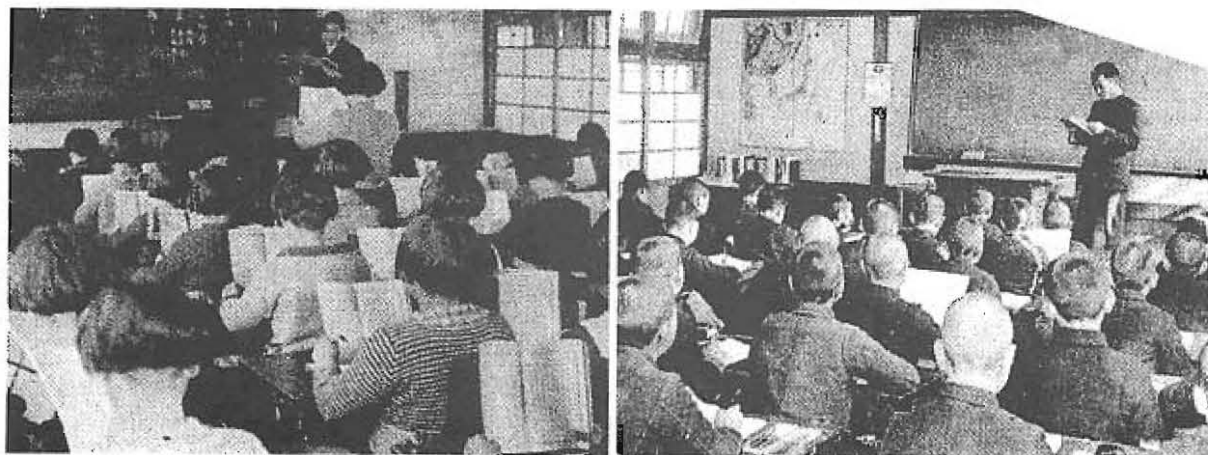
右の写真は、1928（昭和3）年、全校児童が校庭に集まった時のようすです。校舎は全部二階建となっています。このころになると、山崎町のうめたて工事も完成して山崎町、堀の内、今の三春町に住む人もだんだんふえてきました。それにつれて、児童数も毎年のようにふえてきました。このため、1931（昭和6）年から、



昭和3年の校舎と全校児童

何度かにわたり校舎が建てましされましたが、それでも間に合わず、1937（昭和12）年から、1944（昭和19）年まで、二部授業が行われたのです。

下の写真は、1936（昭和11）年から1937（昭和12）年ごろの授業のようすですが、かなりこみあっています。このころは、一クラスの人数が60数名もいたのです。



昭和11年から昭和12年ごろの授業のようす



## (4) 戦争中の学校

### 太平洋戦争

太平洋方面でアメリカ、イギリスなどとの間に行われた戦争

### ○はげしくなってきた戦争

1931（昭和6）年にはじまった中国との戦争は、1941（昭和16）年12月8日には、太平洋戦争へと広がっていききました。

### 軍国主義

武力で戦争に勝つことを目的とした考え

この年の4月には、山崎国民学校と名前が変わり、軍国主義の教育が強くなってきました。

### 防空頭巾

空からのこうげきをよけるため頭にかぶるもの

戦争がはげしくなってくると、アメリカ軍の飛行機のこうげきをうけるようになり、人びとは防空頭巾を持って歩きました。むねには大きな白い布に、名前、住所、血液がたなどを書いてつけました。

### 空しゅうけい報

敵の飛行機が近づいてくるとを人びとに知らせる合図

山すそや庭さきなどに防空ごうという穴がほられ、空しゅうけい報が出されると、そこへにげこみました。

空しゅうけい報が一日に何度も鳴るようになると、学校で落ちついて勉強することはできなくなってきました。

### 防空演習

空しゅうけいにそなえてにげるくんれんをすること

学校でも、「防空演習、防空演習、敵機接近中……」という大声がろうかに流れると、勉強していた児童はいそいで防空頭巾をかぶり、校庭に出ました。演習がそのまま本当の空しゅうけいになることもありました。

また、夜の空しゅうけいにそなえて「灯火かんせい」といって灯りが外にもれないように注意しました。



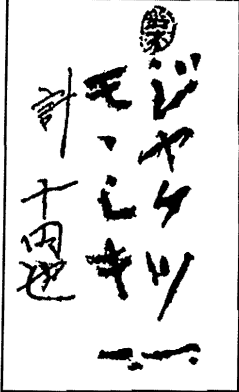
防空演習

石渡良子さん（三春町5丁目在住）の話

配給制

品物が不足して決められた量しか手に入らないこと

品物の引きかえ券



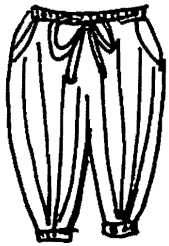
ジャケツ

毛糸であんだ長そでの上着

国防色

茶色がかった草色

モンペ



防空ごう

空しゅうからひなんするためほった穴

第二次世界大戦に入ってから、主食から調味料<sup>りょう</sup>、衣料<sup>い</sup>など、つぎつぎと配給制<sup>はいきゅうせい</sup>になり、町で行列<sup>ぎょうれつ</sup>しているのを見れば、何だかわからなくても何か買えるのではと思います、よく並んだものです。

主食は、わずかな米<sup>こめ</sup>や麦<sup>むぎ</sup>の中に、おいもや、大豆<sup>だいず</sup>ひどい時には大豆から油を取った残りなどを入れて食べていました。

本土への空しゅうが始まってからは、夜は敵機<sup>ていき</sup>の目標<sup>ひょう</sup>にならないように、早ばやと雨戸をしめ、電灯<sup>とう</sup>に黒いおおいをかけて光が外にもれないようにしました。

服装<sup>そう</sup>もめだつので、国防色や地味なもので、働きやすいようにズボンやモンペをはきました。衣料が点数制のため、着物<sup>きもの</sup>や羽<sup>は</sup>おり、はかまなどをほどいて暗い電灯の下でモンペをぬったり、つくろい物<sup>もの</sup>をしました。

空しゅうのはげしくなったころは、防空ごうに出たり入ったりで昼<sup>ひる</sup>も夜<sup>よる</sup>も仕事にならないありさまでした。東京や横浜<sup>よこはま</sup>が空しゅうの時は、空がまっ赤にそまったありさまをいく度<sup>ど</sup>となく見て、おそろしい思いをしました。

おそろしい戦争は終わっても、物資<sup>ぶつし</sup>不足の生活は長く続き栄養<sup>えいよう</sup>不足で病気になる人が多く出ました。



慰問文

戦地の兵隊  
さんをなぐさ  
めるために送っ  
た手紙

いもん  
○慰問文

下の手紙は、1942（昭和17）年、そのころ山崎国民学  
校の5年生だった女の子が、戦地の兵隊さんにあてて書  
いた手紙です。この文を読むと、当時の生活のようすや、  
考え方がよくわかります。

内地

日本の国内

ぶらんちようきゆう  
武運長久

戦いに勝つ  
ことが長く続  
くこと

ちゆうぎ  
忠義

まごころを  
つくしてつか  
えること

じゆうご  
銃後

戦争にくわ  
わらず、るす  
をまもること

戦地からとどいた絵葉書



部一成瀬川

0 櫻の校歌

戦地の兵隊さんへ

兵隊さんお元気ですか内地はもう秋が来ました  
毎日夕刻わらいな兵と戦っておくたび水にな  
るでせう、私たちはかうしてたのしく、学校へ通へ  
るのもみな兵隊さんたちのおかげです。兵隊さ  
んどうもありがたうございます。私はどんなにま  
づいものでもがまんしてたべて、ふくにっががあて  
てあつてもちつともきままをいひません。兵隊  
さん、私は神社に参拝した時は、せいせいで、兵隊  
兵隊さんの武運長久をお祈りしておます。正して  
日本の國のためにどうか兵隊さんおてがらをた  
つて、天皇陛下に忠義をおつくしになって下さい  
私はじゆうごを守つております。  
ではさやうなら  
お身体を大切に

戦地の兵隊さんや、るすを守る家族にとって手  
紙は、無事をたしかめたいせつなものでした。

学童疎開

児童が空しゅうなどにそなえて都市をはなれて生活すること

軍港

軍かんが出入りする特別な港

訓導

小学校の先生の古いよび方

寮母

寮にいる人たちの母親がわりになって世話をする人

1 町

およそ109m

役場

町や村の役所

がくどうそかい  
○学童疎開

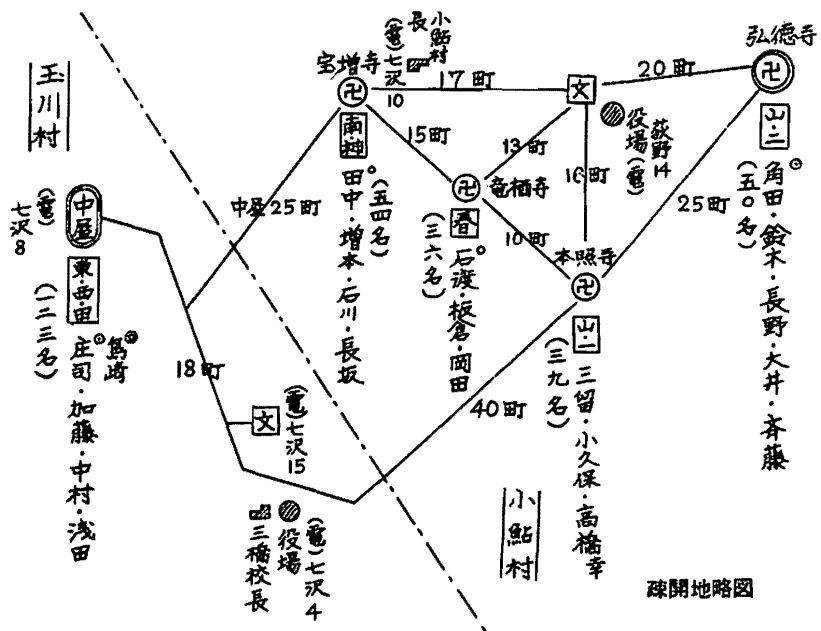
1944 (昭和19) 年の夏、戦争がはげしくなると、横須賀市には重要な軍港があるため、たいへんきけんな状態になってきました。そこで、小学生は戦争の被害の少ないなかの親せきや知りあいの家をたよって疎開するよう命令がでました。3年生以上で疎開できる親せきや知りあいのない児童は、先生といっしょに集団で疎開するように決められました。

山崎小学校の3年生以上302名は、愛甲郡小鮎村、玉川村 (今の厚木市ふきん) の四つのお寺と一軒の旅館に分けられました。

計	玉川	小鮎	村
五	中屋旅館	本照寺 龍栖寺 宝増寺 弘徳寺	宿寮
八三〇二	田堀堀 戸西東	山崎第二 春日町 神堀之内 山崎第二	收容分団
八	島崎 庄司 加藤	三九三 三六〇 五四〇 五〇〇	団員数 訓導
一二二	中村 浅田	橋小久保 高 板倉 岡田 長坂 石川 増本 斎藤 長野 大井	寮母
九			

集団疎開配置表

山崎国民学校



疎開地略図

8月中旬、いよいよ出発の日。小学校の3年生が父母のもとをはなれて、いつ帰れるかわからない生活に移るのです。どんなにつらく、心細いことだったでしょう。

疎開先では、二つの小学校に分かれ、団体で通学しました。午前中の学習が終わると、午後は近くの農家の畑仕事の手伝いや、いろいろな手助けをしました。

## 面会

人とあうこと



面会後のわかれ

ときどき、横須賀から父母が団体で面会に来てくれました。それは、児童にとって一番楽しい日でした。物のない時代に少しでも苦労して集めた物を持ってきてくれました。夕方になると、また父母は、横須賀へ帰っていきます。児童たちは、お寺のがけの上に立って、親の姿が見えなくなるまで手をふり続けました。

## 村野カチエさん（三春町四丁目在住）の話

### 赤十字袋

ぬの袋の中にかんたんな手あてのできるくすりやほうたいを入れた物

モンペ姿で赤十字袋、防空頭巾を肩にかけて登校しました。また、空しゅうがはげしくなり、学童疎開が始まり、3年生ころからと思いますが、親より離れ秦野の伊勢原付近（小鮎村・玉川村）のお寺様へ疎開しました。私も面会に行きましたが、道路までむかえに来ていました。親の方も我が子を見つけ、「あっ、家の子があそこにいる。」などと申し、抱き合い何とも言葉に言えませんでした。



中には、お父さん、お母さんに会いたくてお寺をにげ出した子もいたそうですが、そのうちに村の子どもたちともなかよくなり、いっしょに遊んでいると、お父さんお母さんに会えないさみしさも、おなかがすいたひもじさもわすれることができました。



学童疎開のようす（食事）



学童疎開のようす（ねる前のあいさつ）

#### 配給米

きめられた量しか、買えないお米のこと

食事といっても、お米は配給米はいきゆうまいといって、一人あ当たりの決められた量しか手に入らないので、ごはんの中に大豆、おいも、大根などをまぜてたいたものや、水をたくさん入れたおかゆを食べていました。量も少なくいつもおなかをすかせていました。

1945（昭和20）年になると、戦争も終わりに近づき、空しゅうがはげしくなってきました。とても学校へ行くどころではなく、お寺で勉強を続けましたが、空しゅうほうけい報が出ると、お寺の防空ごうへにげこむようになりました。ついに愛甲郡あいこうぐんもあぶなくなり、秋田県の方へ再疎開さいになりそうだと告げられてまもなく、8月15日、戦争は終わったのです。

#### 再疎開

より安全な場所へふたたび疎開すること

## (5) 戦争後の学校

### ○戦争が終わって

長く、つらい戦争が終わると、疎開していた児童も帰ってきました。もう飛行機が飛んでも、ばくだんの落ちる心配がなくなり、電灯もあかあかとつけることができ、家族がはなればなれになることもなくなったのです。

しかし、日本が戦争に負けると、これまで軍港の町として栄えてきた横須賀は、大きくかわりました。軍人や軍のしせつで働いていた人びとは、仕事をうしない10万人近くの人たちが、横須賀を去っていきました。

町にのこった人たちの、それからの生活はたいへんなものでした。土地もすっかりあれはてて、作物はできず、食べる物もなかなか手に入らない状態でした。なかには、栄養が足りず病気になったり、思うように治療ができずなくなる人もたくさんいました。

ぞうすい  
野菜などを  
ませ、みそや  
しょうゆで味  
をつけたかゆ

買い出し  
生産地にで  
かけて行って  
品物を買うこ  
と  
つくろう  
やぶれたり  
したものをと  
とのえること

### — 小櫃茂さん（三春町一丁目在住）の話 —

終戦後は、食料がなく、ダイコンを米にまぜてごはんにした。ぞうすいもよく食べた。ザラメ、トウモロコシ、トウモロコシの粉が配給になった。

家族7人の食料が不足したので、おいもを藤沢、相模原、御殿場あたりの農家まで買い出しに行った。

今ほど物がないので、一つの物を大切に使って、くつ下などはつくろってはいた。

## ○平和へのねがい

たくさんの人たちの<sup>とうと</sup>尊い命をうばい、きずつけ、苦しくつらい思いをさせた<sup>せんそう</sup>戦争。これからは、もう二度とこんなおそろしい戦争をおこしてはいけないと考えた人びとは平和な世の中をつくらなければいけないと考えて、新しい日本の国のきまりをつくりました。これが「<sup>りんぽう</sup>日本国憲法」です。横須賀市でも、1950（昭和25）年、「二度と戦争をゆるさない、平和なまちをつくろう。」という市民のねがいのもとに「<sup>きゆうぐん てんかん</sup>旧軍港市転換法」がつくられ、平和で新しいまちづくりがはじめられました。

## ○生まれ<sup>か</sup>変わった学校

日本国憲法にあわせて、1947（昭和22）年からは、学校のしくみも大きくかわり、新しい学校の制度ができました。校名も横須賀市立山崎小学校となりました。この時から、男子も女子も、いっしょにつくえをならべて勉強するようになったのです。

## ○<sup>きゆうじョク</sup>給食はじまる

このころは、食べ物が不足していましたので、<sup>べんとう</sup>弁当を持っていけない子もいました。そこで1946（昭和21）年には、お母さん方の<sup>がた きョウリョク</sup>協力により<sup>しるきョウじョク</sup>みそ汁給食がはじまりました。家庭から持ちよった<sup>や</sup>野さいを使ったものでしたが、児童にとっては、たいせつな<sup>えいよう</sup>栄養になったのです。アメリカ軍から送られた<sup>だつ し ふんにョウ こな</sup>脱脂粉乳（粉をくだいて水にとかしてにたミルク）もでした。



昭和27年にできた給食室

やがて、パンとおかずによる今の<sup>かんぜん</sup>ような完全給食となりました。



○校歌ができる

横須賀市立山崎小学校校歌

土岐善麿 作詞  
信時 潔 作曲

♩ = 約112 あかるく たのしく

mp

一、さくらはにわにこのみはあかに  
二、ヒロガルナミニカガヤクミナト  
三、ただしこのころじょうぶなから

mp

はるもあきもあかるくのしあざ  
クモハテルヨヤマカラヤマヘオキ  
ともよつねにたゆまずゆこうひと

mp

やかにふくらむつぼみすこやかーにそだ  
トオクカクレルシラホカメモトービキ  
くるまゆきかうーところにぎやかーにみち

mp

つはのかけひろいそらのしたに  
キトドロククカイマドヲアケテ  
はひらけるここにまなぶ懐こり

mp

たてばしぜんはいつもあたらしい  
ミレバセカイニツクアオノイロ  
もちてやまざき小学校われらあり

1952 (昭和27)  
年に創立40周年  
記念式典が行われ  
ました。

山崎小学校の  
PTAは、バザー  
をしてそのお金  
で、グランドピ  
アノを購入した  
り、音楽会やP  
TAコーラスを  
開きました。

PTAでは、  
40周年記念事業  
のため、学区に  
住む人たちにお  
願いしてお金を  
集めました。

校歌も40周年記念事業の一つ  
として、その時に誕生したもので  
す。その後現在まで歌いつが  
れています。



創立40周年記念式典

## ○火事で焼けた校舎

1965（昭和40）年9月23日の午後、講堂ステージうらの物置近くから火が出て、講堂と木造二階建校舎（4教室）一棟が焼けてしまいました。

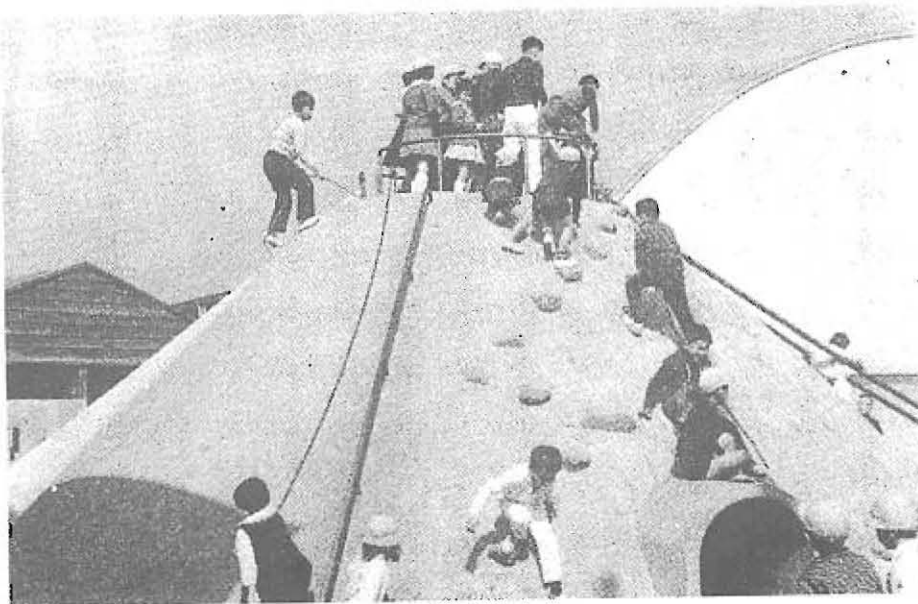
この日は、秋分の日で学校は休みでしたが、運動場で遊んでいた児童が用務員さんに知らせました。発見するのが早かったため火は1時間ほどで消えましたが、火事の原因はわかりませんでした。

つぎの日の朝早くから、PTAの人たちが集まり、教室のそうじや後かたづけをすませ、児童が登校した時にはきれいになりいつも通りの授業ができました。

## ○「山崎富士」ができる

1966（昭和41）年5月には、火事で焼けた講堂にかわって、新しい体育館兼講堂ができました。この時もPTAの人たちは、地いきの人をお願いしてたくさんのお金を集め、体育館の中のものを整えてくれました。

その年の10月に、体育館に使った残りのお金で「山崎富士」を完成させました。山崎富士は市内でも早くからできたアスレチックの遊具です。



完成した「山崎富士」

## (6) きれいになった学校

### ○創立60周年

1972（昭和47）年創立60周年をむかえ、記念式典が行われました。

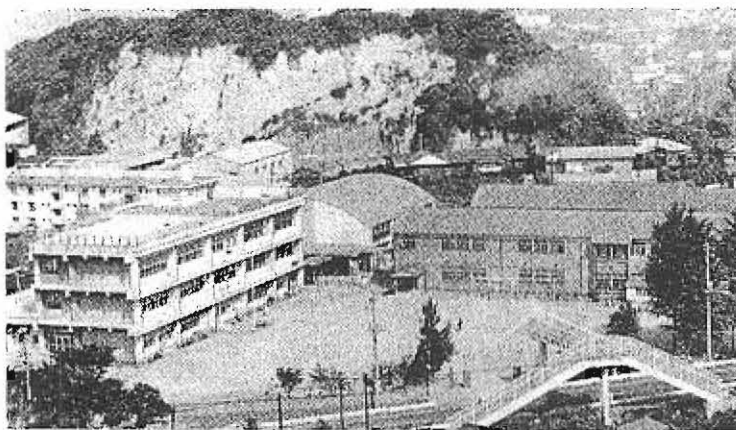
卒業生や、地いきの人たちも、創立当時の思い出や、その後のようすを話して下さり、りっぱな記念誌ができました。



校長室で思い出を語る卒業生

### ○鉄筋校舎

1979（昭和54）年5月に新しい校舎が完成しました。この工事は、1968（昭和43）年からはじまり4期にわけて行われました。



昭和47年ごろの校舎

運動会も大津中学校をかりて行ったこともありましたが、校舎が完成すると防球ネットがはられ、スプリングラーもとりつけられてだんだんと設備が整ってきました。

完成するまでの間は、プレハブ校舎で学習したり、図書室を区切って教室に使ったりしました。



昭和54年完成した校舎

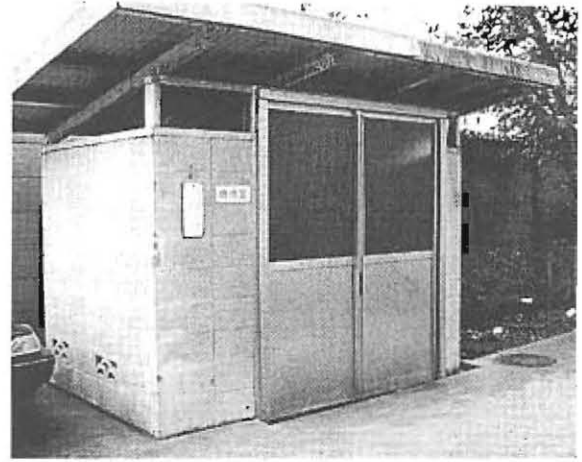


## ○交通安全教育

1976（昭和51）年から2年間、<sup>けんしつていこうつうあんぜんきょういくすいしんこう</sup>県指定交通安全教育推進校となりました。黄色い帽子をかぶって登下校するようになったのは、このころからです。

## ○<sup>ととの</sup>整ってくる学校

1983（昭和58）年には、運動場と<sup>にわかいしゅう</sup>うら庭が改修され、1987（昭和62）年には、<sup>しょうせいしつ</sup>図工で使う焼成室（<sup>ねん</sup>粘土の



<sup>しょうせいしつ</sup>焼成室

作品をやくための小屋）や<sup>かいこ</sup>石灰庫も新しくできました。

## ○ぎんなん教室

1988（昭和63）年にぎんなん教室ができました。



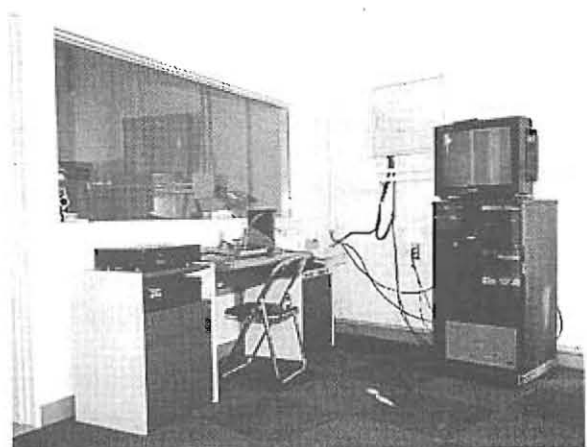
「ぎんなん」学級

<sup>しょうがい</sup>障害をもつ<sup>じどう</sup>児童も学校で学ぶことのできるように、横須賀市には、それまで14の小学校に教室が開かれていましたが、15番目の学校としてぎんなん教室<sup>たんじょう</sup>が誕生しました。

学習室、プレイルームと二つの教室の工事も行われました。

## ○きれいになった放送室

1991（平成3）年7月から、<sup>しよくいん</sup>職員室、校長室、<sup>じむ</sup>事務室、<sup>ほうそう</sup>放送室をなおす工事がはじまり10月には完成しました。床やかべが新しくなり今までより明るく使いやすくなりました。また、放送室の<sup>きかい</sup>機械も<sup>せいび</sup>整備され、テレビも新しくなりました。



きれいになった放送室

## ○視聴覚室からコンピューター室へ

1998（平成10）年に視聴覚室が新設され、児童用のパソコンが10台設置されました。その後、2001（平成13）年にはコンピューター室に改修され、児童がインターネットを使えるようになりました。現在では一人1台ずつノートパソコンを利用できるようになりました。また、2010（平成22）年には、普通教室にもインターネットを接続したノートパソコンが設置され、授業に活用されています。

## ○明るイトイレに

2001（平成13）年には、6か月に渡った第2校舎のトイレ改修が終わり、ドライ方式のきれいで明るイトイレに変わりました。障害者対応のトイレには、非常ボタンやウォシュレットも付いています。

## ○耐震工事

2004（平成16）年には、大震災にも耐えられるよう校舎の耐震工事が行われました。

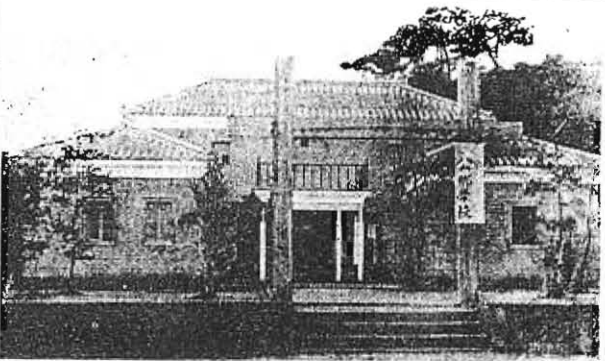
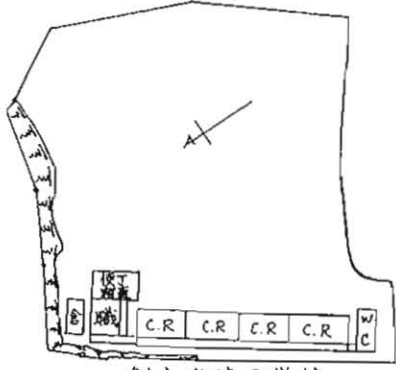
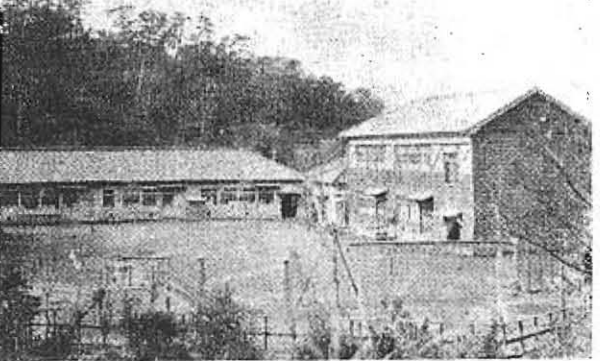

## ○エアコンで快適に

2006（平成18）年、普通教室等にエアコンが設置されました。暑い日には、35度近くまで室温が上がっていた教室でも、快適に学習することができるようになりました。


## ○裏庭に遊具が

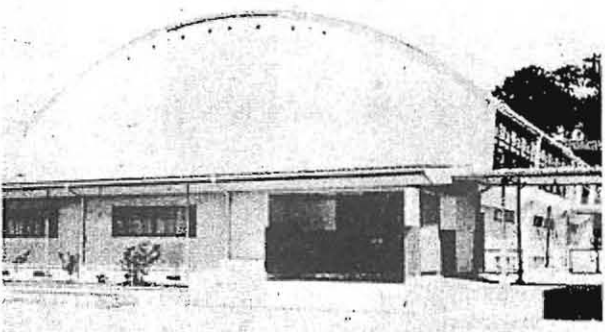
2005（平成17）年に裏庭にあった「山崎富士」が老朽化のため解体されましたが、2007（平成19）年に新しく砂場が作られ、他の遊具も新しくなりました。

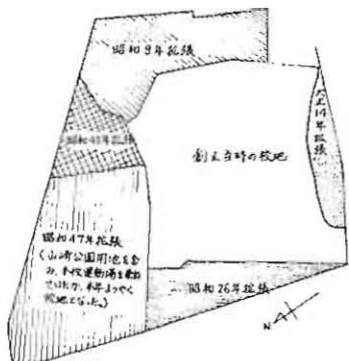


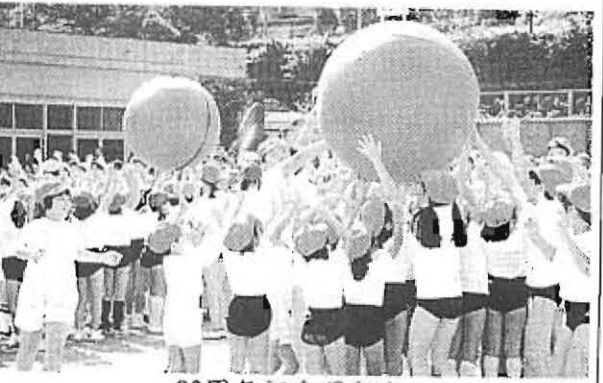
# (7) 山崎小学校のうつりかわり




年代	できごと	校舎
1912 (明治45)	横須賀市立尋常山崎小学校開校。 開校まえは、1年生は春日神社で学習。2年生以上は豊島小学校へ通学。	 <p data-bbox="859 678 1205 707">山崎小の前身 公郷小学校</p>
1913 (大正2)	二階建校舎増築。	 <p data-bbox="928 1088 1128 1117">創立当時の学校</p>
1918~ 1924 (7~13)	児童がふえ二部授業となる。	
1922 (11)	田戸小学校開校と同時に児童45名転校。 校舎4教室増築。	 <p data-bbox="897 1498 1159 1527">大正9年ごろの学校</p>
1923 (12)	校名が横須賀市立山崎尋常小学校となる。 関東大しん災。 校舎4教室こわれる。	 <p data-bbox="882 1904 1175 1933">バラック校舎と青年団</p>



年代	できごと	校舎
1924 (13)	校地がひろくなる。 991.7m <sup>2</sup> (300坪) 校舎4教室増築。	 <p data-bbox="887 618 1195 651">大正14年からの学校正門</p>
1925 (14)	講堂、13教室増築。	
1931 (昭和6)	二階建一棟増改築。	
1933 (8)	校地がひろくなる。 1,114m <sup>2</sup> (380坪)	 <p data-bbox="917 1043 1179 1077">昭和9年ごろの学校</p>
1937 (12)	山崎青年学校が開校。(併設)	
1939 (14)	山崎小野球チーム全国大会で優勝。	
1937~ 1944 (12~19)	児童がふえ二部授業となる。	 <p data-bbox="902 1480 1195 1514">昭和20年 疎開のころ</p>
1941 (16)	校名が横須賀市立山崎国民学校となる。 太平洋戦争はじまる。	
1944 (19)	学童疎開はじまる。 愛甲郡小鮎村、玉川村へ集団疎開。	
1945 (20)	太平洋戦争終わる。 集団疎開からかえる。	 <p data-bbox="887 1906 1210 1939">新しくできた給食炊事場</p>
1946 (21)	味噌汁給食はじまる。	
1947 (22)	校名が横須賀市立山崎小学校となる。 給食炊事場を作る。	

年代	できごと	校舎
1946 (23)	児童がふえ二部授業となる。	 <p>戦後の校舎</p>
1950～ 1956 (25～31)	完全給食はじまる。	
1951 (26)	校地がひろくなる。 848㎡ (257坪)	
1952 (27)	創立40周年記念式典。 山崎小学校校歌ができる。	 <p>講堂の火事</p>
1954 (29)	校舎4教室増築。	
1961 (36)	林間学校はじまる。	
1965 (40)	校地がひろくなる。 講堂と4教室が火事でやける。	 <p>新体育館 (講堂)</p>
1966 (41)	体育館兼講堂が新しくなる。 山崎富士ができる。	
1968～ 1978 (43～53)	鉄筋校舎の工事が4期に分けて行われる。  とちゅう児童がふえプレハブ教室を使ったり図書室をわけて使ったりする。  校地がひろくなる。	
		 <p>昭和47年の校舎</p>

年代	できごと	校舎
1972 (47)	創立60周年記念式典。	
1976 (51)	県指定交通安全教育推進校となる。	
1979 (54)	第4期工事終了。落成式。 防球ネット、スプリンクラー増設。 校門改修。	
1982～ 1984 (57～59)	カラーテレビが教室につけられる。  山崎富士、運動場、裏庭、給食室をなおす。  家庭科教室ができる。  米飯給食はじまる。	 <p data-bbox="947 1048 1147 1086">家庭科室</p>
1988 (63)	ぎんなん学級開級。  ぎんなん教室、プレイルームができる。  展示室ができる。  体育館、校門防球ネットを新しくしたりなおしたりする。	 <p data-bbox="954 1478 1124 1512">プレイルーム</p>
1990 (平成2)	創立80周年記念バザーを行う。	 <p data-bbox="916 1904 1147 1937">80周年記念運動会</p>
1991 (3)	創立80周年記念のうたができる。 校舎改修工事。	
1992 (4)	創立80周年記念式典。	

年代	できごと	校舎
1997 (平成9)	ダイオキシンの配慮し、焼却炉の使用を中止。	
1998 (10)	視聴覚室、準備室新設。	
2000(12)	学童保育あすなろが本校教室内に移転。	
2001 (13)	第2校舎のトイレ改修が完成。	
2005 (17)	老朽化のため山崎富士が取り壊される。	
2006 (18)	普通教室エアコン設置。	
2008 (20)	体育館前渡り廊下工事、屋上漏水工事。	
2009 (21)	校庭改修工事、裏庭遊具施設設置。	
2011 (23)	創立100周年記念式典。	

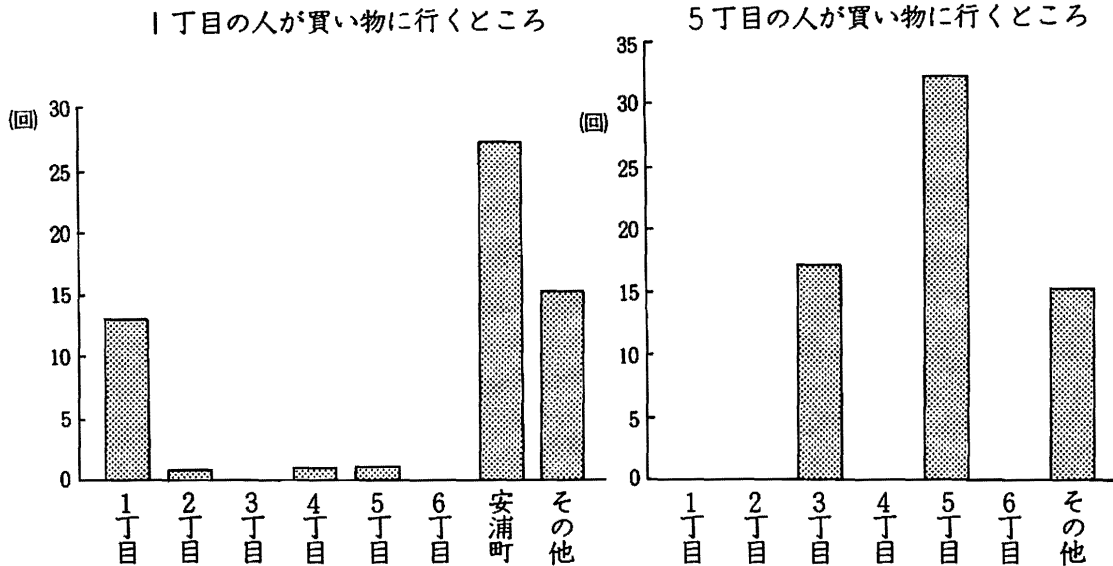


## 2. わたしたちの町

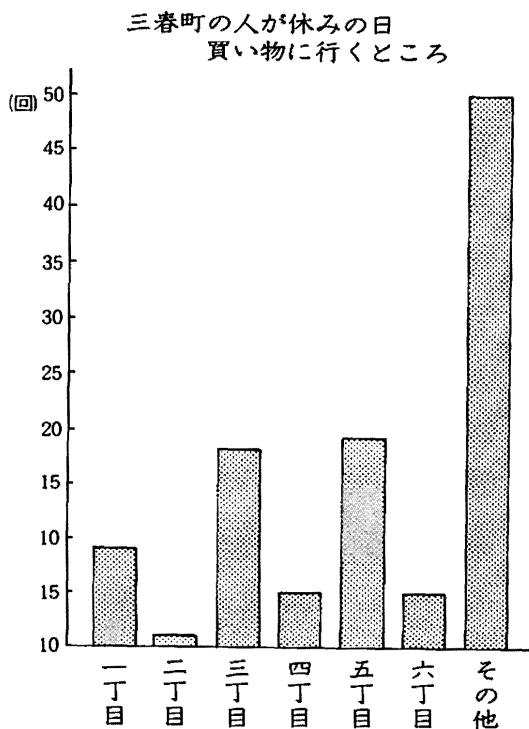
### (1) 商業

○買い物調べ

(1991年)



三春町の人、どこに買い物に行っているのでしょうか。山崎小学校の3年生が買い物調べをしてみました。その結果が上と下のグラフです。上のグラフを見ると、三春町の人、近くの店によく買い物に行っ

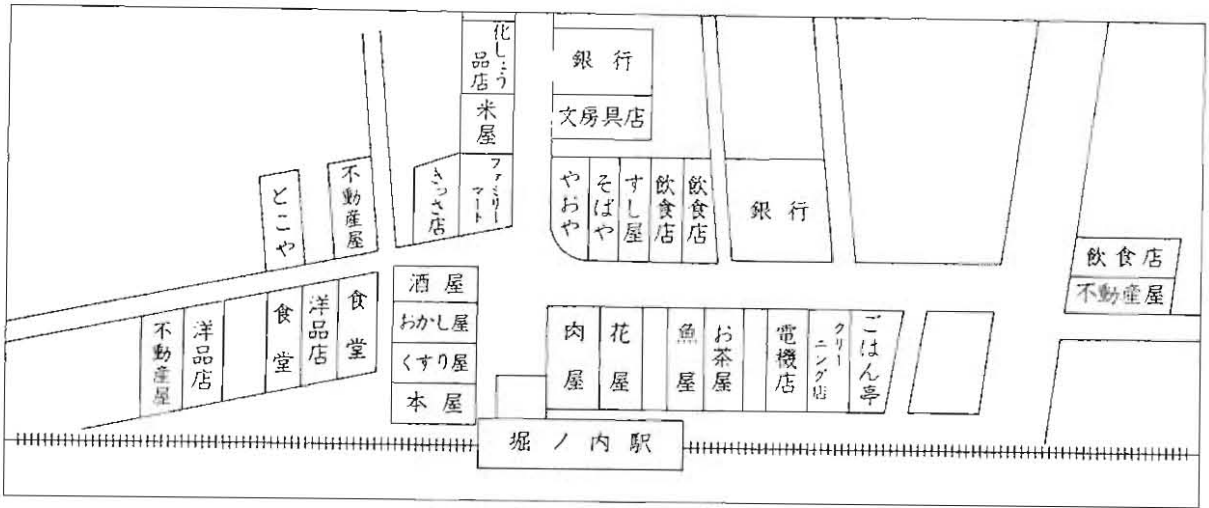


ていることがわかります。また、左のグラフを見ると、休みの日にはほかの地いきへ買い物に行く人が多くなることがわかります。

三春町の人、ふだん買い物をする店は、どの辺に多いのでしょうか。また、休みの日にはどこへ何を買いに行っているのでしょうか。

みなさんも、買い物調べをしてみましょう。

# 1991年頃の様子



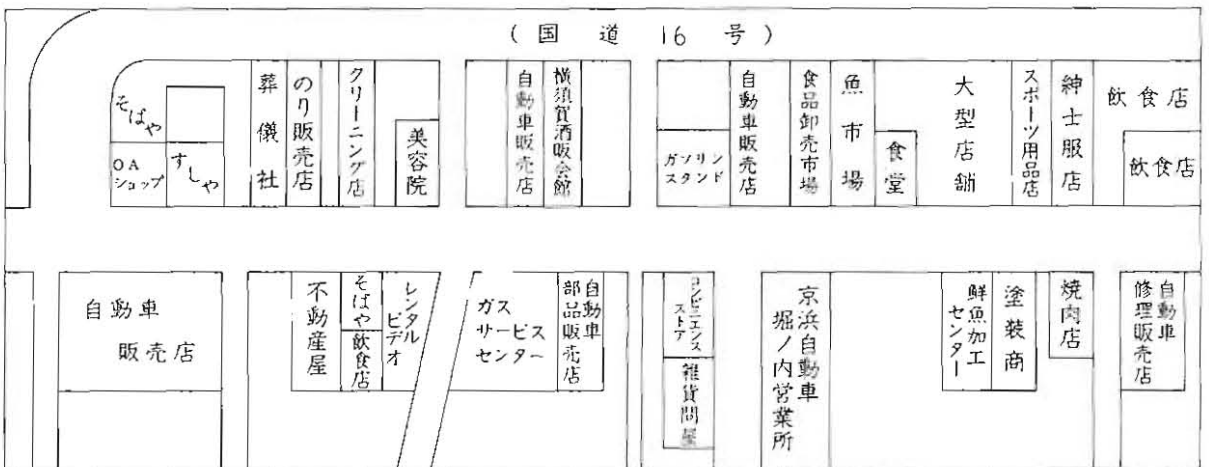
(堀ノ内 駅前の商店街)



買い物客でにぎわう堀ノ内駅前の商店



国道ぞいにある大規模店



(国道ぞいの商店街)

## ○三春町の商店が多いところ (1991年)

商店はふつう人通りの多いところに集まります。三春町では堀ノ内駅<sup>しゅうへん</sup>周辺に、銀行・本屋・魚屋・八百屋<sup>やおや</sup>などいろいろな種類<sup>しゅるい</sup>の店がたくさんならんでいます。

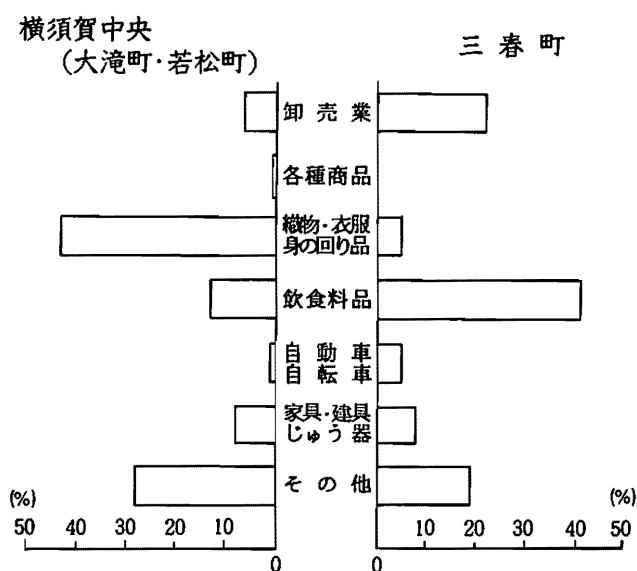
夕方<sup>ゆうがた</sup>になると、魚屋さんや八百屋さんのお客を呼ぶ<sup>よ</sup>声<sup>こゑ</sup>がひびいて、たくさんの買い物客でにぎわっています。

三春町の商店が集まっているところは、ここだけではありません。旧浦賀道<sup>きゅううらがみち</sup>にそって、商店がならんでいるところがあります。そのようすは、亀屋酒店<sup>かめや</sup>近くの信号<sup>しんごう</sup>から大津<sup>おおつ</sup>にぬける4丁目の道路<sup>りょうがわ</sup>の両側によく見られます。

最近<sup>さいきん</sup>では、国道ぞいに大きな駐車場<sup>ちゆうしやじよう</sup>を持った大規模店<sup>だいきぼてん</sup>がふえてきました。これらの店には横須賀<sup>か</sup>の各地いきからたくさんの買い物客がきています。このほかに、三春町では、商店が集まっているところがあるでしょうか。さがしてみましよう。

ではつぎに、三春 横須賀中央と三春町の商店構成の比較

町にはどれくらいの数の商店があるでしょうか。1988(昭和63)年度の横須賀市<sup>ちよう</sup>の調査<sup>きさ</sup>では135店ありました。中でも、食料<sup>しよくりよう</sup>品の店が71店と一番多く、中央<sup>くら</sup>と比べてみると三春町では、



1988(昭和63)年 横須賀市商業統計調査結果による

### 旧浦賀道

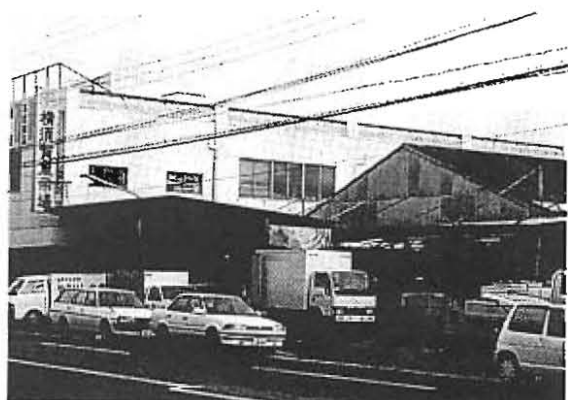
今の国道ができるまえ、横須賀北部から浦賀へ行くときに、おもに使われた

### 大規模店

ふつうの商店よりも売場の広さが何十倍もあり、商品の種類や品数が多い。また、大きな駐車場があるのがとくちょう

食料品の店の割合が多いことがわかります。

また、三春町には魚市場、青果市場、卸売り市場などがあります。魚市場には魚屋さん、青果市場には八百屋さんが、朝早くから魚や野菜を仕入れに来て、にぎわっています。



朝6時ごろ魚屋さんの車が多い魚市場

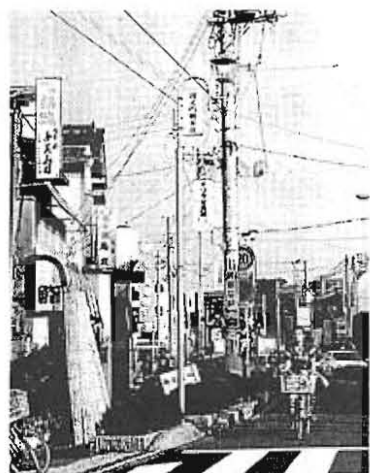
### ○三春町の商店会

三 春 商 店 会					
食料品・精肉 惣貨・菓子	何時も新鮮 野菜と果実	創業大正十一年 合資会社			
高橋食品ストア TEL (27) 3347	岩田八百屋 TEL (27) 3366	小川寝具店 TEL (27) 3333			
お買物は是非下記加					
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...

サービス券の台紙 (おもて) (うら)

うなサービス券の台紙を出しています。

堀ノ内駅近くの商店を中心にしてつくっているのが、「堀之内商栄会」です。「堀之内商栄会」では、お客さんの意見を聞く投書箱や夜



三春町の商店は集まって「商店会」をつくっています。「商店会」では、買い物客がたくさん来るように、一けんのお店ではできないことをしています。1丁目の商店でつくっているのは「三春商店会」です。「三春商店会」では左のよ

でも安心して買い物ができるように街燈をつくっています。「商店会」にはどのような商店が入っているのでしょうか。また、そのほかにどんな仕事をしているかしらべてみましょう。



## ○2010年 わたしたちの町 商業

「どこに買い物にしているか」について、20年前と現在では大きな違いがあります。それは、三春町5丁目のスーパーや国道沿いの大型店が閉店し、平成町に大型商業施設ができたことです。それと、近くに24Hコンビニエンスストアがあるということです。



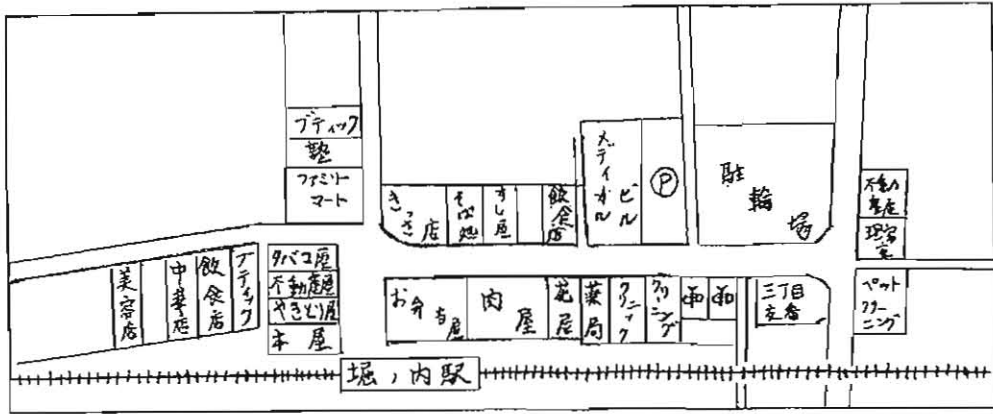
共働き世帯は、マイカーで週末に平成町の大型商業施設や中央・汐入の商業施設でまとめ買いする傾向があります。平日のちょっとした買い物は、コンビニで済ますようです。

しかし、中高年層は馴染みの地元駅前商店街に足を運ぶ傾向がみられます。

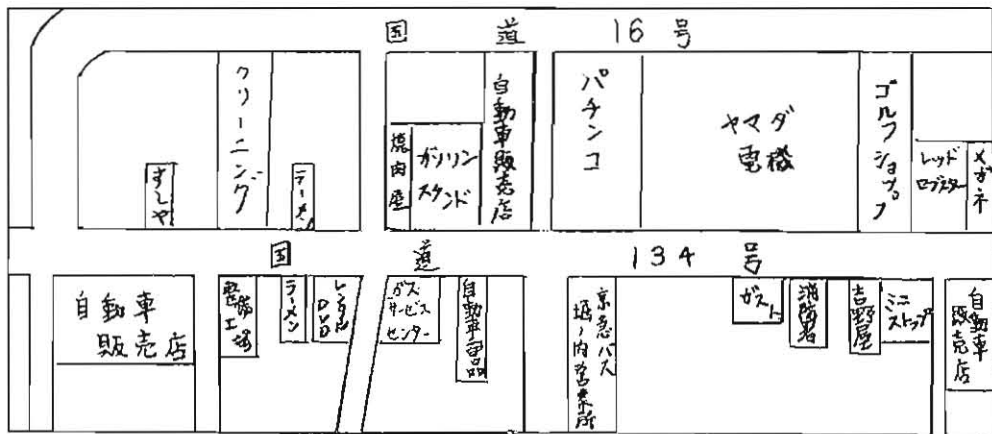


また、国道沿いや平成町の商業施設は、横須賀各地からたくさんの買い物客がきています。横須賀で一番の集客地域ではないでしょうか。





(2010年 堀ノ内駅前のお店)



(2010年 国道ぞいのお店)



## ○海辺ニュータウンの開発

横須賀市は平成4年、「よこすか・海辺ニュータウン土地利用計画」を公表しました。「職・住・遊・学」の諸機能が融合した海辺の複合リゾート都市づくりをはじめました。

それにともなって、三春町から魚市場が移されました。



## ○にぎわう三春町にある青果市場





## (2) 漁業

### ○うめたとと漁業

<sup>むかし</sup>  
昔の三春町の海は今よりずっと山崎小学校に近い所にありました。しかし、新しい町を作る計画の中で東京わんは三度うめたてられていきました。いぜんは「重箱」とよばれた<sup>やすうらこう</sup>安浦港を中心に<sup>りゅう</sup>漁に出



平成町の新安浦港にある東部漁業協同組合のたて物

ていました。今は、1984年からはじまった平成町のうめたとで安浦港もすがたを消してしまいました。かわりに三春公園のおくに新安浦港ができました。<sup>りゅうし</sup>漁師さんの家からは海が遠くなってしまったので、漁師さんは車で港にやって来て船に乗り、漁に出るようになりました。

東部漁業協同組合のたて物も新しく新安浦港の近くに完成し、漁師さんのためにいろいろな仕事をしています。

〈問〉・東部漁業協同組合ではどのような仕事をしているのでしょうか。調べてみましょう。

### ○新安浦港の漁業

港を見学してみましよう。港の中にはいろいろな物がおかれています。たくさんの船もつながっていますが、よく見ると三種類に船の形が分かれています。そびき船、さしあみ船とつり船です。



きちんとならんではいくしているそびき船



船のへ先にドラムをつけたさしあみ船

ぐらいひっぱり回します。朝早く出かけて、1日に7回ほどひきます。このような漁の方法を「そこびきあみ」といいます。

さしあみ船の前方にはドラムというさしあみをまくきかいがついています。夕方に出港し、あみがかべのようになるようにしかけます。そして、次の日の朝早く、あみをまき上げに行き、あみにささった魚をとります。このような方法を「さしあみ」といいます。

そこびき船の後ろにはクレーンのような形をしたデレッキという物がついています。そこから長いロープをたらし、あみを海のそこにしずめます。このあみで船でひいて魚をとります。1回に1時間



ワカメようしょくのいかにへ船でむかうりょうしさん

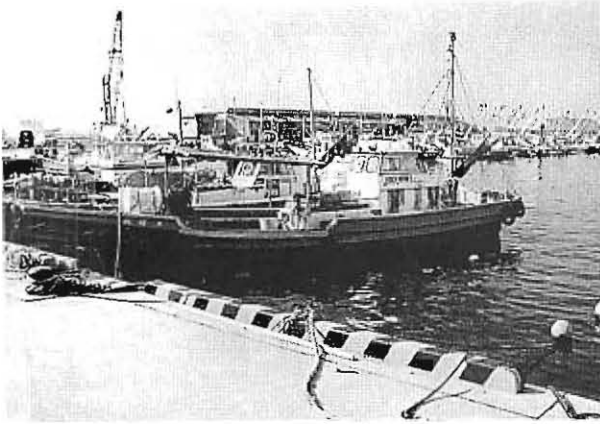


小さいアナゴを海へ返すりょうしさん

このほか、タコつぼやドカン（アナゴをとるしかけ）を1本のロープにいくつもつけて海のそこにしずめておき、後でそれらをひき上げるという漁もします。

つり船はつりをしに来たお客さんをたくさん乗せられるようになってきました。自分で漁に出るのをやめて、つり船にかわる漁師さんもいます。

漁業は天気によって左右されることも多く、雨や風がひどい時は船を海に出すことが



つり客のための屋根がついているつり船

できません。

〈問〉・漁師さんが漁をする時には、このほかにどんな苦勞くろうがあるのでしょうか。考えてみましょう。

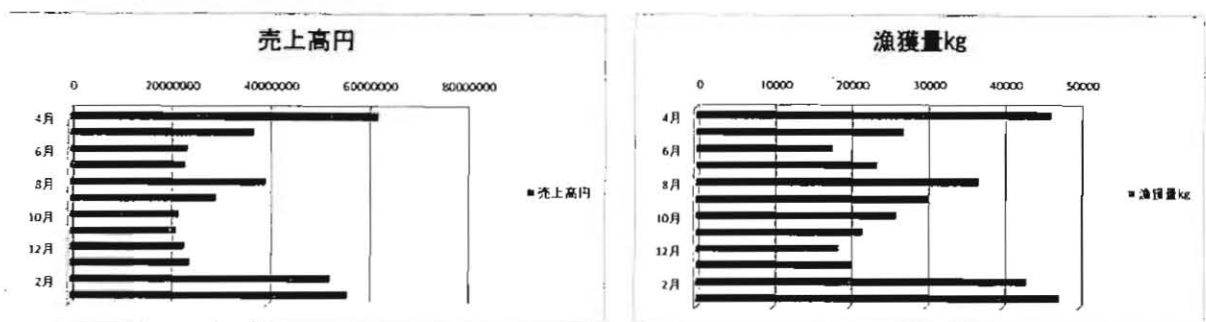
これらの船は東京わんのおきに出て行きます。追浜おっばまから猿島さるしまのおき合いで漁をします。かつての東京わんは、工場から流れ出るはい水でよごれていました。今では、工場も気をつけるようになり、海もきれいになって魚がたくさんいるよい漁場になりました。また、船にはべんりなきかいがいろいろ取りつけられるようになり、ひとりでも漁に出られるようになったり、一度にたくさんの魚がとれるようになったりしました。

けれども、たくさん魚をとりすぎて、魚がいなくなることもおこってきました。

〈問〉・東京わんでは、どんな魚がどれくらいとれるのでしょうか。

・船にはどんなきかいがあるでしょう。

### 横須賀支所 2010年度ぎょかくりょうと売上高



とれた魚はどこへ行くのでしょうか。港のすぐ近く、16号線ぞいに「丸十」とよばれる横須賀魚市場があります。しかし、そこへ運

ばれて横須賀で売られる魚はほんの少しです。ほとんどは「活魚<sup>かつぎょ</sup>」として横浜や東京にトラックで運ばれます。高級魚ということで、高いねだんで料理屋さんに取り取られています。

## ○これからの漁業

漁師さんは魚をとるだけではありません。海で魚や海草を育てています。東部漁業協同組合では、タイとヒラメのち魚は県内から、カサゴとトラフグのち魚は三重県から買っています。また、コンブやワカメ



ヒラメのち魚を海へはなすりょうしさん



くるまエビのち魚をあみに入れて  
海のそへおろすりょうしさん

のたねを買って植え付け、育てる仕事もします。春には、とれたてのワカメをロープにほしているのを見たことがあると思います。「猿島ワカメ」として有名です。

このほか、漁師さんはとった魚でも小さければ市場に出さないで、海にもどしています。

東部漁業協同組

合を中心にして、今だけでなく、これからもずっと漁業が続けられるようにみんなで考えているのです。

現在、東京わんを通る船の数はとても多

いです。1日に貨物船やタンカーなどが500せきほど通ると言われています。休日にはヨットやクルーザーのようなレジャー用の船も見



こんびらさんのほこら



かけるようになり、海の上も交通ラッシュとなってきました。そのため船と船がしょうとつするきけんも多くなり、いったん漁に出たら、きんちょうの連続です。

また、せっかく仕かけたあみを、ほかの船にやぶられたり、流されたりすることもあります。

新安浦港の中には海の神様である「こんぴら様」がまつてあります。船や漁師さんの安全を守り、魚がたくさんとれることをいのってのことです。

1991年には三春町に住む漁師さんが73人いました。毎年少しずつ人数がへってきて2010年には22人になりました。わかい漁師さんが少なく、お年よりの漁師さんの方が多いです。けれど東京わんというよい漁場をひかえているので、三春町の漁業はこれからも形を変えながら続いていくことでしょう。

〈問〉・漁師さんがへってきたのはなぜでしょう。

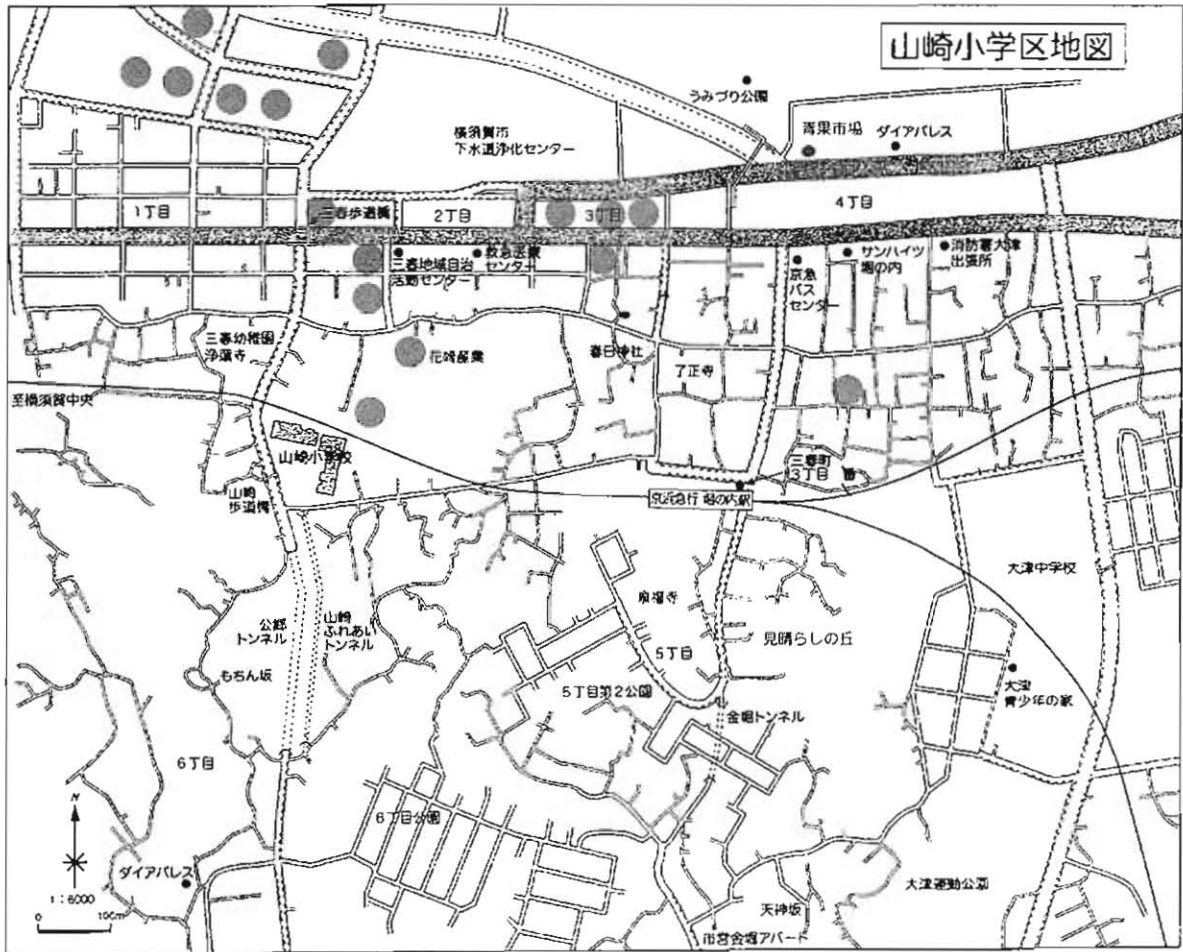
### (3) 工業（わたしたちの町の工場）

#### ① 国道ぞいの工場

わたしたちの住んでいる地いきにある工場は、おもに三春町の国道ぞいにたくさん集まっています。このあたりは、準工業地いきです。

準工業地いきとは、中小工場と住たく、事務所、商店などがいっしょにある地いきです。このほかに、工業地いき、商業地いき、住たく地いきなど、土地利用のしかたには、いろいろな種類があります。

国道ぞいの工場      ・印は工場



学区にある工場の数は、およそ20。国道沿いや平成町の工業用地にあります。

次の写真は、国道16号線の様子を三春町2丁目の歩道橋の上から4丁目方面を見て取ったものです。左側は40年前、右側は今の様子です。くらべてみると、道路も整備され、建物が増えたり、新しくなったりしてだいぶ変わってきたことがわかります。



国道16号（昭和47年）



国道16号（平成23年）

## ② 工場で働く人の数

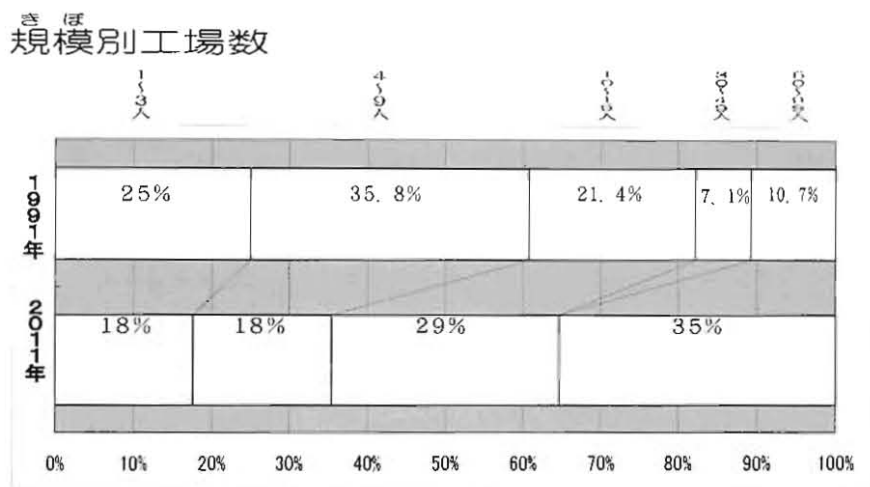
ひとつの工場では、何人ぐらいの人が働いているのでしょうか。下の表を見ると、50人～99人の中工場が一番多く、主に平成町の工業用地にある工場がこれにあたります。残りは20人未満の工場で、全体の65パーセントを占めています。

三春町の工場の従業員数

1991年		
働く人の数	工場数	割合%
1～ 3人	7	25
4～ 9人	10	35.8
10～ 19人	6	21.4
20～ 29人	0	0
30～ 49人	2	7.1
50～ 99人	3	10.7
100～499人	0	0
500人以上	0	0

2011年		
働く人の数	工場数	割合%
1～ 3人	3	18
4～ 9人	3	18
10～ 19人	5	29
20～ 29人	0	0
30～ 49人	0	0
50～ 99人	6	35
100～499人	0	0
500人以上	0	0

20年前と比べてみると、全体的に工場数は減ってきているようです。



次のグラフは、20年前と今の、学区にある工場の規模別工場数をくらべて表したものです。

グラフを見ると、20年前とくらべて、割合的には50人～99人規模の工場が増えているのがうかがえます。これは、全体的に工場が減ったことと、平成町の工業用地にある中工場が増えたことが原因であると考えられます。以前は学区には従業員10人未満の小工場が多かったのですが、時代の流れと共に減少していきました。

それぞれの工場には、どんな特色があるのでしょうか。

現在も残っている小工場では、船の特殊な部品や新幹線の部品、あるいは金属の研磨など、その工場でしか作ることでできない特殊技術をもっています。また、中工場では自動車のプラスチック部分や介護用機械の組み立て、ゲームセンターにある人気ゲーム機の製造など様々なものがあります。

このほか、それぞれの工場の作っているものや原料、材料、働いている人のようす、こまっていることや苦勞していること、工夫していること、願いなど、実際に見学したり調べたりして、くらべてみましょう。

### ③ 工場の種類

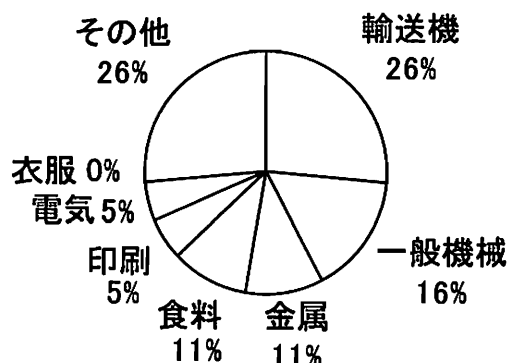
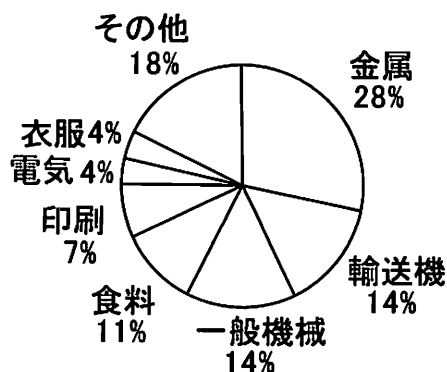
三春町には、どんな品物を作っている工場があるのでしょうか。  
20年前と比較してみましょう。

20年前の学区にある工場のおもな製品

種類	主な製品	工場数
金属	船の部品・缶 建設用の鉄骨	8
一般機械	自動車の部品・タンク	4
輸送機	船・自動車部品	4
食料	氷・豆腐・そば	3
印刷	チラシ・パンフレット	2
電気	冷蔵庫・OA	1
衣服	テント・シート・室内装飾	1
その他	家具・石油製品など	5

現在の学区にある工場のおもな製品

種類	主な製品	工場数
金属	船の部品・缶 建設用の鉄骨	2
一般機械	花粉計測装置 産業機械	3
輸送機	船・自動車部品・整備	5
食料	氷・パン	2
印刷	チラシ・パンフレット	1
電気	エレベーターの部品	1
衣服	テント・シート・室内装飾	0
その他	家具・ゲーム機	3



上の業種別の円グラフやおもな製品の表を見ると、工場数は減っているものの、機械や金属、自動車関係の工場が今も半数以上を占めているのがわかります。

しかし、20年前と違うところは、花粉計測装置やゲーム機、エレベーターに使う変圧器や介護用機械など、以前と比べると様々なものを製造しているのがわかります。

これらの工場は大工場の下請けが多く、中・小工場と大工場とが互いに協力し合い、生産向上につとめています。



#### ④ 三春町・平成町の工場

##### ○鉄工所

20年前の鉄工所のようなです。

「カーン、カーン。」「ガッチャン、ガッチャン。」「キーン」、<sup>きかい</sup>機械が動く音、<sup>てつばん</sup>鉄板と鉄板がぶつかり合う音、火花が「パチ、パチ。」とびちる音、  
近づくとたいへんにぎやかな音が聞こえてきます。

20年の年月がたって三春町の工業はだいぶ様子をかえてきました。今でも鉄工所はありますが、作っているものがかわってきました。

三春町の鉄工所は主に船や車の部品を鉄で作っていました。ところが外国の方が<sup>ねだん</sup>値段が安くできるため注文

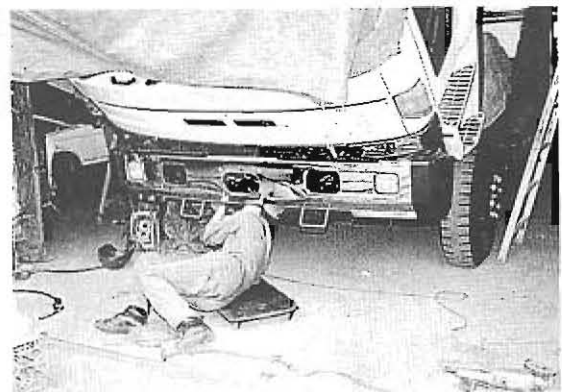


鉄工所

がへってしまったのです。しかし<sup>せいかく</sup>正確で<sup>せいひん</sup>しっかりした製品は日本ではないとできません。そこで出来上がりの<sup>きじつ</sup>期日をしっかりと守らなければいけない物や乗り物の安全を守るかなめになる部品の注文を受けて製品を作っています。

##### ○自動車整備工場

三春町は国道16号に面しています。大きな道路なのでたくさんの車が通ります。



自動車工場

そこで車の<sup>せいび</sup>整備に<sup>べんり</sup>便利な整備工場が何カ所かみられます。この工場では作っているものはありませんが、こわれた車を<sup>しゅうり</sup>修理したり、

部品を取りかえたり、検査けんさをしたりしています。こまかい機械きかいや部品がたくさんあってまちがえたらたいへんですが、工場こうじょうの人は車のことならどんな種類しゅるいの車のことでもよく知って仕事しごとをしています。また、自動車じゆうしゃの販売店はんばいてんも多くあります。ここにも工場こうじょうがあり、修理しゅうりや点検てんけんをしています。

### ○平成町の工場

平成町の工場は大きな音をたてたり、たくさんの人が働いている様子は外から見えません。何を作っているのかわからないことがあります。ビルの中に入っている工場もあります。



工場の人のお話を聞くと、ここでは他の工場では作れない特別な技術とくべつ きじゆつで製品せいひんを作っているということでした。



たとえば、新幹線しんかんせんのパンタグラフの部品を作っている工場・エレベーター

の中に入れる変圧器へんあつき(トランス)の工場・お年寄りの介護用かいごようのベッドの工場・ゲームセンターのゲーム機の工場・花粉かふん計測けいそくのための精密せいみつ機械きかいを作っている工場などがあります。

工場の面積や従業員じゅうぎょういんの数は多くはないのですが、特殊とくしゅな技術きじゆつで製品せいひんを作っていることがわかります。

## (4) 交通

### ① 昔の道 今の道

#### ○浦賀道

##### 海関奉行所

江戸に出入りする諸国の船の積荷を調べ通航許可の切手を渡していた海の関所のようなもの

1720年に伊豆の下田から海関奉行所が、浦賀にうつされると、浦賀が三浦半島の中心になりました。

1840年の記録によると、戸数は、浦賀1028戸、横須賀201戸、三崎597戸とあって、浦賀は、相模国で、小田原のつぎの第2位になっており、米、塩、酒、茶、たばこ、干鰯などの問屋がずらりとならび、たいへんにぎわっていました。

##### 相模国

神奈川県のことを、昔はこういつていた

そのため、たくさんの人びとが浦賀に出入りするのでも整えられたのです。

##### 干鰯

いわしの干したもの。問屋では、干鰯や魚油を売っていた

東海道から三浦半島へ入るおもな入り口は、保土ヶ谷、戸塚、藤沢の三ヶ所でした。

保土ヶ谷宿から磯子、金沢を通過して大津から浦賀へ来、さらに内川新田から長沢を通過して三崎まで行く道を「三浦往還」といい、このうち浦賀までの道を「浦賀道」または、「三浦中道」といっていました。

##### 東海道

江戸と京都をむすんでいた海岸ぞいのたいせつな道

戸塚宿または藤沢宿から鎌倉、小坪を通過して堀内（葉山町）に入り、ここで分かれて三崎へ行く道を「三崎道」といい、浦賀に行く道もまた「浦賀道」といっていました。

##### 2間

1間は、およそ1.8メートル

「三浦往還」「三崎道」「浦賀道」は、江戸時代の三浦半島のもっとも大事な道でした。道幅は、2間がふつうで、広い所で3間ぐらいたったそうです。

ところで、そのころ、金沢から横須賀へ出るためには

十三峠といわれたいくつもの山坂を越さなければならずその苦勞は、たいへんなものでした。そのため、ふつうは、この道をさけ、船を利用していたようです。このことが江戸時代に書かれた「三浦紀行」にもものっています。今の言葉に直してみると「横須賀から少し山を越えて浜に出る。この砂浜は、およそ1里ほど続き大津という所で、ようやく休むことができる。金沢を出てここまで5里。その間は、食事をする所もなく、あやしげな酒屋があるだけだった。これからこの浜を通ろうとする人は、必ず食料の用意をした方がよい。」とあります。

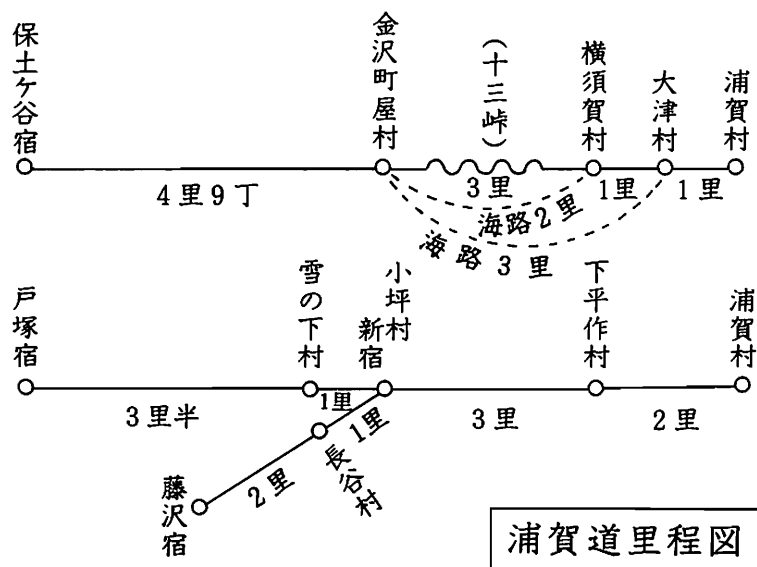
1里  
およそ4キ  
ロメートル

### 明治時代

武士中心の世の中から天皇中心になり政治のしくみや、世の中のようすが、大きくかわった

この文からわかるように、そのころの山崎、堀の内は漁業、農業を営む人びとの家が、まばらにあるさびしい村で、商家なども少ない所だったようです。

つぎの図は、この時代の村から村への距離を示したものです。昔の人びとは、これらの道を歩いて行き来しました。かごや馬を利用するのは、お金が高かったので、武士のほかは、女の人か病人くらいのものでした。



やがて、江戸時代が終わり、明治という新しい世の中になると、それまで栄えていた浦賀港が、おとろえてさびしくなり、浦賀道を通行する人も少なくなってきました。

しかし、この道は、横須賀と浦賀を結ぶ大切な道でしたので、一部が県道に指定されて残りました。また、保土ヶ谷、金沢、横須賀までが、1887（明治20）年国道45号となりましたが、一番広い道で9メートル、十三峠では3メートルしかありませんでした。

1922（大正11）年に六浦から分かれて、田浦、長浦をトンネルでぬける国道31号をつくり始め1928（昭和3）年に完成し道はばも10メートルになり国道らしくなりました。

やがてこの道は、1952（昭和27）年に、今の国道16号線になりました。

### ○浦賀道にそつて

江戸時代、横須賀に上陸した人びとは、汐入小学校わきの道を山上に登り平坂上へ出て、交番のうらから税務署うらにぬけ、聖徳寺坂を下りて、田戸赤門、安浦駅前を通過して浄蓮寺、一本松、春日神社前、砂坂、大津、矢の津坂を越えて、浦賀へと行きました。今でもみなさんが、毎日のように歩いている道は、こんなにも古い時代にできた、大切な道だったのです。もちろんまわりのようすも、今とはだいぶちがいます。道のすぐ近くまで海がせまっております、波が押し寄せてくることもありました。

赤門に向かって右すみに、1862年に建てられた円柱型の道標（道しるべ）があり、「公郷村之内大田津」「右大津・浦賀道」「左横須賀・金沢道」と刻まれています。この道標から、そのころの三浦郡田津郷の名もわかります。

#### 赤門

聖徳寺坂の京急ガード下にある永嶋家の長屋門が朱ぬりであったことから赤門とよばれていた

#### 浄蓮寺

P71参照

#### 春日神社

P70参照



## 島崎藤村

明治5年長野県に生まれた詩人であり作家。藤村の島崎家と永嶋家は、共に三浦一族の出で作品の中では主人公青山半蔵が公郷村をたずねる形で出てくる

## 仙郷

さわがしい世の中からはなれ、仙人が住むような静かで清らかなところ

## 学制

新しい世の中になり国民みんなが学校教育を受けるようきめられた、日本で最初の学校制度

## 学舎

学校のこと

## 寺子屋

江戸時代、読み書き、そろばんなどを教えていた所おもに寺

また、田津が田戸と変わってきたことも考えられます。

この赤門のある永嶋家へ、島崎藤村が訪れたのは1929（昭和4）年のことで、そのときの田戸の印象を有名な「夜明け前」という作品の中で、つぎのように書いています。

「木曾の山の中で想像していたとは大違いなところだ。長閑なことも想像以上だ。ほのかな鶏の音が聞こえて、漁師達の住む家いえの屋根からは、静かに立ち昇る煙を見るような仙郷だ。」

この文章を読むと、このころのこのあたりの人びとのくらしのようすがわかります。

つぎに、浦賀道にそってあった、おもな建て物や名所を調べてみましょう。

### <公郷学校>

日蓮宗浄蓮寺の左となりが、1877（明治10）年に建設された公郷学校があったところで、そのころの地番は、公郷村山崎1714番地でした。

1872（明治5）年、全国に学制がしかれると、寺子屋だった浄蓮寺本堂も、公郷学舎として生まれかわりました。やがて、この本堂では、せまくなってしまったため、

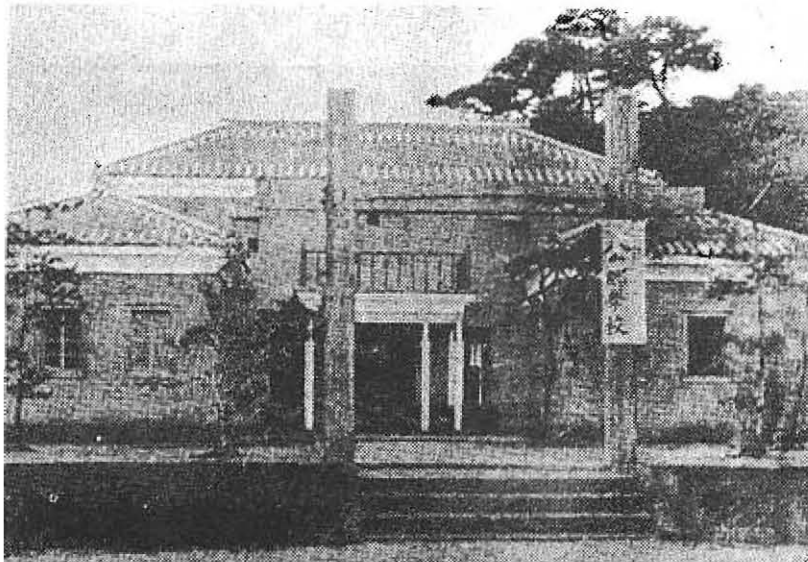


赤門の永嶋家

永嶋庄兵衛

永嶋家は、江戸時代には名主として、代々庄兵衛を名のっていた

1876（明治9）年に、公郷村の永嶋庄兵衛、石渡養泰などが、村の人たちと相談してお金をつくり、浄蓮寺東どりの土地を買いとって、11月から工事にかかりました。



当時の公郷学校



公郷学校跡の立札

冠木門

2本の柱の上に1本の横木をわたすだけで屋根のない門

1銭

米のねたんなどをもとに今のお金に直してみると、1銭は、およそ60円ぐらいになる

新しい校舎は、1877（明治10）年3月に完成し木造2階建、瓦ぶきのりっぱな洋風建築の校舎で浦賀道ぞいの入り口には、冠木門が建っていて、そこには「第一学区第十中学区五十八番小学公郷学校」という標札がかかっていました。広さは、およそ193平方メートルで、8教室と教員室、小使室、便所があり、かかった費用は、1,375円25銭でした。その年の5月28日に開校式を行いました。そのころの児童は81人で教員は4人でした。そまつな村の中で、とてもりっぱな建物でしたので、そのころの川柳に「学校だけ瓦屋根なり桃の村」とうたわれています。

〈一本松〉

公郷学校あとを過ぎ、旧浦賀道を進むとまもなく「一

本松」といわれるところに出ます。公郷トンネルへと向かう車道と交差したところで、三春町1丁目29番地にあたります。

「一本松」といわれる老松は、旧道の端の波打ちぎわの近くにありました。

木の太さは、直径40センチメートル、高さは6メートルほどだったといわれます。この松にちなんで、このあたりを「一本松」といい乗合馬車の立場ともなり、土地の人やここを通る人たちから、親しまれてきました。



一本松乗合馬車立場跡

この「一本松」を境に、堀の内よりを山崎東の里、安浦よりを山崎西の里といい、江戸時代の終わりごろは、東の里に26戸、西の里に17戸の家が、農業や漁業をしながら、くらしていました。

しかし、その後、浜辺の埋め立ても行われ、戦争中には、建物疎開や道幅を広げることなどで、この人びとに親しまれた「一本松」も失われてしまいました。

### ○そのほかの昔の道

浦賀道のほかにも、昔からの道は残っています。

堀内車庫から5丁目南に山越えでぬける道と、春日神社から日隈医院横へ出て、120段を登り6丁目公郷トン

### 立場

馬方の休けい所であり、馬車の発着所でもあった。立場には、のりまき、煮魚などの昼食を5銭ぐらいで売っていた所もあり、街道の人々に親しまれていた

### 建物疎開

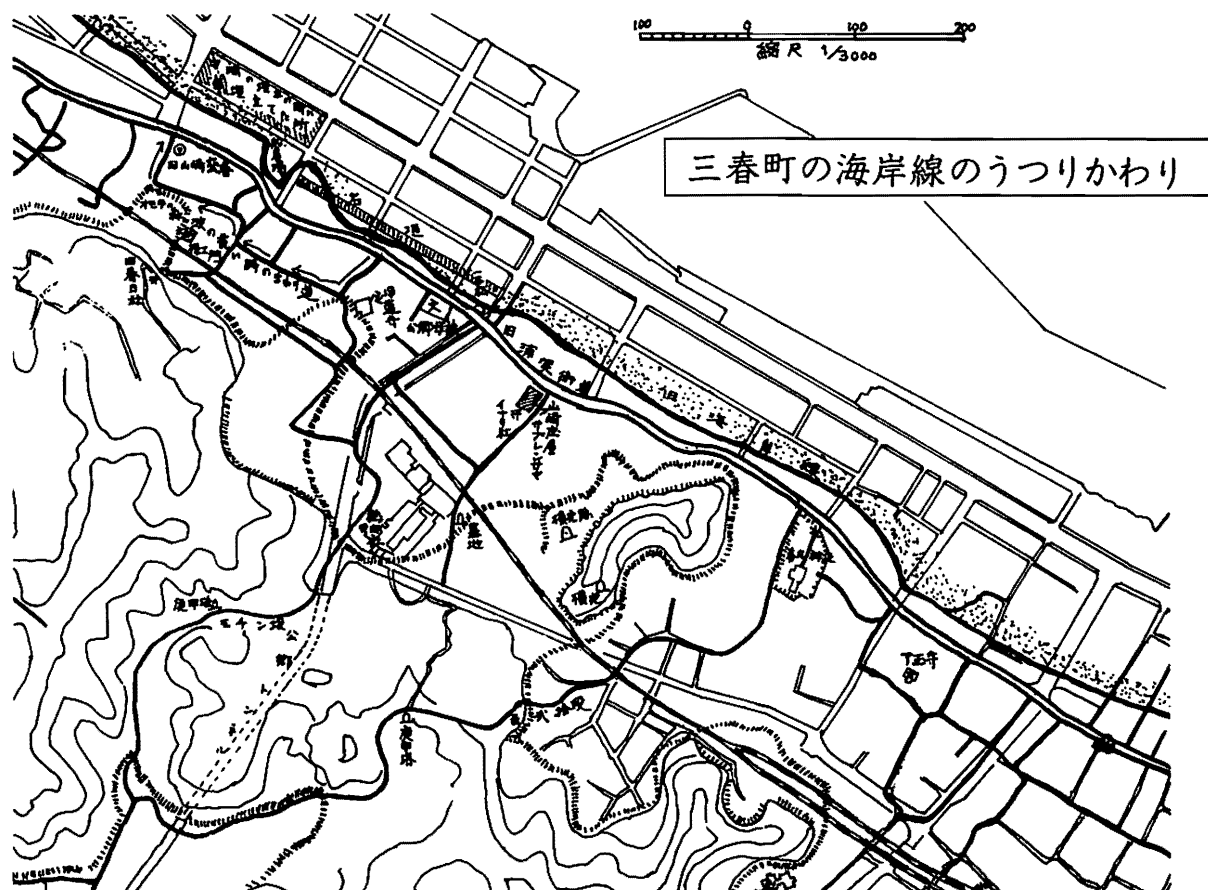
戦争中、空しゅうなどにそなえて、建物などをとりこわすこと

ネルをぬける道。また一本松から学校前を通り、モチン坂をぬけ春日神社からの道とトンネルのところでいっしょになって<sup>かりがね</sup>神金へぬける道、モチン坂から富士見町へぬける道の4本が古い地図に出ています。モチン坂にある<sup>こうしんとう</sup>庚申塔（P73参照）からも、この道が江戸時代からあったことがわかります。

これらの道は、どれも山越えのせまい坂道で不便だったのですが、1936（昭和11）年、はば5.5メートルの金堀トンネルが完成。1953（昭和28）年には、公郷トンネルが完成したことで<sup>きぬがき</sup>衣笠方面へぬけるのに<sup>べんり</sup>便利になりました。

わたしたちが、毎日歩いていた道は、古い歴史を持ち、たくさんの人びとが、さまざまな思いを胸に通った道だったのです。

昔の人びとの<sup>くろう</sup>苦労や、<sup>たび</sup>旅のようすなどを思いうかべながら歩いてみたら、波の音や馬車のひずめの音が聞こえてくるかも知れません。



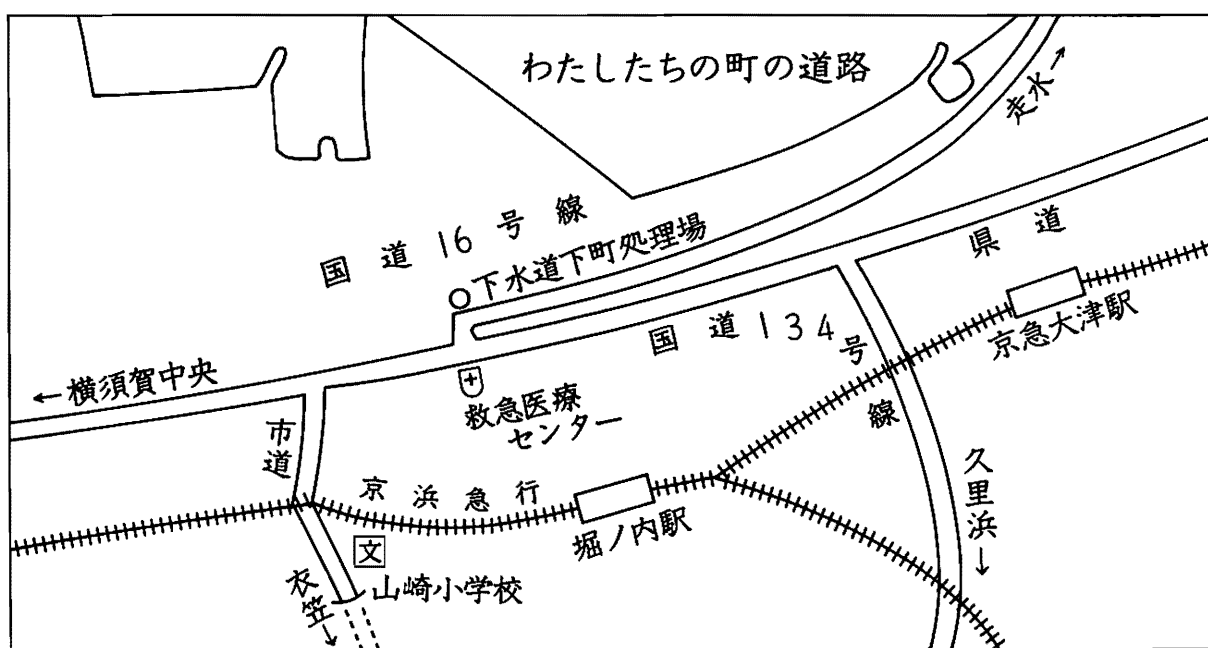
## ○今の道

三春町は、交通のだいじな地点といえます。それは、横須賀中央方面から救急医療センター、下水道下町処理場を通り海岸ぞいに走水へと続く国道16号線、救急医療センターの先から大津町を通り久里浜へのびる国道134号線と、三春町2丁目から学校の下を通過して衣笠へとぬける市道の三つの道路のつなぎめになっているからです。

40年ぐらい前の国道16号線は、救急医療センターの横を通りまっすぐにのびていました。しかし、まわりの町の開発が進み、人口がふえ、交通量もふえたので、1975（昭和50）年、今の16号線の道すじになりました。この道路は、車道の上り線と下り線のあいだに木が植えられています。

これからの道路は、車中心でなく人間をだいじにして、人間が歩いても気持ちがいよいよ歩道を広く、安全で緑豊かにつくられていくそうです。

今後、東京都をはじめ、神奈川県、千葉県の東京湾ぞいを道路でつなげようという大きな計画もあるようです。



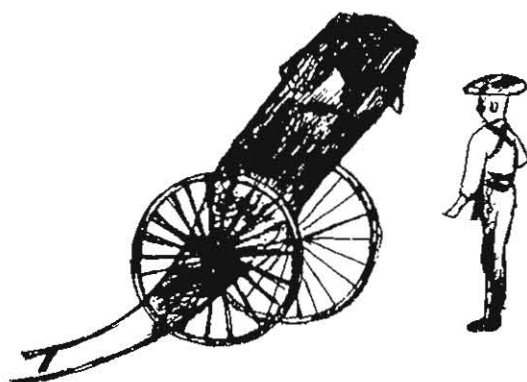


## ② 乗り物のうつりかわり

昔は、どのような乗り物があったのか調べてみましょう。

### ○人力車

人力車は、明治時代に、今のタクシーのような役目をしていました。今からおよそ135年前の1876（明治9）年には、横須賀市全体で74台しかありませんでした。医者や病人、身分の高い人などが利用することが、多かったです。人力車をひく人を、車引きとか車夫とよんでいました。

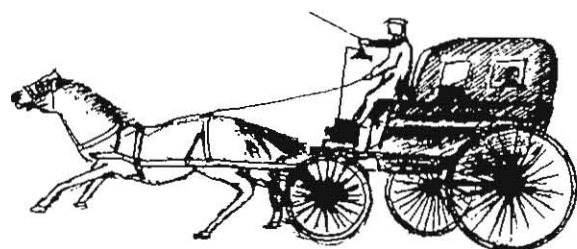


人力車

### ○馬力・牛車

馬力・牛車は、人が荷物を運ぶために馬や牛の力をかりたものです。明治時代の生活において、だいたいの役目をはたしていました。馬力屋というしょく業の人もいて、こん礼の荷物を運ぶときには、馬にもきれいな衣しょうをつけ、すずを鳴らして道を通りました。牛車は、田や畑をたがやすときに、その力を利用されました。牛や馬が道路を通っていたので、ふんを見かけることもありました。

### ○馬車



馬車

乗合馬車は、明治時代の後半から大正・昭和にかけて、バスのような役目をしていました。1897（明治30）年に、石川勝蔵さんが、さいしょは5台で開業したそうです。この石川馬車は、今の京急堀

ノ内駅下あたりに立て場があったそうです。日光や雨などをふせぐためのおい（ホ口）がついていて、長いすが2列、まどは片がわに2つあり、6・7人乗るとまん員になったようです。浦賀案内記には、午前6時30分から午後8時30分まで15分ごとに運転しており、浦賀から横須賀までの料金は、13銭（ただし、雨の日や夜間は15銭）という広告がのっています。今のようないりゆう所はなく、手をあげればどこでも止まって乗せてくれましたし、おりることも自由でした。この馬車は聖徳寺坂下が活動の中心になっていました。

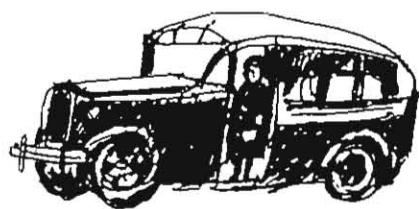
それは、ここに石川さんの家があったからです。近くには田戸坂があり、田戸庄（永嶋庄兵衛）の赤門がありました。乗合馬車の料金は、浦賀から堀之内までが7銭、山崎までが8銭でした。山崎から浦賀造船所に通う人なども、雨の日などにはこの馬車を利用していたようですが、晴れの日には、歩いてしまう人の方が多かったようです。また、一本松の根に車りんが当たり、馬車ごとたおれてしまうといった事故も多かったそうです。

乗合自動車が走るようになってからは、きょうそうとなり、馬車が道のまん中を走って、乗合自動車の通行のじゃまをしたこともあったようです。この馬車も、1928（昭和3）年まで31年間つづいたのですが、やがて乗合自動車がふえて、なくなりました。

## ○乗合自動車

乗合自動車は、およそ90年前の大正時代の終わりごろ登場しました。ほとんどの人は、堀之内から乗って、横須賀駅へ行ったりしました。大正から昭和の初めの乗合自動車は、10人くらい乗るとまん員になるほど車体が小さく、タイヤには、ほうきに似たどろよけがついていました。エンジンは、取りはずしのできるぼうをさしこんで、時計方向

に手でまわしてかけました。ていりゅう所もなく、手をあげるとどこでも止まってくれました。車内では、車しょうさんが黒いカバンを前にさげ、りょう金を受け取っていました。ワイパーもなく、雨や雪の日は、前方がよく見えなかったので、運転はたいへんでした。また、ゆれもはげしく、気持ちが悪くなる人もかなり出たそうです。運転手さんの苦勞がつたわってきます。



乗合自動車

### ③ わたしたちの町の駅とバス営業所

#### ○堀ノ内駅

京浜急行の電車がわたしたちの学区を横切って走っています。堀ノ内駅は、浦賀方面へ行く線と京急久里浜方面へ行く線とにわかれる駅になっています。今では、京急久里浜方面へ行く線が三崎口ま



堀ノ内駅

で延長されたこともあって、朝夕は通勤通学の人たちの乗りかえや、この駅で乗り降りする人などでたいへん混雑しています。堀ノ内駅は、乗りかえの駅としてだいな駅です。また、わたしたちの町にある身近な駅として多くの人に利用されています。

この堀ノ内駅がはじめてできたのは、1931（昭和6）年でした。そのころ、下りは浦賀方面へ行く線だけが通っていました。駅名は「横須賀堀内」といって、駅の場所は佐藤タバコ店あたりにあってとても小さな駅だったそうです。その後、1942（昭和17）年に久里浜方面へ

行く線がつくられ、浦賀方面へ行く線とわかれる駅とするために駅の場所を浦賀寄りにおよそ0.18キロメートルうつし、今の場所になりました。そして、1961（昭和36）年に「堀ノ内」という駅名になりました。

京浜急行の1日の利用数(人)		電車の運賃のうつりかわり(円) (大人ひとりの運賃)		バスの運賃のうつりかわり(円) (大人ひとりの運賃)		
	堀ノ内	堀ノ内 横須賀中央	堀ノ内 横 浜	堀ノ内 米が浜	堀ノ内 観音崎	
昭和45年	11,860	62,388	30	130	30	40
昭和53年	18,448	74,023	80	310	110	150
平成元年	15,758	77,852	100	360	160	230

### ○堀内バス営業所

学区の三春町4丁目にはバスの営業所があって、今は43台（そのうち8台が貸し切り）のバスをもっています。

この営業所では、JR衣笠駅、立野団地、防衛大学、観音崎、JR横須賀駅など、わたしたちの町の道路を走っているバスをはじめ、浦賀駅から出るバスの運行もしています。

これらの路線バスのうちで、浦賀駅—観音崎間は電車が通っていないので、たくさんの人たちに利用されています。また、日曜祭日には、観音崎や走水などを通るバスは観光客にたいへん多く利用されています。そして、日曜祭日だけに運行されるバスもあります。



堀内バス営業所

## ○2010年の道

海辺ニュータウンの開発により、16号より海沿いの道がつけられました。





○2010年の国道16号



## ○2010年の堀ノ内駅

20年前と駅舎や駅前は変わりませんが、ホームが新しくなりエレベーターなどが設置されました。



京浜急行 1 日の利用数 (人)

	堀ノ内	県立大学	横須賀中央
2003年	6679人	5690人	35884人
2007年	6657人	6232人	35429人

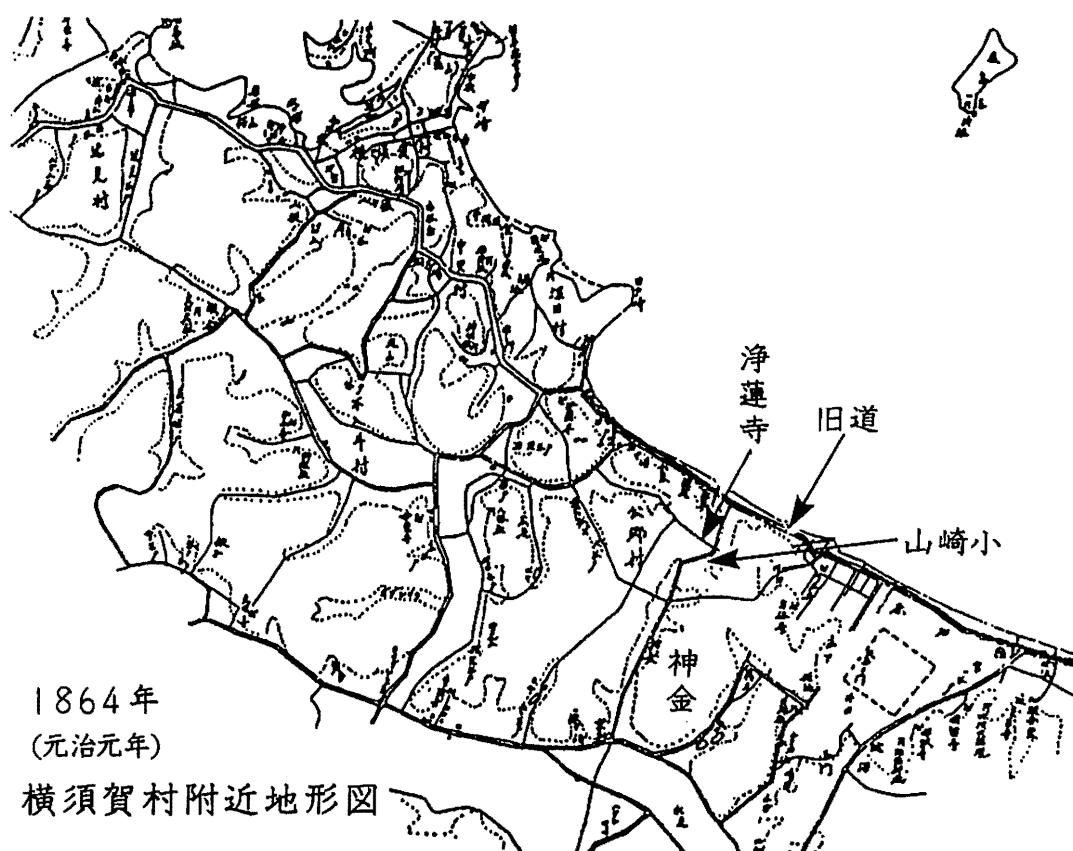


## (5) 土地の開発

### ○海

学校の正門を出て国道16号線に行く途中に浦賀道という旧道があります。この道は聖徳寺の坂から、県立大学駅の前を通り、浄蓮寺、春日神社へ続く細い道で、今では一方通行になっています。ここには、クリーニング屋、たたみ屋、とうふ屋など昔からある個人商店が見られ、近代的なチェーン店の立ち並ぶ商店街とは様子がちがいます。

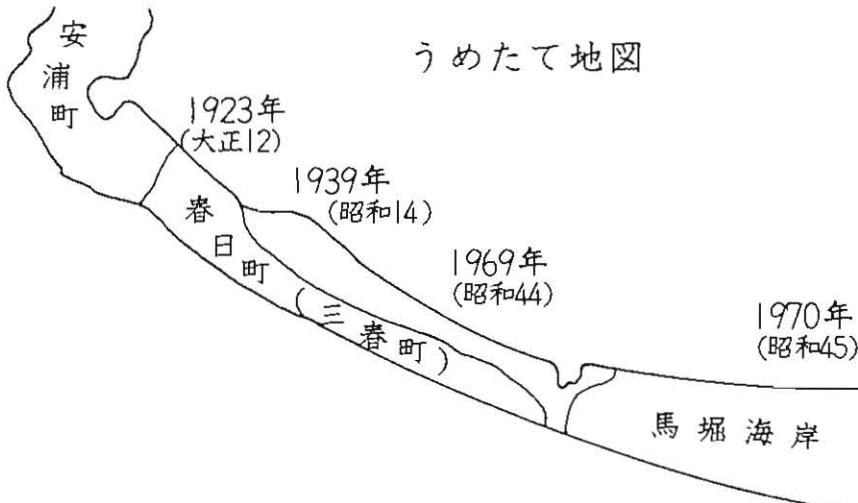
下の地図を見ると、旧道より東は海だったことがわかります。今から147年も前のものです。



その後、今のようにうめたてられました。うめたて前の様子はどんなだったでしょう。「横須賀案内記」(大正4年刊)によると、「公郷の海に沿う一帯を、田戸、山崎、堀の内という。弓形になった長い浜辺は大津から走水に続き、後ろには絵のような猿島が見え、海

あさは浅く、波は高くなくて、夏はよい海水浴場である。」と書かれています。

しかし、この海岸線は、1923（大正12年）に安浦町のうめたてが



できたことにより、大きく変わりました。こんな工事で、たくさんの方が命を落としました。その供養塔が安浦公園にあります。昭和

になって、三春町から、馬堀海岸へと開発がすすみ、住宅や大型店なども増えてきました。

### ○平成町のたんじょう

学校からながめる東京湾のけしきもずい分変わりました。横須賀市は、およそ545億円の費用で1984（昭和59）年10月から8年以上の歳月をかけて海岸線のさらなるうめたて工事を行いました。

市はなんのためにこのようなうめたてを行ったのでしょうか。

横須賀市は、小高い山や丘が多い半島にあるため、建物がたてられる土地がかぎられています。住宅や工場もせまい土地に作るしかありません。また、港であつかう貨物の量も昔とくらべ増えてきましたし、新しい道路も必要に



うめたて工事



ふくごがた  
複合型スーパー リヴィン

なってきました。このようなことから、土地を広げ、港や道路を整備し漁業にとって大切な海のかんきょうを守ろうという計画で、工事がすすめられたのです。

うめたて工事は1992（平成4）年11月に完了しました。うめたて面積は約58ヘクター

ルで、山崎小学校のおよそ58倍にあたります。

新しくできた土地には平成町という名前が付けられました。横須賀市は商業・工業・住宅・公共施設の機能が合わさった「よこすか海辺ニュータウン計画」にのっとる町作りを進め、今では県立保健福祉大学や山崎小の子どもたちも住むマンション群、大型ショッピングセンター、各企業の工場など、たくさんの建物が立ち並ぶ近代的な町並みが広がっています。



ソフィアステイシアなどの大型  
マンション



県立福祉大学



## ○山

京けい浜ひん急きゅう行こう堀ほりノ内うち駅えきの南西には、三春町5丁目の新興住宅地しんこうじゅうたくちが広がっています。このへんは、今から40数年前までは、スギ・ケヤキ・クリ・クヌギ・ハゼ・ヤマザクラ・オオシマザクラ・マテバシイ・スダジイなどの木々が、うっそうとしげ繁おかった丘のような山でした。

春には、サクラの花が、山(丘)全体を白く染めるほど咲き、メジロ・ウグイス・コジュケイなどの野鳥の鳴き声がきけました。

夏は、セミ・クワガタ・カブトムシすがたが姿を見せ、秋には、クリ・ムラサキシキブ・トベラ・マユミなどの実が、きれいに色づき、また、三浦半島独特の潮風はんどうどくとく しおかぜに当たった茶褐色の紅葉ちゃかっしょく こうようを見ることもできました。

冬には、落ち葉が地面をおおい、その上を歩くと、やわらかく、あたたかみが伝わってきました。そこは一年を通して、子ども達のぜっこうの遊び場になっていたようです。

また、谷戸やと(山と山にはさまれた、谷底の平地)には、わき水があり、メダカやサンショウウオもいました。

この地域ちいきに宅地造成たくちぞうせいの開発工事が始まったのは、1967(昭和42)年ごろからです。山はだをブルドーザーなどの機械きかいを使ってけずりだし、1976(昭和51)年までの9年間に、山のようすや形は大きくかわり、面積12.2ヘクタールの住宅地じゅうたくちとなりました。

京浜急行電車の駅に近く、東京や横浜つうきんに通勤するのにたいへん便利べんりなので、東京・横浜・川崎方面からたくさんの方が移うつってきました。

山崎小学校のおよそ1/3の子どもが、三春町5丁目から通学していました。

周辺は、階段や坂の多い住宅地ですが、マンションも建てられ、商店街もあります。百丹・日立団地などと、開発した業者名で呼ばれているところもあります。三春5丁目に続く6丁目は、古くから山頂まで開かれて家が建てられていたため、宅地開発は部分的に進められてきました。

その後も、山の斜面に鉄柱を建て、まわりをコンクリートでかこみ、土を盛るなどして、家が建てられました。このように、新しく開発がすすめられ、町内の様子は大きく変わってきました。

1992（平成4）年には、公郷トンネルのわきに歩行者専用のトンネルを掘る工事が始まり、1996（平成8）年には完成しました。全長293.8メートル、幅4メートルのトンネル内は、ギャラリーとなっており、近隣の小中学生や地域の方々の作品がされ、市民の憩いの場にもなっています。



## (6) 歴 史

### ① 山崎小学校の由来

山崎小学校は、1912（明治45）年に開校されましたが、「山崎」という名前は、そのころの地名をとり、つけられたのです。

「山崎」という地名は、全国いろいろな場所にあります。横須賀市史には、「海岸の岬角を意味している。」と書いてあります。また、地名の辞書には、「地形丘山の出さきなるを以って名づく。」と書いてあります。ですから、山のつき出たはしという意味らしいのです。

### ② 町名のうつりかわり

古くは、公郷村と呼ばれていたこの町も、1889（明治22）年、市町村制がじっさいに行われてから、豊島村、豊島町、そして横須賀町となりました。その後、1907（明治40）年、市制がしかれて横須賀市が生まれました。この時、公郷は大字、山崎・堀の内は小字名として残りました。

この後、大正末から昭和初めにかけて、埋立地の造成によって、山崎1丁目から4丁目ができました。

そして、1935（昭和10）年、今までの山崎町を、春日神社の社名をとり、春日町と改めましたが、1948（昭和23）年4月にはじまった町名町界地番整理調査委員会によって、1950（昭和25）年6月、安浦町、公郷町の一部を含めて、三つの町の三と春日神社の春の一字をとって三春町となり、今の町名になっています。

埋立ての前の海岸は、夏は海水浴客でにぎわう浜でした。ちょうど今の堀内車庫のあたりで泳いでいたのでしょう。けれども、今は埋立ての下にうずもれて、昔のおもかげはありません。また、山崎・堀の内の地名も、学校名と駅名に残るだけとなりました。

### ③ 史跡

史跡というのは、歴史（世の中のうつりかわり）を知るのにだいじな建物や名所をいいます。わたしたちの住む三春町には、どんな史跡が残っているかしらべてみました。みなさんも、これを参考にして自分でたずねてみるとよいでしょう。

大むかし、わたしたちの祖先は、石や土などで道具を作り、おもにかりや漁をしてくらしていました。貝塚は、そのころの人びとが食べたあとの貝がらやけものや魚の骨などをすてたところですが、横須賀でも夏島貝塚、平坂貝塚などが見つかっています。しかし、この地いきでは、まだそのころほとんどが海で、人間は住んでいなかったようです。

やがて、米作りがはじまると、だんだんに勢力をもつ人が現われ、大きなおはかを造るようになりました。それを古墳といいます。横須賀には、池田町の大塚山古墳、久里浜の金比羅山古墳などがあります。

三春町には、大きな古墳はみあたりませんが、そのころ造られたと思われる横穴古墳がいくつかあったことから、人が住むようになってきたことがわかります。

仏教がさかんになってくると、この地いきにもお寺が建てられるようになりました。浄蓮寺、泉福寺などは、今からおよそ600年ほど前に建てられたといわれる古いお寺です。

その後、江戸時代（今から350年ほど前）になると、了正寺が建てられました。そのころから、庚申信仰（P.73参照）がさかんになり、庚申（病気などから守ってくれる守り神の像）をほったり、村人の名前がかかれた塔が作られました。三春町にもモチン坂に残っています。

しかし、そのころの山崎、堀の内は、漁業や農業を営む人びとの家

がところどころにあるさびしい村だったようです。(P.48、P.52参照)

夏まつりや初もうででにぎわう春日神社は、はじめは猿島さるしまにまつられていました。いつごろ建てられたのかは、はっきりわかりませんが、今の場所にうつったのは、1909(明治42年)のことです。

### ○横穴

この地いきには、古墳(昔のはか)はみあたりませんが、横穴あなは数か所にありました。その中の一つは、三春町2丁目の日隈医院ひぐま いんの横道を入りすぐの山の中ほどにありました。入口はすでにくずれてしまっていますが、ほぼ1.5メートルぐらいあり、そこからななめ下に奥行おくゆき4メートル、巾はば3メートルぐらい堀ほられた横穴だったようです。

このほか、この山の北側がわ、今の花崎産業はな さき さんぎょうのある所が、山崎の埋立てでけずりとられる前には、そこにも山崎横穴といわれた横穴があって、いろいろな出土品がありました。

### —— 古老の話 ——

私が子供どものころ、人が立って歩けるぐらいの穴がありました。土地の人は、横穴などにきょうみがなく、穴の中に入ることなどありませんでした。穴は地面より2メートル以上いじょう高い所にありました。

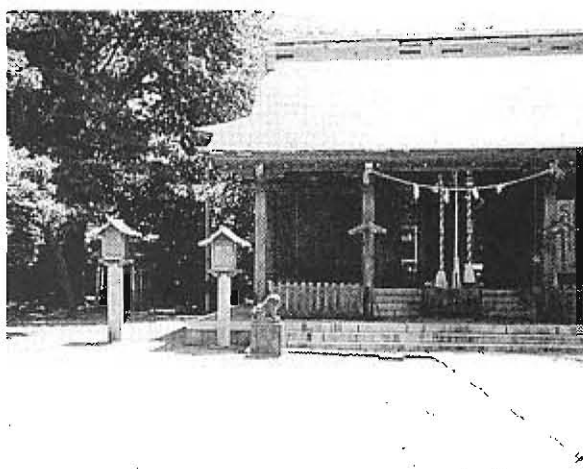
そのほか、旧山崎交番きゅう(三春町1丁目45、青柳菓子店東あおやぎ か してんとなり車庫)のうら手にも横穴はありました。今、この辺へんはほぼ平地になっていますが、古くは山が海に張り出していたらしく1912(明治45)年ごろまで「オモテの森」と呼よばれ、1864年ごろの地図にも近くに「腰越こしごえ」という地名が記録されています。

この横穴も今はまったく昔のおもかげを残していません。

## ○春日神社

いつごろ建てられたかは、はっきりしていませんが、春日神社は猿島に社殿（神社の神体を祭<sup>まつ</sup>ってある建物）があったために遠いので、1801年11月に堀の内に拝殿（神社で拝むために本殿の前に建てた建物）を建ててそこから猿島の社殿を拝みました。その後1885（明治17）年に土地や立木が国のものになり立ち入りは禁止されてしまいました。

そこで同じ年に猿島にあった社殿を富士見町への登り口にうつし、さらに1909（明治42）年8月に現在地にうつし山崎、堀の内付近の14社をいっしょにしました。今、学校の校地になっているところにも神社があったそうです。江戸時代以来、植えられていた松の大木



春日神社境内と社殿

も、1951（昭和26）年に松くい虫の被害を受けて、切り倒されてしまい、今は切り株だけが残っています。

## ○猿島と日蓮伝説

猿島が昔「豊島」と呼ばれていたころのお話です。房州（千葉県）から、日蓮というお坊さんが、鎌倉をめぐり舟出しました。はじめのうちは波はおだやかでしたが、沖へ出たころから突然風と波が荒くなり、舟の底に10センチメートルぐらいの穴があいてしまったのです。穴からは海水がどんどん入ってきます。乗っていた人びとはおどろきあわてました。その時、日蓮はおちついたようすで舟のへ先に立って、海面に向かい「南無妙法蓮華経」ととなえて祈ったところ、風も波も静まりました。そして猿島に着き、舟の底の穴がどうなっているかの



ぞいてみると、この穴にピタリとあわびがすいついて水が入ってくるのをおさえてくれていたのです。

このころ、山崎の里に石渡左衛門尉いしわた さ えしんのじょうという人が住んでいました。左衛門尉は、春日神社の夢のお告げにより、浜に出てみると、小舟にのっている日蓮に出会い、日蓮を背おって浜辺はまべにもどったのです。

ところが、日蓮をおろした左衛門尉の足のうらから、血が流れているのを見て、日蓮がたずねたところ、この辺にたくさんいるさぎえの角を踏んでけがをしたことを話しました。それを聞いて日蓮はあわれに思い、お経をととなえて祈ったところ、足から流れていた血が止まり、この浜のさぎえの角も、すっかりなくなってしまったということです。

### ○浄蓮寺じょうれん じ

1394～1472年のころに建てられたといわれています。寺を建てたのは、日光上人しやうにん にちみょう（日妙上人とも）といひます。お寺の伝えによりますと、古くは、日蓮信者であった石渡孫右衛門まごう えしんの小さな仮りの家であったものを、彼の法号かみ（戒名）浄蓮を寺の名としたといわれ、別の伝えでは、真言宗しんごんの真龍院しんりゆうを日蓮宗にあらため浄蓮寺としたともいひます。境内には海中出現の不動明王像ふ どうみょうおうをまつた不動堂がありましたが、大風でこわれてしまったそうです。本堂には、三宝祖師さんぼうそしをはじめ、日蓮宗の守り神である仏菩薩像ぶつぼさつがまつられています。



浄蓮寺本堂と日蓮像

## ○泉福寺

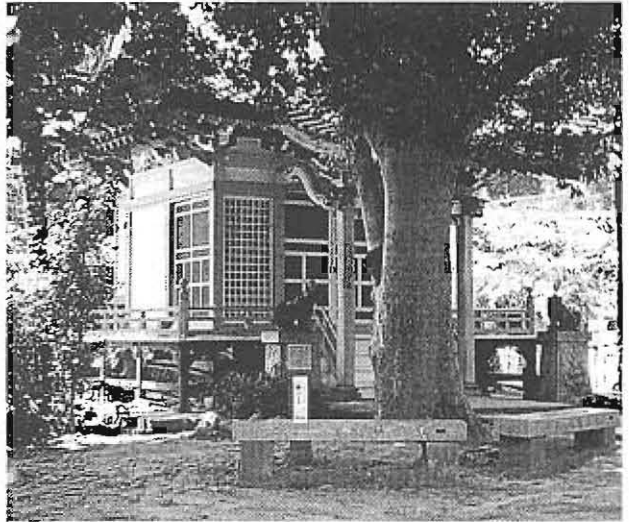
この寺は、1389年、室町幕府の將軍足利義滿の時代に成光坊日真という上人が開きました。日蓮が死んでから150年後に建てられたのです。

本堂の左手に毘沙門堂と言われる建物があります。これは、三浦半島の七毘沙門の一つになっています。毘沙門とは、北の方角を守ると言われており、武と福の両方を持った神で、法華經の四天王の一つです。

1821年、川越藩の殿様、松平大和守が將軍の命令により海岸の守りをするため、大津に陣地をつくりました。その時、ふだんから拝んでいた川越の日蓮宗本養寺に置いてあった仏像をわざわざ運び、陣地の守り神として、泉福寺の庭にお堂を建てて、置きました。昔の殿様には何かしらを守り神として拜むならわしがあったようです。



泉福寺の本堂



本堂左手の毘沙門堂

このお堂を建てた時には、三浦の大庄屋、田戸の永嶋庄兵衛が、そのころのお金で三両を寄付しているのをはじめ、多くの寄付金が集まりました。

大正のころは、このあたりには家が二けんしかなく（今の石渡さん、杉崎さん）あとは田んぼだったそうです。

## ○了正寺

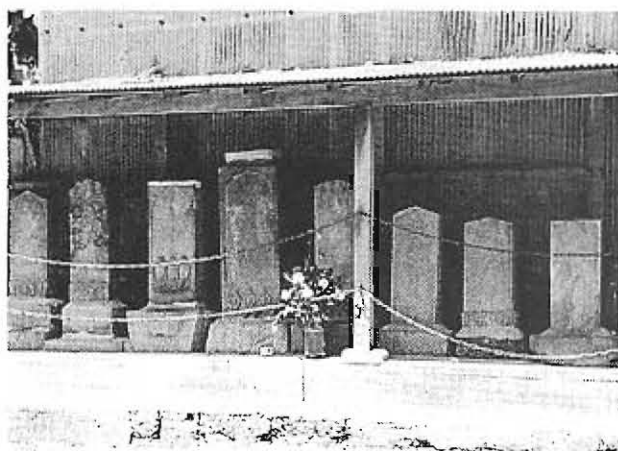
法然上人ほうねんしやうにんが開いた浄土宗じやうどしゆうの寺で、鎌倉かまくらにある光明寺こうみやうじの末寺まつじとして、1636年、登道とうどうというお坊さんによって建てられたとのこと。戦争せんそう、火事、地しんにより、大切な仏具ぶつぐ、古い文書もんじよ、寺に伝わる話の本などのいっさいが燃えてしまい、何も残っていないことは、歴史れきしを調べしらる上で残念ざんねんなことです。

このあたりは、今から200年ほど前の江戸時代えどにも、「公郷邑堀之内くごうむらほりのうち」と書かれていることからわかるように、昔から堀之内とよばれていたようです。



了正寺の本堂

## ○庚申塔



モチン坂にある庚申塔

にあった人の寿命じゆみやうを罪に合わせて短くします。ですから、庚申の夜、ねなければ虫が抜け出さず罪を告げられることもないので、長生きでき、家も豊かになるというものです。ひとりではねてしまうかもしれませんので、何人か集まって夜明かしをしました。これを庚申講こうしんこうとい

庚申塔こうしんとうには、字だけが書かれたものもありますが、よく見ると像ぞうをほったものもあります。庚申信こうしんしん仰こうとは、60日に1日の庚申の日の夜になると、ねている人の体の中から三匹びきの虫が抜け出し、その人のふだんの罪つみを天の神様に話します。それを聞いた天の神様は、話

います。おしゃべりをするうちに食事が出るなど、庚申講は、その後農民の楽しみになっていきました。

三春町にはモチン坂に9基の塔が残っています。もとは、今ある場所よりも上の道にあったとされていますが、道がくずれて不便なため、今の所に移されたということです。古いものでは、江戸時代の中ごろからのものなどがあり、そのころ住んでいた村人の名が、たくさん書かれています。



おいなりさん入口付近の庚申塔

また、6丁目のおいなりさんの入口、浄蓮寺山門にも庚申塔があります。浄蓮寺のは江戸時代につくられたものらしく、江戸時代の年号が読み取れます。

#### ④ 古老が語る三春町

—— 駅のあたり（鈴木トミさん、明治30年生まれ）の話 ——

泉福寺の下に、寺の下と呼ばれる私の母親の家があり、そこから今の堀之内駅前あたりもふくめて、了正寺・キスケドン（渋谷医院の裏石原さん宅）まで、12けんが私たちのとなり組でした。

家のまわりはほとんど畑で、寺の下近くのトウゼンドンの家では、田や畑をたがやすために牛を飼っていました。

子どもたちは、広っぱを走りまわり、庭先でままごとをしたり、お手玉をしたりして遊びました。私は、みそっかすと言われて、寺の下とトウゼンドンの子どもたちに引きつれられて、まねばかりしていました。平地が多かったので、山なんかかえってこわい

所として近よりませんでした。

春日神社の前を通る旧道きゅうどうにそって、長太郎魚屋さん、ならんで長島酒屋さん（今の亀屋さんかめや付近ふきん）があって、そこには駄菓子だがしなども少しばかりビンに入れられてならべてあり、たまに、鉄砲玉てつぱうだま（丸いあめ）を買って食べたくらいで、今の子どもたちのように、お金はあまり使いませんでした。げたは砂坂の方まで買いに行きました。あのころは、この二けんだけだったと思います。

交通も、今のようにめまぐるしいことはなく、やはり旧道きゅうどうぞいで、今の天津屋さんの反対側はんたいがわの角かどに車屋さんがありました。その一台の人力車じんりきしやが、何もかも急な用事をしていていました。たいていは、お産婆さんさんばをむかえに行く時などに利用していました。代金はいくらぐらいだったか、もう忘れわすれました。

学校は、まだ山崎小学校がなかったので、みんな豊島としま小学校まで、雨の日も風の日も海岸近くの通りを歩いて通いました。でも1年生だけは、春日神社かすかひに分教場ぶんきやうじやうがあって、そこで勉強してました。

### かなほり 金堀トンネル

神金かりがねへ通じる金堀トンネルができてから70年以上がたつでしょう。トンネルが開通かいつうというと完成前かんせいの落石事故らくせきじこをすぐに思い出します。根岸ねがしの練兵場ねんべいじやうへ、陸軍記念日りくぐんきねんびの兵隊さんへいたいを見に行った帰りの山崎小の子どもが事故にあったのです。

トンネルの横よこの小道こみちを登りつめると、ちょっとした平らたいな所があって、そこにおいなりさんが祭まつってありました。よく石をなら

べてお供えしたりしました。でも、今は、どこへ移したかわかりません。

山の下は、一面田んぼで、根岸の練兵場まで続いていました。今は家がたくさん建っていますが、現在のけしきからは想像もつきません。

トンネルの上には、子育て蔵が祭られています。これは、明治31年12月に建てられ、今でも花やお菓子を供える人がいるようです。

#### 6丁目の赤い鳥居

スターヒルと百丹の間の山道を歩いていくと、右手に赤い鳥居とおいなりさんがたっています。昔は南5丁目のこのあたりは、池之谷村といって六けんの家しかありませんでした。山は六けんのもので、毎年2月の吉日を選んでおいなりさんにお供え物をして、お寺のお坊さまにお経をあげてもら



赤い鳥居とおいなりさん

います。その後で当番の家に集まり、ごちそうを食べ一日楽しくすごします。お祭りと同じで、6年ごとに当番がまわってくるのです。山の中にポツンポツンと家が建っていたころには、みんなで集まって話し合うのがとても楽しみでした。



### 3. 暮らしのうつりかわり

#### (1) 服 そう

##### ○明治時代

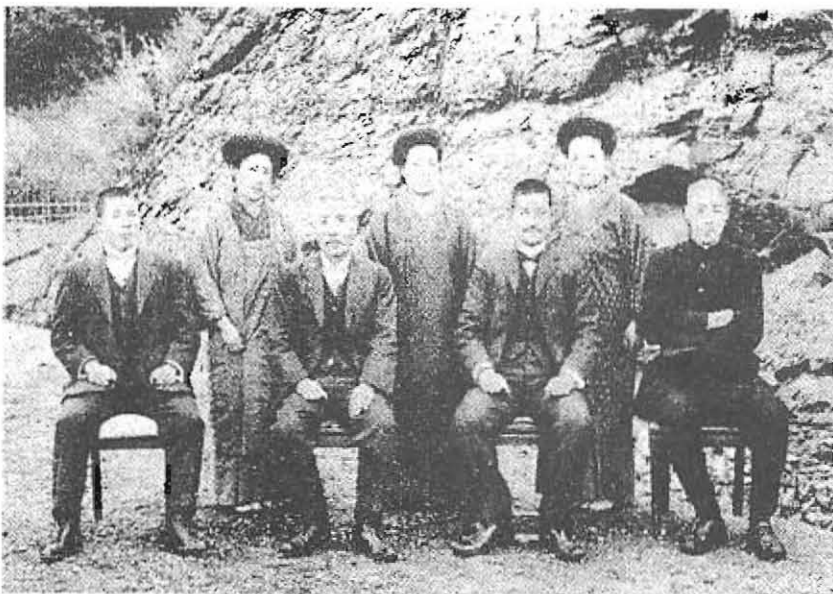
外国とのつき合いや、取り引きをふたたび始めた明治時代になると、ヨーロッパの洋服が、入ってきました。しかし、まだほんの一部の人たちが着るていどでした。



ほとんどの人は、着物でした。でかける時やお祝いごとがある時には、はおり（着物の上に着る物）、はかまを着用しました。上の写真は、1899（明治32）年の大津小学校の卒業写真です。かみの形やはき物からも、そのころの人々の服そうのようすが、わかります。

##### ○大正から昭和のはじめごろ

このころになると、だんだん洋服を着る人が、ふえてきました。会社員、役人、銀行員、医者、男の先生などです。しかし、まだ着物す



1914（大正3）年3月、山崎小学校第一回卒業記念の先生方

がたの人も多く、学校では、女の先生が、着物・はかますがたのまま、たすきがけ（たすきとよばれる長いひもで、着物のたもとをたくし上げること）で、体育のじゅぎょうをしてい

ました。

子どもたちも、着物<sup>きもの</sup>でした。男子は、つつそでといって、たもとのないカスリの着物に、もめんのしまがらのはかまをはき、校しょうの入ったぼうしをかぶって通学しました。女子もやはり、ひぎたけぐらいの着物を着ました。はきものは、わらざうり、げた、くつとだんだんかわっていきました。



小学校男子のはかま

冬になると、そでなしのチャンチャンコとよばれる、わたの入ったベストのようなものを、着物の上に着たり、毛糸<sup>けいと</sup>であんだ手作りのえりまき（マフラー）や手ぶくろをしました。

夏には、男の人は、じんべえや、はだぎわりのよいチヂミおりのシャツを着ました。女の人の中には、西洋ねまきとよばれた、白いチヂミ



大正時代の商店<sup>しょうてん</sup>ではたらく人の服そう

をはいていました。呉服屋は、つつそでに前かけ、米屋は、写真<sup>しゃしん</sup>のように、印半天・前かけすがたが、多かったです。

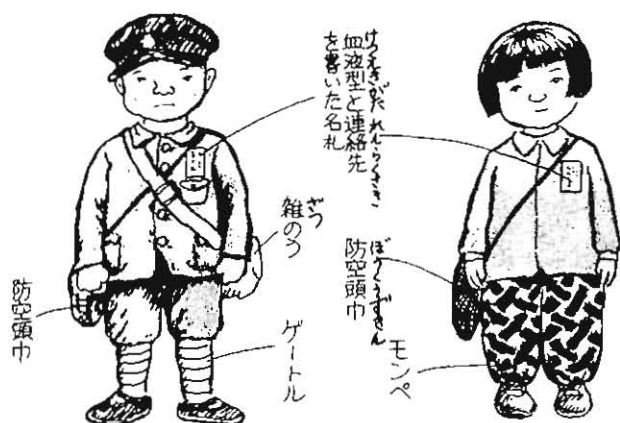
のかたん服（ワンピース）を着る人もいました。

はたらく人の服そうも、今とはだいぶちがっていました。八百屋・魚屋は、印半天<sup>しるしばんてん</sup>といって、お祭りの時に着る半天<sup>はんてん</sup>にえりの所<sup>ところ</sup>に、屋号<sup>やごう</sup>の入ったようなものを着て、またひき（スパッツ<sup>すぱつ</sup>ににているもの）

## ○昭和16年から20年（戦争中）ごろ

日本が、外国をあいてに戦争をすることになると、戦争へ行く人の服を作るのに、せいっぱいで、のこされた人たちの着る物には、た

いへん、ふじゆうしました。女の方は、「モンペ」といって、腰のあたりが開いていて、ひもでむすぶ形のズボンをはいていました。子どもたちは、左の絵のような服そうでした。そして、いつでも、空しゅうから身を守るため、防空頭布を用意し、赤十字袋をかけ、



戦争中の国民学校児童の服そう

胸には、名ふだをつけていました。

## ○戦争が終わってから現在まで

戦争が終わっても、まだしばらくは、手に入るぬのが少なく、カーテンなどを利用した手作りの服、おとなの古着を作り直した服、兄や姉のおさがりの服などが、ほとんどでした。今のように、たくさんのぬのや洋服が、工場で作られるようになったのは、1975（昭和40）年ごろからのことです。



▲1958（昭和33）年男子の服そう

◀1950（昭和25）年女子の服そう

1946 (昭和21) 年4月、長男が小学校入学となりましたが、着せる物、はかせる物、何もありません。

主人が、海軍工しょう (軍かんを作っていたところ) に勤務しておりまして、敗戦の日、窓ガラスのあんまく (空しゅうにそなえて、光がもれないよう窓をおおった黒いカーテン) をもらってありましたので、それで手作りの洋服を作りました。

くつは、久里浜の闇市に、真黒くてとてもじょうぶそうなのがあったので、おもいきって買ってきました。

ランドセルは、主人が、海軍通信学校の生徒が使っていた背のう (いろいろな物を入れて背おうふくろ) をさがしてきてくれました。ほとんどの人は、母親の帯をほどいて、帯芯で作っていました。

ようやく入学式となりました。母親の半数ぐらいは、まだモンペすがた。子どもは、アメリカ軍からもらった毛布で作った洋服、父母の服のリフォームなどでした。兄や姉のお下がりのものは、とてもりっぱに見えました。女の子の一人は、おばあちゃんのよめ入りの時の黒チリメンの着物で作ったドレスというすごいものもありました。

ある日、雨に会いずぶぬれでかえってきました。ピカピカだった黒ぐつは、まだらにはげ、くつぞこは、上のほうまでまくれ上がり、見るかげもありません。ふと見ると、かいねこのペルが、くつをかじっています。おどろいてとり上げ、よくよく見ると、くつぞこは、なんとスルメでした。

## (2) 食べ物

今は、食べ物の種類もたくさんあり、食べたいと思うものを、かんたんに手に入れることができますが、むかしはほとんどの食べものを自分の家で作ったり、近くでとってきたりしていました。三春町にも田や畑があり、魚などは浜で自分でとって食べていました。近所には店も一けんぐらいしかなく、生活のために最低必要な、塩や石けんなどを売っていました。当時、白い米を食べられる人はほんの一部で、大部分の人が粥やかてめし（米に大根や豆、芋類などを入れてたいたもの）や麦飯を食べていました。おかずは、野菜を煮たり、塩やぬか、みそやかすにつけたりしたものなどが主で、ほかに魚、梅干し、ラッキョウづけなどでした。

### 石渡 千代松さんの話

大正10年頃はほとんどが麦飯でした。また一日に一食ぐらいは、ソバかうどんでした。ソバとうどんは、みんな自分の家で作ったものです。

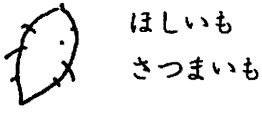



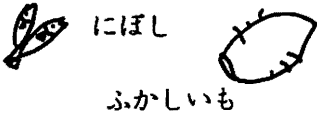





おかずは野菜の煮物が多く、肉などは月に一回ぐらいでした。また、麦飯にトロロ芋をかけて食べましたが、これも時々のことです。お祭りのときには、赤飯やのり巻き、稲荷ずし、野菜（ゴボウ、ニンジン、ハス、里芋）の煮物でした。

日本が外国と戦争をするようになると、いろいろなものが不足して、食べ物も手に入れることがむずかしくなってきました。家の庭をたがやして畑をつくり、芋などをうえて育てたりしました。一日三食を食べられない日がつづき、もっとも戦争のはげしかったころは、「ほしがりません、勝つまでは」のスローガンのもと、空腹にたえなければ

ならないつらい日々が続きました。このころのおもな食べ物は、少しのお米に芋づるなどを入れてたいた雑すい、水のようにうすいおかゆやすいとん（小麦粉の団子を入れて煮たもの）、かぼちゃやいも、豆類でした。砂糖もめったに手に入らなかったので、ごくたまにおしるこなどが食べられても、あまくないものでした。

戦争が終わっても、しばらくはこのような物不足が続きました。食べるものを手に入れるために、子どもでも遠くの農家まで買い出しにいきました。やがて、野菜、魚、肉なども、だんだん手に入れることができるようになりました。

### 〈おやつのおつりかわり〉



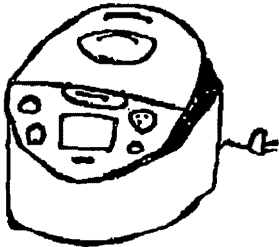
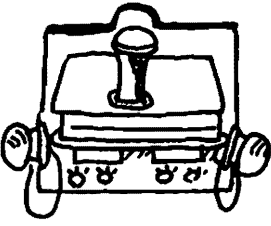
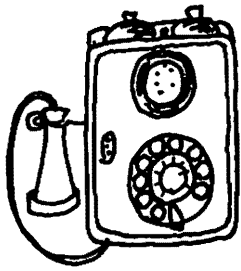
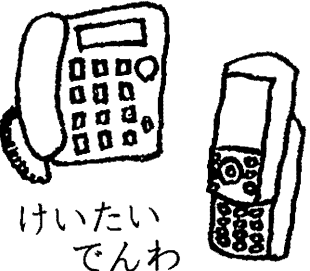

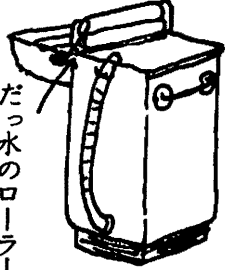
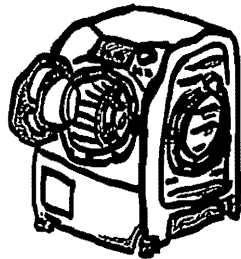

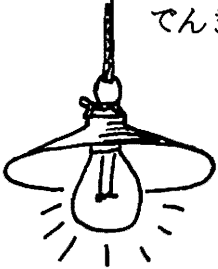
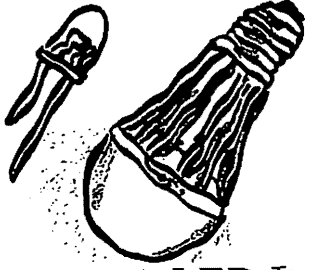
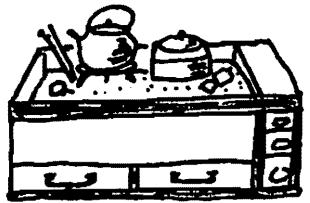

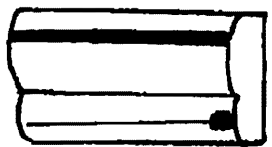
明治・大正時代	戦中・戦後	現在
 <p>ほしいも さつまいも</p> <p>みそおにぎり</p>  <p>くり、木のり</p>  <p>しおせんべい</p>  <p>くろざとうのあめ</p> <p>(ほとんどが 手作り)</p>	 <p>にぼし ふかしいも</p> <p>(戦争中は、あまりおやつを食べるよゆうはなかった)</p>  <p>クッキー チョコレート キャンディー</p> <p>(戦後 だんだん 手に入るようになった)</p>	 <p>アイス プリン</p>  <p>ケーキ</p>  <p>ホテトチノ スナック がし</p>  <p>ジュース</p> <p>(しゅるいもたくさんある)</p>

### (3) 生活の道具

近ごろでは、機械が身の回りにあふれ、生活はどんどん便利になってきています。今はどこの家にでもあるようなものも、むかしはめずらしいものだったり、機械でするのがあたり前のようにもなっていることでも、人の手でしていました。



<生活の道具のうつりかわり>

	明治～大正	昭和30年ごろ	現在
ごはんをたくもの	<p>おかま</p>  <p>かまど</p>	 <p>文化なべ</p>	<p>でんし すいはんき</p> 
でんわ		 <p>かべかけ式</p>	 <p>けいたい でんわ</p>
せんたく	<p>せんたくいた</p>  <p>たらい</p>	<p>だっ水のローラー</p>  <p>せんたくき</p>	 <p>全自動せんたくき</p>
あかり	<p>ランプ</p> 	<p>でんきゆう</p> 	 <p>LED電球</p>
だんぼう	<p>ながひばち</p> 	 <p>せきたんストーブ</p>	<p>エアコン</p> 

## (4) 遊 び

みなさんのおじいさんやおばあさん、お父さんやお母さんが、子どものころは、どんな遊びがはやっていたのでしょうか。

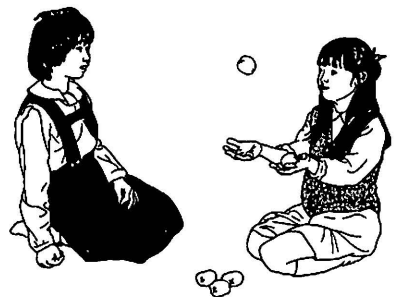
—— 齊藤 さと子さんの話 (大正8~14年<sup>さい</sup>在校) ——

ほとんど、自分で作ったおもちゃで、大勢<sup>おおぜい</sup>で外で遊ぶことが多かったと思います。

男の子は、竹とんぼ・竹馬・水でっぼう、女の子は、お手玉・ゴムとび・なわとび・まりつき・石けりなどをしました。

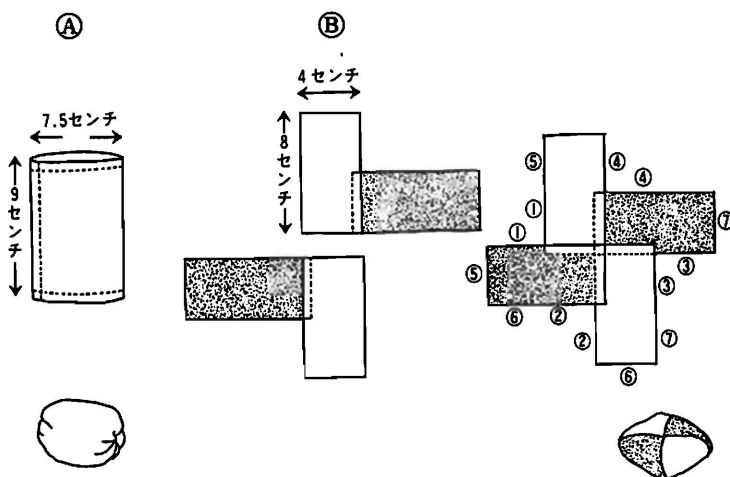
お手玉も手作りです。中に入れるあずきやじゆずは、家の畑でとれましたし、ぬのは、おばあさんたちの着物のあまりぎれ(ちりめんなど)です。なわとびのなわも、おじいさんがあんでくれました。

家の前(三春ようちえんの<sup>ちか</sup>近く)の道路のそばまで海でしたので、すなはまで遊んだり、およいだりもしました。貝がらや海草、にわ先の草花などで、ままごともよくやりました。



お手玉をしているところ

### 〔お手玉の作り方〕



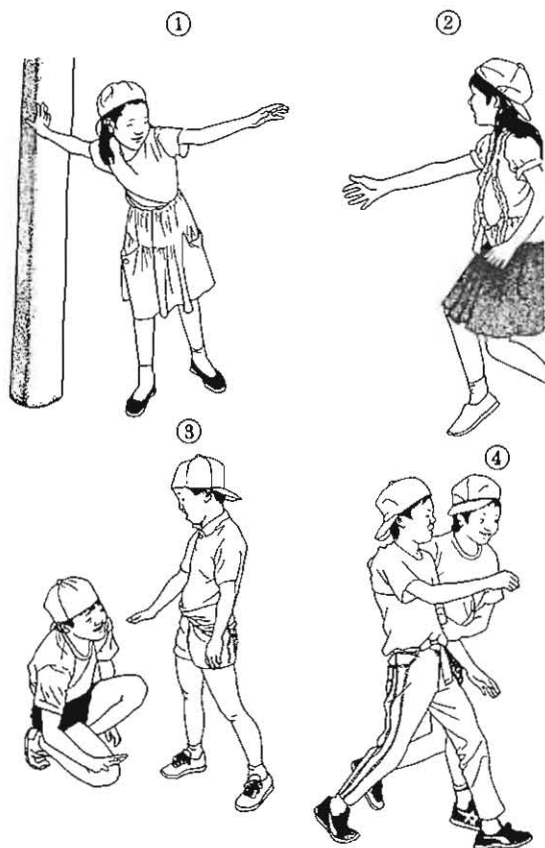
- ① てんせんをぬう。
- ② 図の大きさのぬのを4まいつかう。数字を合わせてぬっていく。

自分たちのころは、軍国時代<sup>ぐん</sup>でしたので、男の子は、兵隊<sup>へいたい</sup>ごっこ・軍艦<sup>かん</sup>遊び・チャンバラごっこなどをしました。学校から帰ると、手作りの鉄砲<sup>てつぽう</sup>や刀<sup>かたな</sup>をもって、山へ行ったものです。大きい子も小さい子もいっしょで、一番力のある「ガキ大将<sup>だいしやう</sup>」が、中心<sup>ちゆう</sup>となって遊びました。体をきたえ、戦争<sup>せんそう</sup>で手がらを立てようと、鉄棒<sup>てつぼう</sup>やすもうもさかんでした。野球<sup>やきゅう</sup>やドッジボールもやりました。

そのころの山崎小の野球チームは、たいへん強くて、そのおうえんに、草野球場 (今の鶴久保小<sup>ところ</sup>の所) までかけつけたものです。

「のらくろ」のまん画が大人気で、お金持ちの子にかしてもらって、みんなで回し読みしました。

### ぼかんすいらい (軍艦遊び)



二組に分かれじん地を作り艦長・母艦・水らいをきめ争う。艦長は、母艦にかち、母艦は水らいにかち、水らいは、艦長にかち。

- ①タッチされると、あい手のじん地に入れられる。
- ②みかたがやってきて、タッチすれば、生きかえる。
- ③水らいと水らい、母艦と母艦は、じゃんけんをする。まけた人は「ドック入り」といって、その場にすわり10まで大声で数える。  
二度続けてまけると、あい手のじん地に入れられる。
- ④てきを、自分のじん地につれていくときは、ほかのてきは、せめてはいけない。

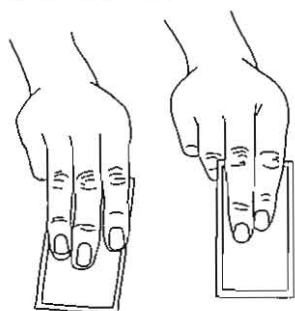
むかしの子どもたちは、買ったおもちゃで遊ぶより、自分で遊び道具を作って遊んだり、山や海で遊んだりすることが多かったのです。遊びの中には、千年以上もむかしからつたわるものもあります。いくつか遊びかたをしょうかいしますので、みなさんも遊んでみてください。

〔メンコ〕



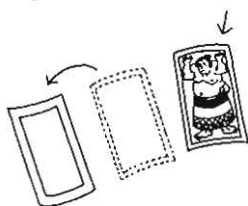
じゃんけんで、かわりばんこにメンコをうつ。

メンコのもちかた



おこし

あい手のメンコをうらがえしにすればとれる。ウラメン、カエシ、メクリなどもよぶ。



はたき

メンコを山の外に出せばとれる。



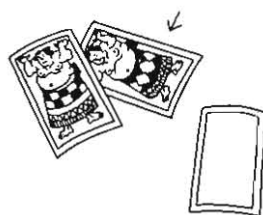
つみ



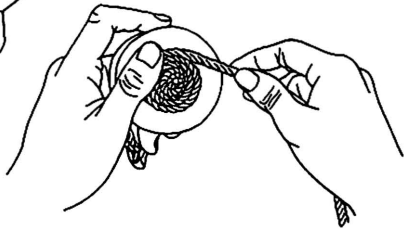
山にしたメンコをたたいて、山の上のメンコをうらがえしにすれば、ぜんぶのメンコがもらえる。

さばおり

たたきつけたメンコが、あい手のメンコの下にもぐりこめばかち。



〔コマ回し〕



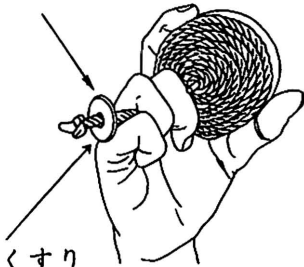
まわしかた



ひものまきかた

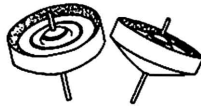
しんぼうを中心まいっていく。しんぼうに数回まいっておくと、かいてん数が上がって、よく回る。

すべりどめの  
5円玉



小指とくすり  
ゆびの間にひもをはさむ。

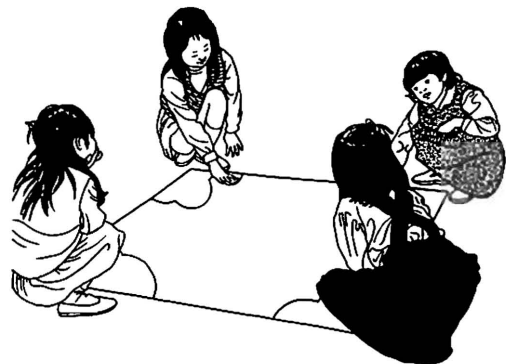
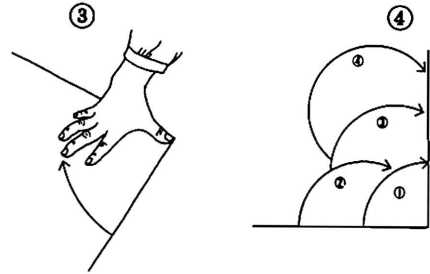
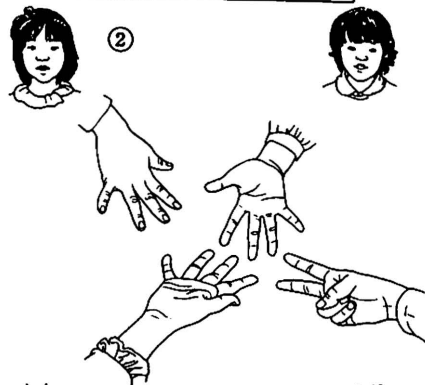
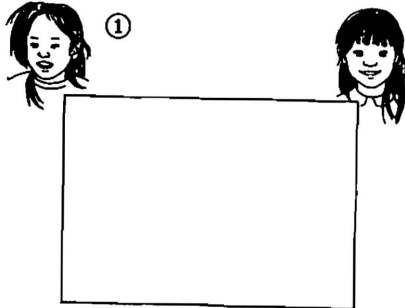
けんかごま



どちらが先にたおれるかをきそう。とまった方が負け。

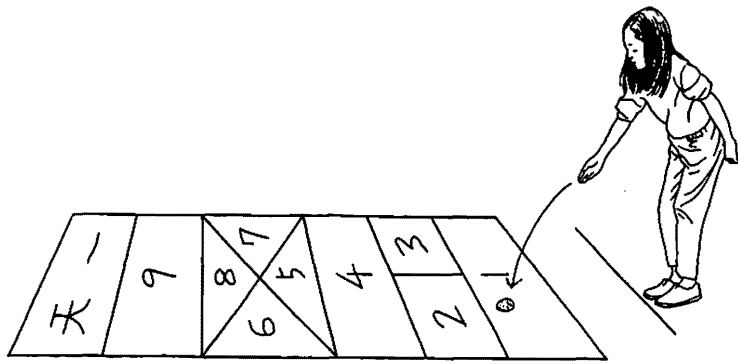
かたの高さから左前方へなげる。さいごに強くひくと、コマにいきおいがつく。

〔じゃんけんじんとり〕



- ① 四角い図をかいて四人が角をとる。
- ② じゃんけんをする。
- ③ かった人が、手をコンパスにして、じん地をとる。
- ④ かったら、どんどんじん地は広がる。

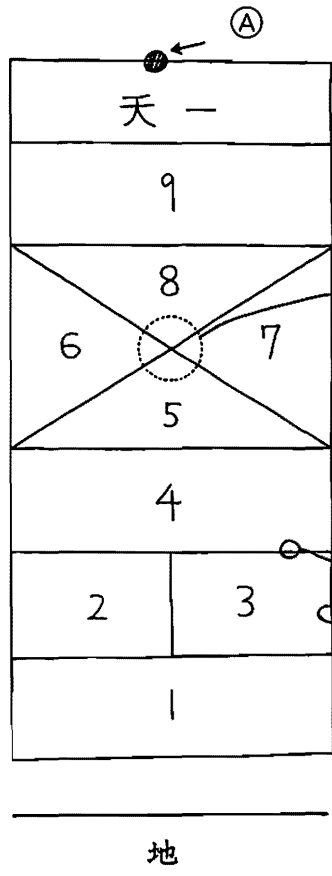
# 〔石けり〕



## かいく

5	10
4	9
3	8
2	7
1	6

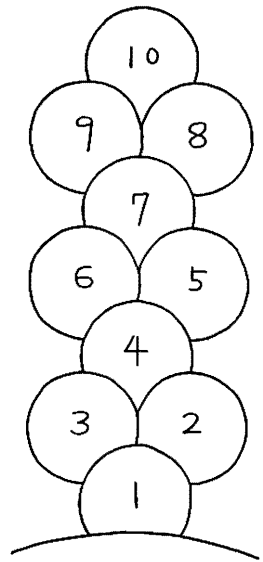
## もつてき



1に石をなげ入れ、かた足で1→2→3→4→5まですすむ。5でせんの外にけり出した石をひろい、6になげ入れる。かた足で5→4→3→2→1ともどり、こんどは6→7→8→9→10へと、けりすすむ。

しょうべん  
〈小便たご〉  
5、6、7、8に石を入れそこなって、ここにのると、天一まで行っても地にもどる  
〈横出し〉  
アウト。こうたいする。

## 丸とび



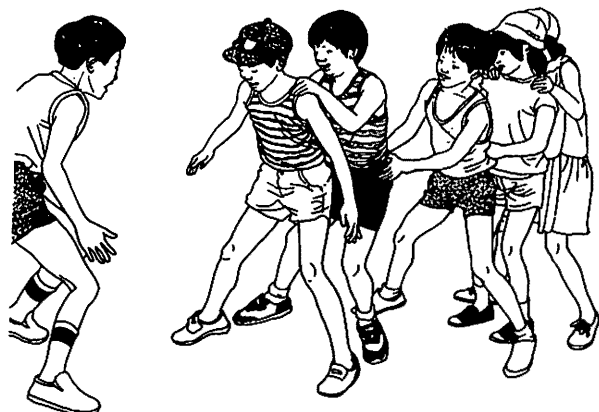
地から1になげた石をけりすすみ、天一まで行ったらやじるし①のところに石をおき、地までけり出せば、みんなに「1貫かし」となる。

ほかの人に多くかした人が、かちとなる。一どけり、二どけりのルールがあり、ける人が自分できめられる。

1に石をなげ入れ、2、3にりょう足で立ったあと、かた足、りょう足のじゅんで10までいってもどってくる。かえりには、2にかた足で立ち、石をひろってもどる。以下くりかえす。



## [子とろ子とろ]



### 子とろ子とろ

子おとろ 子とろ (おに)  
 子どもがほしい  
 どの子がほしい (おや)  
 あの子がほしい (おに)  
 あの子はやれない (おや)  
 あの子が ほしい (おに)

- ①ひとりがおやになり、その後ろうしに子が一れつにつながる。
- ②おには、いちばん後ろの人をつかまえようとするが、おやは、りょう手をいっぱい広げておにのじゃまをする。
- ③おにの服をつかんだり、ひっぱったりしてはいけない。ウロウロ、ニョロニョロとヘビのように動いてにげまわる。
- ④子がおににつかまったら、おやがおにのかわり、おには子のいちばん後ろにつく。

## [まりつき歌]

### いちじくになじん

いちじく にんじん  
 さんしょに しいたけ  
 ごぼうに むかご  
 ななくさ はつたけ  
 きゅうりに どうがん

いちじく にんじん  
 さんしょに しいたけ  
 ごぼうに むかご  
 ななくさ はつたけ  
 くわいに どうがん

### あんたがたどこさ

あんたがた どこさ ひご肥後さ  
 肥後どこさ くまもと熊本さ  
 熊本どこさ せんば船場さ  
 船場山には タヌキがおってさ  
 それを りょうしが  
てつぱう鉄砲でうってさ  
 にてさ やいてさ 食ってさ  
 それを こ木のはで  
 ちょいとおっかぶせ



## 4. 私たちの町にある<sup>こうきょうしせつ</sup>公共施設

### (1) 安全なくらし

#### ○<sup>ぼう</sup>消防施設

山崎小学校の学区には、<sup>しょうかせん</sup>消火栓・<sup>き</sup>消火器・防火水そうなどの消防施設があります。消火栓は道路の中などによく見られます。消火器は住宅がたてこんだ<sup>ちいさ</sup>地域や細い道が続く山ぞいの住宅地などにたくさん取りつけられています。



消 防 施 設

学校の近くにも見つけることができるでしょう。

山崎小学校の学区の防火や消火の仕事は、中央消防署の<sup>しゅ</sup>三春町出張所が担当しています。1950（昭和25）年からずっと、この町の安全なくらしを見守ってきてくれました。ガスト三春町店の横にあり、国道134号線に面しています。

消防本部から<sup>しれい</sup>指令があると、すぐ出動できるように消防隊員<sup>たいいん</sup>7人の人たちと消防車1台、<sup>きゅうきゅう</sup>救急車1台が待機しています。そのほかに14人いて、合計21名で3交代の勤務をしています。出動するところは、三春町・<sup>まほり</sup>大津町・<sup>まほりかいがん</sup>馬堀町・<sup>さくらがおか</sup>馬堀海岸・桜ヶ丘で、住んでいる人は、およそ30,000人で、13,370世帯(2010年)だそうです。

ふだんの日には<sup>すいり</sup>水利の<sup>てんけん</sup>点検とか、<sup>たちいりけんさ</sup>立入検査などして、防火につとめています。学区は、道路がせまいうえに、<sup>やと</sup>谷戸があり、大きい車が入りにくいそうですが、火事になったらどうするか計画的に考えておくことも大切な仕事だそうです。

出張所と同じ建物に消防団の第3分団があります。できたのは、

1894（明治27）年でとても古く、そのときは、横須賀消防組第6部とよばれていたそうです。その後、1947（昭和22）年に今のよう  
に消防団と名前がかわりました。

消防団がある場所のことを詰所<sup>つめし</sup>といいます。分団員は12～13名  
で、分団長、副分団長などの役割<sup>やくわり</sup>が決まっています。団員の人たちは、  
自営業の人が多く、消防の仕事はボランティアでやっています。火  
災がおきると、通信指令室から団員の人に一齐にメールで知らせま  
す。（詰所にファックスが送られることもあります。）詰所に数人集  
まるとすぐに消防車は出動し現場に急ぎます<sup>いそ</sup>。そして消防団の人は、  
消防隊の消火活動を助けます。

このような防火のための活動のほかに、風水害やがけくずれ、  
水難救助<sup>すいなん</sup>などのときにも出動し、わたしたちの安全なくらしを支え  
ています<sup>ささ</sup>。



## ○警察

京浜急行の堀ノ内駅の近くに、交番があります。正しくは「神奈川県横須賀署三春3丁目交番」といいます。ここは、三春町全域を受け持ち、三春町の人たちが安全に過ごせるように、置かれています。



勤務態勢は、朝の8時30分から、次の日の朝8時30分までの当直、その後は非番、休みとなり、3人の警察官が3交代で仕事をしています。

主な仕事は、交通事故の処理・道案内・落とし物や拾い物の処理・犯罪予防のパトロール・交通の取り締まりなどです。

交番には、ふだん警察官が、ほとんどいません。そのわけは、三春町全域で1日2～3件おきる自転車の盗難や交通事故などの対応のために、でかけているからです。

用があって交番に行った時、警察官がいない場合は、自分で交番にある電話を使って、机の上にある電話番号にかけます。すると、その電話は小川町にある横須賀署地域係に通じ、そこにある無線でパトロール中の警察官に連絡がいき、対応してくれます。もし事故などで急ぐ時は、110番に連絡します。このように、交番は、地域に住んでいる人が、身近なものとして、警察に気軽に相談できるように置かれています。また、交番に警察官がいない場合でも、交番相談員が9時から15時45分まで勤務し、地域のみんなの相談にのってくれます。

今、三春町地域の一番問題となっていることは、不審者<sup>ふしんしゃ</sup>問題です。三春町は細い道や暗い道が多いため、不審者の情報<sup>じょうほう</sup>も多く、登下校時を中心に夜中もパトロールをして町の安全を守っています。駐輪場<sup>ちゅうりんじょう</sup>ができ、自転車<sup>じてんしゃ</sup>の駐輪問題<sup>かいしょう</sup>は解消されましたが、16号の通りの駐車はまだ大きな問題となっています。

また、地域の横のつながりが希薄<sup>きはく</sup>になってきたため、一人暮らし<sup>ひとり暮らし</sup>のお年寄り<sup>としよ</sup>を訪ね<sup>たず</sup>て、その様子を見るなどの仕事もしています。

## (2) 健康なくらし

### ○下町下水処理場（下町浄化センター）

わたしたちが使って汚れた水や雨水は、道路の下にある下水道管に流れ込み、ポンプ場を通過して、下水浄化センターへ運ばれ、浄化されてきれいな水になります。浄化センター（下水処理場）ではみなさんが家庭や学校などで使って汚れた水を、微生物を利用し、きれいにして海や川に流し、海や川の汚れを防いでいます。下水の普及により、トイレが水洗化され、衛生的で住みよい環境となり、川や海がきれいになっていきました。

#### 【下水道の役割】

#### ① 町がきれいに

快適な水洗トイレが使える、台所や風呂、洗濯などの汚れた水がすぐに下水管に流れるので、蚊やハエ、悪臭を防ぎ、きれいな町になります。

#### ② 川や海がきれいに

生活排水や工場・事業所排水をきれいにして流すので、川や海はきれいで澄んだ水になります。

#### ③ 浸水（しんすい）のない安全（あんぜん）な町に

雨水も下水管を通過して流れるので、大雨が降っても町の中が水浸しになるのを防ぎ、わたしたちの生活や財産を守ります。

#### ・横須賀市の下水道

横須賀市の下水道は、昭和19年（1944年）に上町地区に建設されたのが始まりです。しかし、戦争が終わってしばらくは工事の材料やお金不足から工事がなかなか進みませんでした。その後、経済や産業の発展とともに、生活を向上させ、快適にするため、昭和38年から本格的に下水道の建設が始まりました。



横須賀市の下水道の普及率<sup>ふきゅうりつ</sup>は平成22年(2010年)97パーセントと、ほぼ100パーセントになろうとしています。全国平均<sup>ぜんこくへいきん</sup>で73パーセントですから、横須賀市の下水道は進んでいるといえます。

下水処理場は、上町浄化センター<sup>うわまちじょうか</sup>、下町浄化センター<sup>したまち</sup>、西浄化センター<sup>にし</sup>、追浜浄化センター<sup>おっばま</sup>の4か所あります。ポンプ場は18か所あります。



オオシマザクラ (污水管)



ペリーと黒船 (合流管)



ハマユウ (雨水管)

下水のマンホールは3種類あり、汚れた水だけを流す污水管は「市の木：オオシマザクラ」、汚れた水と降った雨をいっしょに流す合流管<sup>ごうりゅう</sup>は「ペリーと黒船」で、降った雨だけをながす雨水管<sup>あまみず</sup>は「市の花：ハマユウ」をデザインした絵柄<sup>えがら</sup>になっています。

#### ・下町浄化センター

横須賀市で2番目にできた一番大きい下水処理場です。昭和44年(1969年)から運転を開始しました。田浦<sup>たうら</sup>から汐入<sup>いおいら</sup>、大滝町<sup>おおたきちょう</sup>、浦賀<sup>うらが</sup>や久里浜<sup>くりはま</sup>などとても広い地域<sup>ちいき</sup>の下水を処理していて、集めた下水を下町浄化センターに送るため、



下町浄化センター

中継ポンプ場<sup>ちゅうけい</sup>が13か所もあります。また、下町浄化センター<sup>たても</sup>建物の上は三春公園<sup>みはるこうえん</sup>として使われています。

平成10年(1998年)には再生水<sup>さいせいすい</sup> (下水処理水<sup>げすい</sup>をさらに砂ろ過<sup>か</sup>した水)

を利用した施設「下町浄化センター・トンボの王国」の建設を行い、平成11年(1999年)7月20日に完成式を兼ねたイベントを行い、メダカの放流をしました。「トンボ池」や「小川」は見て楽しむことができます。

また、下水を処理した後に残る汚泥の焼却灰はとともたくさんの量になり、埋め立てると環境へ大きな影響を与えてしまいます。そのため、焼却灰を有効活用してセメントなどの材料や小物入れ・ペン立てにして100パーセントリサイクルをしています。

下町浄化センターのがいよう		
	平成 2 年(1990 年)	平成 22 年(2010 年)
敷地面積	42,800 m <sup>2</sup>	92,700 m <sup>2</sup>
計画処理人口	280,000 人	210,000 人
1 日の平均処理量	82,000 m <sup>3</sup>	117,213 m <sup>3</sup>



よこすかしきゅうきゅういりょう  
○横須賀市救急医療センター

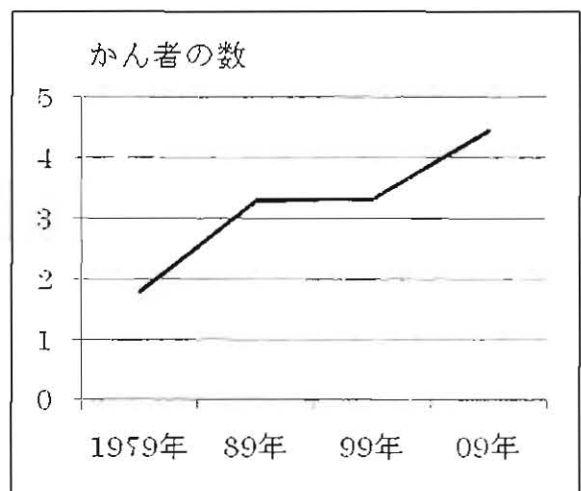


国道16号線ぞいに、救急  
医療センターがあります。  
内科・外科・小児科の3つ  
の科があり、平日は夜8時  
からはじまります。平日・  
土曜日の夜・休日そして年  
末年始だけやっている病院  
なのです。つまり、多くの

病院が開いていない夜中や休日に、ねつが出たりけがをしたときに、手当(てあ)てしてもらえるのです。

この病院は、1972(昭和47)年に、医師会(お医者さんの会)から救急のときの施設を作ってほしいという希望が市長さんに出されました。市会議員さんやお医者さんとも相談をしたり、調査をしたりして計画が進んでいきました。そして、1977(昭和52)年に、市議会で救急医療センターを作ることが決まり、その年に田戸台でしんりょうが開始されました。1980(昭和55)年に三春町の今の場所にたてられ、およそ2億6,500万円をかけて完成しました。ようやくたくさんの人たちのどりよくでできたのです。

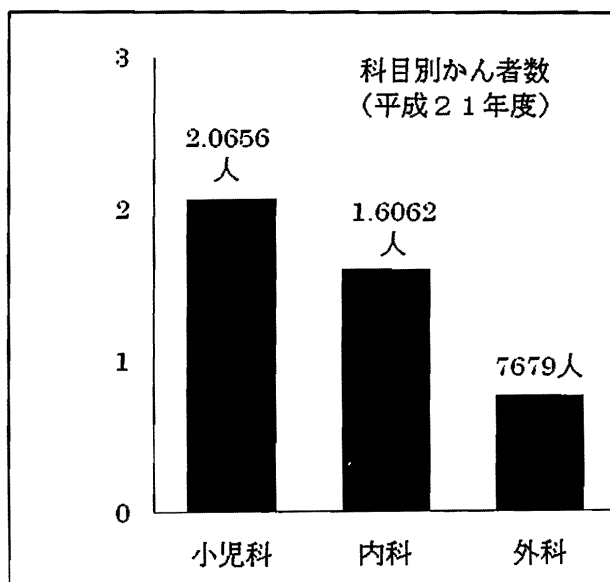
ところで、この病院はどのくらいりようされているのでしょうか。右のグラフでわかるように、かん者数は増えており、2009(平成21)年の1年間では44,397人となっ



ています。

つぎに、グラフを見ると、3つの科では小児科しょうにかを利用する人が一番多くなっていることがわかります。

この救急医療センターきゅうきゅういりょうがあることによって、わたしたちは、安心して夜を明かすことができます。



2010(平成22)年現在、より安全で安心なまちを目指して、救急医療センターを新港埠頭しんこうふとうに新しく作り直すことが決定し、計画がすすめられています。

## ○ごみの収集

横須賀市としても環境に配慮した取り組みを行っています。2001年(平成13年)に「リサイクルプラザ アイクル」が夏島町に建設され、各家庭でのゴミの分別が始まりました。

以前は、燃せるごみ(生ごみ・木・紙・布くず)、燃せないごみ(びん・かん・プラスチック・ビニール・せともの・ガラス)に分けて集めていた方法から、下記の4分別収集になりました。

分別区分	収集するもの
燃せるごみ	生ごみ・小枝・落ち葉・リサイクルできない紙・皮革製品など
かん・びん・ペットボトル	ペットボトル・かんづめやジュースのかん・金属のふた・ジャムや薬のびんなど
容器包装プラスチック	商品を入れたものや包んだものでプラスチックでできているもの。
不燃ごみ	陶磁器類・ガラス類・プラスチック類・アルミホイル・ライター・運動ぐつなど

2011年現在三春町と平成町・安浦町・富士見町では、以下のような収集日となっています。その他に町内会や自治会などで集団資源回収を行い、家庭から出された紙類や古着・古布などをを回収しご

### 山崎小学校周辺のごみ収集日

- ・燃せるごみ・・・毎週火・金曜日
- ・かん・びん・ペットボトル・・・毎週月曜日
- ・容器包装プラスチック・・・毎週木曜日
- ・不燃ごみ・・・毎月第1・3水曜日

みの減量化・資源化の推進を図るようになりました。

ごみ集積所には、クラスよけ対策としてフ

山崎小学区のごみ集積所の場所



・ごみ集積所



夕付きのかごやネットを使用しているところもあります。また、地域ごとに当番などを作り、収集終了後に清そうを行うなど、ごみ集積所を清潔に保つ工夫がなされています。私たちはごみをしっかりと分別すること、できるだけごみを出さないように気をつけることが、これからのごみ問題を考えるうえでも大切なことです。



### (3) ゆたかなくらし

#### ○三春コミュニティーセンター

山崎小学校の正門にそった道を下って、国道16号線<sup>ごうせん</sup>を浦賀<sup>うらが</sup>の方へ歩いて行くと、三春コミュニティーセンターがあります。

このコミュニティーセンターは、2008（平成20）年に三春<sup>ちいき</sup>地域<sup>ぢち</sup>自治活動センターから名前を変えました。「じちかつ」という呼び<sup>よ</sup>方の方が、耳なじみがあるかもしれません。

この敷地<sup>しきち</sup>は、かつて関東鉄工<sup>かんとうてっこう</sup>があったところで、1983（昭和58）年に、市によって買い上げられました。そして、地域の人々が自由に集い、語り合い、学び、心のふれあいをする場になるようにと、4億5000万円もの費用<sup>ひよう</sup>をかけてセンター<sup>た</sup>が建てられました。

この建物<sup>たても</sup>の中には、様々なスポーツや集会ができる体育室・お茶<sup>い</sup>や生け花<sup>ばな</sup>、踊り<sup>おど</sup>などができる和室・少人数による会議<sup>かいぎ</sup>や映写会<sup>えいしゃかい</sup>ができる会議室<sup>かいぎしつ</sup>があります。横須賀市に住む人や横須賀市で働く人ならば、年末年始（12月29日～1月3日）を除き<sup>のぞ</sup>、無料<sup>むりよう</sup>で利用することができます。かつては、建物<sup>まど</sup>の窓口で受け付けていた利用申込みが、現在インターネットでできるようになったこともあり、センター<sup>げんざい</sup>周辺地域に限らず、もっと広い範囲<sup>はんい</sup>から利用者が集まるようになりました。

また、センターのとなりには広場があり、子どもたちの遊び場<sup>あそ</sup>やゲートボール場として、利用できます。

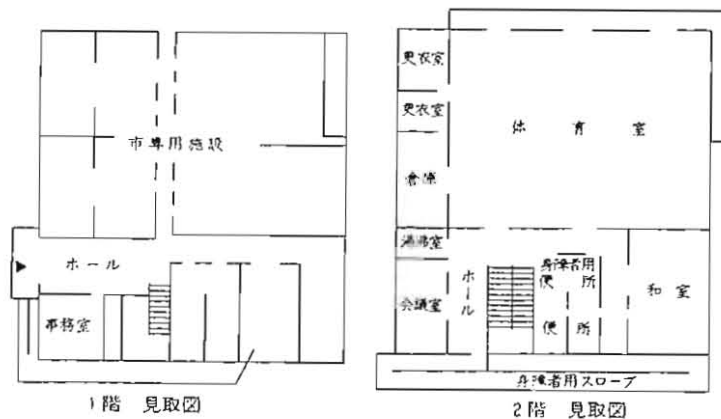
使用時間は、9：00～12：00 12：00～15：00 15：00～18：00  
18：00～21：00 の4つに分けられています。

年間約4万2000人の人が利用しています（2009年利用状況<sup>じようきよう</sup>より）。

このセンターの運営管理<sup>うんえいかんり</sup>は、かつては三春町の町内会の方々が行っていましたが、今は市の市民生活課<sup>か</sup>が行っています（2006年4月～）。

また、センターでは、市からたのまれた6人の管理人さんが毎日交代で働いており、利用者への案内や利用申込みの受付などのお仕事をしています。建物を見回り、こわれているところや古くなっているところがあったら、市に整備や修理の要求をするのも、管理人さんの大切なお仕事です。このような人たちがセンターを見守ってくれているおかげで、私たちは安心してセンターを使うことができるのです。

近年、パソコンが普及したり、交通の便がよくなったりしたことで、子どもから大人まで、様々な年齢の人が、様々な目的でセンターを利用するようになりました。お互いに、センターのルールを守って、楽しく利用し、みんなの生活が少しでもゆたかになるようにしたいものです。



## ○三春公園

三春町2丁目にある三春公園は、国道16号線沿いにおいて、下町下水処理場屋上部分を含む、13,810平方メートルの広い公園です。

下の児童公園は1972(昭和47)年にで

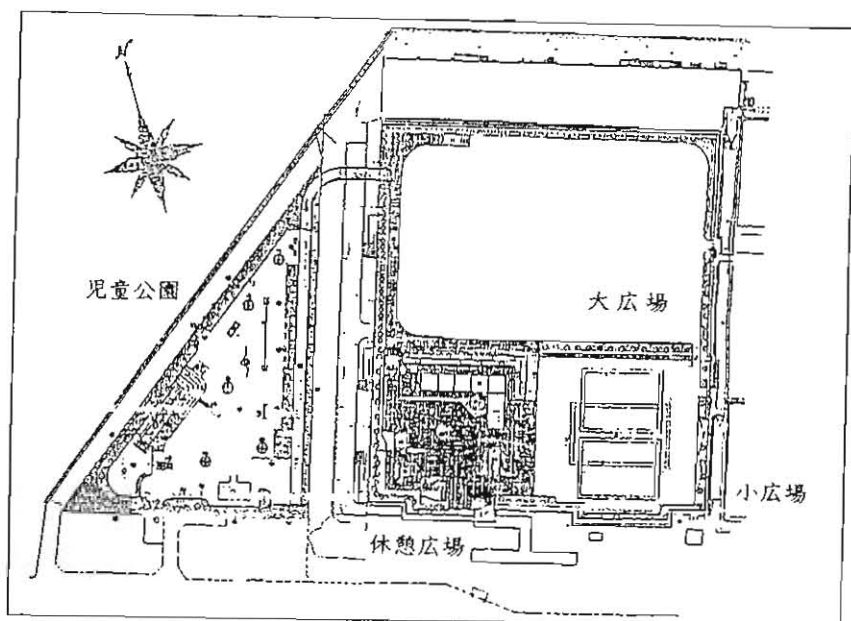
き、くぐりぬけ・

谷川渡り・丸太渡り・平均台・つり橋・すべり台・二連ブランコなどの遊具や砂場・水飲み場・トイレなどの施設があり、子どもたちが毎日遊んでいます。

下水処理場屋上の運動公園は、1988(昭和63)年にでき、大広場と小広場と休憩広場があります。大広場と小広場には、人工芝がしかれ、休憩広場にはタイルがしかれ、ベンチや日よけのたなもあります。この屋上の広場は東京湾の眺めが美しく、人々のいこいの場所になっています。

公園の管理は市役所の土木みどり部緑地管理課がしていますが、広場の運営は三春町の連合町内会・安浦1～3丁目町内会・田戸親睦会などにまかされています。各町内会の代表者は、市民がよりよい広場の利用ができるよう話し合いをします。

広場を利用してできるおもな運動は、子どものソフトボール・キャッチボール・体そう・ジョギング・ゲートボール・その他軽い運動です。地域のスポーツ団体や町内会や自治会が土日広場を利用



三春公園平面図

するには、年1回三春コミュニティーセンターで開かれる調整会議<sup>ちようせいかいぎ</sup>に代表者が出席して、手続きをします。小広場は、地域の老人クラブのゲートボールに利用されます。人工芝の下にパイプが埋め<sup>う</sup>てあり、ゲートがすぐセットできるようになっていて、コートが2面とれます。

広場利用上の注意<sup>ちゆうい</sup>として、夜間<sup>やかん</sup>は使わない・危険行為<sup>きけんこうい</sup>の禁止<sup>きんし</sup>・ペットは連れてこない・ごみは持ち帰るなどがあります。広場のそ<sup>つ</sup>うじは、下の広場を2丁目の町内会が、上の運動公園を1丁目町内会が日を決めておこなっています。また、安全に遊ぶことができるよう、年間4回遊具点検<sup>てんけん</sup>のパトロールがおこなわれています。

学区には三春公園のほかに「三春5丁目公園」「三春5丁目第2公園」「三春5丁目第3公園」「富士見公園」「三春6丁目公園」「平成緑道緑地」などがあります。しかしどれも狭<sup>せま</sup>いので、三春公園のようにのびのび遊んだり、運動できる広場や公園をふやしてほしいと願<sup>ねが</sup>っています。



# 年 表

時代	年	山崎のくらし・できごと	世の中のできごと
縄文時代 弥生時代 古墳時代		<p>○人は生活していなかった。</p> <p>○海蝕洞窟などで生活していた。 ・猿島町猿島洞窟</p> <p>○横穴古墳が造られる。 ・山崎横穴群</p>	<p>○縄文式土器が作られる。</p> <p>○稲作が伝わる。</p> <p>○金属器が伝わる。</p> <p>○弥生式土器が作られる。</p> <p>○日本列島各地に小国家が誕生する。</p> <p>●池田町大塚古墳</p> <p>●久里浜こんびら山古墳</p> <p>●長沢かろうと山古墳</p>
大和時代			538○仏教が伝わる。
奈良時代			710○奈良に平城京ができる。
平安時代		<p>○三浦半島には御浦郷(田浦)、田津郷(田戸)、氷蛭郷(南下浦)、御崎郷(三崎)、安慰郷(西浦、武山)の五つの郷があったとされている。</p>	<p>●宗元寺が造られ、そのあたりが栄える。</p> <p>794○京都に平安京ができる。</p> <p>1163●三浦氏が三浦半島に領地をもらう。(衣笠城)</p> <p>○山城ができ始める。</p> <p>1180●衣笠合戦で三浦大介義明が死ぬ。</p>
鎌倉時代	1253	<p>○日蓮が米が浜に流れつき、米が浜道場(のちの龍本寺)を建てた。猿島伝説、角なしさざえ伝説がある。</p>	<p>1192○源頼朝が征夷大將軍になり、鎌倉に幕府を開く。</p> <p>1333○鎌倉幕府が滅される。</p>
室町時代	1394(?)	<p>○公郷村に浄蓮寺が建てられる。</p>	<p>1338○足利尊氏が室町幕府を開く。</p> <p>1491○北条早雲が小田原をせめる。</p> <p>1492●三浦義同兵をあげ、三浦時高をせめる。</p> <p>1513●北条早雲が三浦義同をせめる。</p> <p>1549○キリスト教伝来</p>

時代	年	山崎のくらし・できごと	世の中のできごと
安土桃山時代			1590○豊臣秀吉が全国統一する。
江戸時代	1801          1854	○春日神社拝殿ができる。(社殿は猿島)    ○公郷村名主永嶋庄兵衛、箱崎半島前方部に掘割(旧掘割)を掘削。	1600●ウィリアムアダムスが浦賀に来る。 1603○徳川家康征夷大將軍となり江戸に幕府を開く。 1648●浦賀・三崎に燈明台ができる。 1660●砂村新左衛門が内川新田を開発する。 1720●浦賀に奉行所がおかれる。  1837●米国船モリソン号浦賀沖に着く。 1840●浦賀に燈明堂がつくられる。 1853●ペリーが浦賀沖に来る。 1860●浦賀から咸臨丸が出港。 1864●小栗上野介らが横須賀の港を調べる。 1865●横須賀製鉄所が建設される。
明治時代	1872(5) 1876(9) 1877(10) 1881(14) 1888(21) 1889(22)  1891(24)	○小学校の前身である浄蓮寺塾(公郷村)、長源寺塾(横須賀村)、西来寺塾(不入斗村)などが初等教育に当たる。 ○公郷学校(豊島小学校の前身)創立。 ○横須賀村を横須賀町と改める。 ○平坂が開通する。 ○猿島の砲台建設工事始まる。 ○豊島小学校ができる。 ○深田、米が浜の海面を埋め立てる。  ○米が浜砲台ができる。	1868○新しい政治が始まる。 1868●横須賀製鉄所が新政府に接收される。 ○神奈川県が神奈川県となる。 1869●観音崎燈台ができる。  1884●横須賀海軍鎮守府がおかれる。 1889●横須賀線が開通。 ●市町村制がしかれ、横須賀町、豊島村と改められる。 ○大日本帝国憲法が發布される。 1896●横須賀で日刊新聞が発行されるようになる。



時代	年	山崎のくらし・できごと	世の中のできごと
明治時代	1904(37)	○横須賀に乗合馬車が走る。(6人乗り馬車5台、聖徳寺坂下より浦賀芝生まで1人7銭、人力車40銭) ○公郷郵便受取所ができる。	1905●横須賀電燈会社がつくられる。 1906●横須賀ガス会社がつくられる。 1907●横須賀市制がしかれる。 1908●走水水道(市営水道)がひかれる。
	1908(41)	○鶴久保小学校開校。	
	1912(45)	○山崎小学校開校 児童数303名	
大正時代	1922(11)	○田戸小学校開校。	1914○第一次世界大戦に参加する。
	1923(12)	○関東大震災により校舎一部倒壊。	1923○関東大震災がおきる。
	1924(13)	○安浦埋立地を安浦1丁目、2丁目、3丁目と分ける。	
	1925(14)	○安浦港完成。	1925○ラジオ放送が始まる。 ●横須賀線で電気機関車の使用が始まる。
昭和時代	1935(10)	○山崎町を春日町と改める。	1930●私鉄湘南電車が開通。 (現在の京浜急行。最初は、黄金町～浦賀の間。)
	1935(10)	○金堀トンネル開通。	1937○日中戦争が始まる。 1939○第二次世界大戦がおこる。
	1943(18)	○二部授業を開始。	
	1944(19)	○第一次学童疎開を実施する。	

時代	年	山崎のくらし・できごと	世の中のできごと
昭 和 時 代	1945(20)	○第二次学童疎開を実施する。	1945○天皇無条件降伏放送。 ○太平洋戦争が終わる。
	1946(21)	○米軍から猿島での製塩を許可される。	1946○日本国憲法が公布される。
	1949(24)	○安浦漁業協同組合ができる。	1947○国民学校を小学校と改める。 ●市立小学校補食給食を開始。
	1950(25)	○春日町を三春町と改める。	1950○朝鮮戦争が始まる。
	1953(28)	○米が浜通りに市消防本部が置かれる。	1951●市立小学校完全給食を実施。
	1953(28)	○公郷トンネル開通。	1953○朝鮮戦争終わる。
	1955(30)	○日の出町海岸に市汚物処理施設ができる。	1953●テレビ放送始まる。  1960○カラーテレビ放送開始。
	1961(36)	○猿島の米軍施設が日本政府に返還される。	1964○東京オリンピックが開かれる。 ○ベトナム戦争が始まる。
	1963(38)	○横須賀公郷駅が京浜安浦駅となる。 (現在京急安浦駅)	1965●横須賀市文化会館ができる。
	1969(44)	○横須賀市下水道部下水処理センター、下町浄化センター完成。	1972○沖縄が日本に復帰し、沖縄県となる。 1973○ベトナム平和協定が調印される。
	1976(51)	○大津中学校開校。	1975●横須賀新港が完成。 ●集中豪雨により平作川があふれる。
	1977(52)	○救急医療センター開設。(現在の医師会館)	1977●横須賀市の人口40万人をこえる。 1978●横須賀市総合体育会館ができる。
	1980(55)	○救急医療センター三春町に新築移転。	1980●横須賀市人文博物館ができる。
1982(57)	○安浦沖の埋め立てが始まる。		
1983(58)	○三春地域自治活動センター開設。		
平成時代	1989(平成1)	○安浦沖の埋め立て地が平成町と決まる。	
	1990(2)	○新安浦港ができる。	1991○中東で戦争が始まる。
	1992(3)	○山崎小創立80年をむかえる。	約43日で終わる。

時代	年	山崎の暮らし・できごと	世の中のできごと
平成時代	1992(平成4)	○月1回の学校週5日制開始	
	1993(5)	○市内にて授業の指導法改善に伴う チームティーチング教員配置	
	1994(6)	○横須賀芸術劇場オープン 湘南国際村オープン	
	1995(7)	○月2回の学校週5日制開始	1995○阪神・淡路大震災
	1996(8)	○野比東小学校開校(市内49校目)	○地下鉄サリン事件発生
	1997(9)	○市制90周年式典開催 ○YRP(横須賀リサーチパーク)オープン	
	1998(10)	○イギリス メッドウェイ市と姉妹都市提携	1998○長野オリンピック開催
	1999(11)	○桜小学校開校	1999○東海村JCO臨海事故
	2001(13)	○ウェルシティ市民プラザオープン ○横須賀市が中核市に移行	2001○アメリカ同時多発テロ 事件発生
	2002(14)	○ヴェルニー公園オープン	2002○日韓共催FIFAワールド カップ開催
	2003(15)	○市立横須賀総合高校開校 ○大塚台小学校開校	2004○新潟中越地震
	2005(17)	○会津若松市と友好都市提携 ○長井海の手公園「ソレイユの丘」オープン	2005○愛・地球博開催
	2007(19)	○横須賀美術館オープン	
	2008(20)	○はぐくみかんオープン	2008○北京オリンピック開催
	2009(21)	○横決横須賀道路全線 (浦賀IC・馬堀海岸IC) 開通	2010○バンクーバー オリンピック開催
2012(24)	○山崎小学校創立100周年をむかえる	2011○東日本大震災 ○ワールドカップ女子 ドイツ大会 なでしこジャパン 初優勝	

## 資料

## 山崎小学校 児童のうつりかわり

年度	学級数	児童数	年度	学級数	児童数
1912(M45)	5	303	1962(S37)	24	1063
1913	6	357	1963	22	970
1914	6	396	1964	22	895
1915	7	453	1965	22	839
1916	7	458	1966	22	832
1917	8	486	1967	22	845
1918	10	542	1968	22	849
1919	11	583	1969	23	873
1920	12	616	1970	24	880
1921	12	621	1971	24	888
1922	12	591	1972	24	896
1923	12	613	1973	24	909
1924	12	639	1974	26	967
1925	12	766	1975	27	965
1926	12	695	1976	28	1031
1927(S2)	12	754	1977	29	1066
1928	14	837	1978	30	1107
1929	15	912	1979	29	1126
1930	17	1015	1980	30	1131
1931	18	1071	1981	28	1111
1932	19	1142	1982	27	1074
1933	19	1207	1983	26	1021
1934	20	1204	1984	25	983
1935	21	1290	1985	24	920
1936	12	1275	1986	22	841
1937	22	1361	1987	22	801
1938	22	1424	1988	22(特1)	755
1939	25	1511	1989	21(特1)	690
1940	28	1525	1990	20(特1)	641
1941	29	1565	1991	20(特1)	624
1942	30	1553	1992	20(特1)	629
1943	29	1570	1993	19(特1)	577
1944	29	732	1994	19(特1)	576
1945	21	1169	1995	19(特1)	564
1946	22	1226	1996	18(特1)	545
1947	22	1272	1997	17(特1)	517
1948	24	1311	1998	17(特2)	489
1949	25	1242	1999	17(特2)	484
1950	26	1305	2000	16(特2)	460
1951	28	1368	2001	15(特2)	429
1952	28	1378	2002	15(特2)	411
1953	29	1404	2003	17(特3)	449
1954	30	1480	2004	17(特3)	447
1955	31	1480	2005	14(特2)	432
1956	30	1503	2006	17(特3)	459
1957	29	1485	2007	17(特2)	475
1958	28	1492	2008	17(特2)	496
1959	28	1429	2009	19(特2)	504
1960	26	1291	2010	19(特2)	509
1961	26	1175	2011	19(特2)	497
			2012		

山崎小学校児童数

2011.6.1

学年		1	2	3	4	5	6	ぎんなん	計
学級数		3	3	3	3	3	2	2	19
	男	42	53	43	38	48	39	4	267
	女	29	31	40	48	43	36	3	230
	計	71	84	83	86	91	75	7	497
家庭数		37	54	59	67	89	75	5	386

山崎小学校の世帯数と学区の人口

	世帯数			人口		
	1972年	1991年	2011年	1972年	1991年	2011年
三春町全域	3430	3903	4435	10993	10670	9270
三春町 1丁	721	586	632	2211	1568	1269
2丁目	326	340	342	1150	941	728
3丁目	464	429	529	1424	1104	1052
4丁目	605	560	662	1989	1473	1296
5丁目	852	1383	1574	2710	3809	3405
6丁目	462	605	696	1509	1775	1520
安浦町3丁目	846	699	717	2556	1775	1380
富士見町1丁目	433	405	412	1420	1162	860
平成町1丁目			895			2494

# あ と が き

教頭 相 田 真 弓

わたしたちの通<sup>かよ</sup>う山崎<sup>やまざき</sup>小学校<sup>しょうがっこう</sup>は、2012<sup>ねん</sup>年（平成<sup>へいせい</sup>24<sup>ねん</sup>年）1月<sup>がつ</sup>14<sup>か</sup>日に  
創立<sup>そうりつ</sup>100<sup>しゅうねん</sup>周年<sup>むか</sup>を迎<sup>むか</sup>えます。そのお祝<sup>いわ</sup>いの記念<sup>きねん</sup>の1つとして、この本<sup>ほん</sup>  
も作<sup>つく</sup>られました。20<sup>ねんまえ</sup>年前<sup>ねんまえ</sup>の創立<sup>せいりつ</sup>80<sup>しゅうねん</sup>周年<sup>むか</sup>の時<sup>とき</sup>にも副読<sup>ふくどくほん</sup>本<sup>ほん</sup>「やまざき」  
が作<sup>つく</sup>られたので、その後<sup>ご</sup>の20<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>をつけ足<sup>た</sup>して作<sup>つく</sup>ることを先生<sup>せんせい</sup>方<sup>が</sup>が話<sup>はな</sup>  
し合<sup>あ</sup>い決<sup>き</sup>めました。それから1<sup>ねんはん</sup>年半<sup>ねんはん</sup>をかけた、先生<sup>せんせい</sup>方<sup>が</sup>が力<sup>ちから</sup>を合<sup>あ</sup>わせ  
夏休<sup>なつやす</sup>みや放課<sup>ほうかご</sup>後の時<sup>じかん</sup>間<sup>つか</sup>を使<sup>つか</sup>い資<sup>しりょう</sup>料<sup>あつ</sup>を集<sup>しゅう</sup>めたり写<sup>しゃしん</sup>真<sup>と</sup>を撮<sup>と</sup>ったりして書<sup>か</sup>  
き上<sup>あ</sup>げました。特<sup>とく</sup>に3・4<sup>こ</sup>年<sup>ねん</sup>の子<sup>こ</sup>どもた<sup>こ</sup>ち<sup>こ</sup>にわ<sup>わ</sup>かり<sup>わ</sup>やす<sup>く</sup>く学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>でき  
るよ<sup>よ</sup>うに<sup>に</sup>し<sup>し</sup>ました。

わたしたちの町<sup>まち</sup>は、100<sup>あいだ</sup>年<sup>ねん</sup>の間<sup>おほ</sup>に大<sup>か</sup>き<sup>か</sup>く変<sup>へ</sup>わり<sup>り</sup>まし<sup>ま</sup>した。山崎<sup>やまざき</sup>村<sup>むら</sup>と呼<sup>よ</sup>  
ばれた小<sup>ちい</sup>さな<sup>むら</sup>村<sup>むら</sup>から山<sup>やま</sup>を削<sup>けず</sup>ったり海<sup>かい</sup>岸<sup>がん</sup>を埋<sup>う</sup>め立<sup>た</sup>てたりし、大<sup>おほ</sup>きな<sup>まち</sup>町<sup>まち</sup>  
へとうつり変<sup>へ</sup>わり<sup>り</sup>まし<sup>ま</sup>した。この20<sup>じゅうたく</sup>年<sup>ねん</sup>の間<sup>おほ</sup>にも住<sup>おほ</sup>宅<sup>がた</sup>や大<sup>おほ</sup>型<sup>がた</sup>商<sup>しょう</sup>業<sup>ぎょう</sup>施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>  
な<sup>な</sup>どがた<sup>た</sup>く<sup>く</sup>さん<sup>さん</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>まし<sup>ま</sup>した。

この本<sup>ほん</sup>を<sup>よ</sup>ん<sup>ん</sup>で、わたしたちの学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>や町<sup>まち</sup>の<sup>れきし</sup>歴<sup>れきし</sup>史<sup>し</sup>、人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>の<sup>せいかつ</sup>生<sup>せいかつ</sup>活<sup>くわつ</sup>のよ  
うすのう<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>変<sup>へ</sup>わり<sup>り</sup>な<sup>な</sup>どを学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>するこ<sup>こ</sup>とによ<sup>よ</sup>り、わたしたちの学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>  
や町<sup>まち</sup>を<sup>あい</sup>愛<sup>あい</sup>する<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>がよ<sup>よ</sup>りい<sup>い</sup>っ<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>育<sup>そだ</sup>つ<sup>ねが</sup>こ<sup>ねが</sup>とを<sup>ねが</sup>願<sup>ねが</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ます。

この本<sup>ほん</sup>を<sup>はっこう</sup>発<sup>はっこう</sup>行<sup>こう</sup>するにあ<sup>あ</sup>たり、貴<sup>き</sup>重<sup>ちゅう</sup>な<sup>ていきょう</sup>資<sup>ていきょう</sup>料<sup>りょう</sup>を<sup>ていきょう</sup>提<sup>ていきょう</sup>供<sup>こう</sup>して<sup>ていきょう</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>った  
地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>の方<sup>かた</sup>々<sup>がた</sup>、各<sup>かく</sup>公<sup>こう</sup>共<sup>きょう</sup>機<sup>き</sup>関<sup>かん</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>およ</sup>助<sup>じょ</sup>言<sup>げん</sup>を<sup>たい</sup>い<sup>ふ</sup>た<sup>ふ</sup>だ<sup>ふ</sup>いた<sup>ふ</sup>方<sup>かた</sup>々<sup>がた</sup>に<sup>たい</sup>対<sup>たい</sup>し、<sup>ふか</sup>深<sup>ふか</sup>く<sup>ふか</sup>お  
れ<sup>れい</sup>い<sup>もう</sup>申<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>ます。

な<sup>な</sup>お、この本<sup>ほん</sup>につ<sup>き</sup>い<sup>つ</sup>てお<sup>お</sup>気<sup>き</sup>付<sup>つ</sup>き<sup>てん</sup>の<sup>てん</sup>点<sup>てん</sup>が<sup>てん</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>まし<sup>ま</sup>たら、ど<sup>ど</sup>う<sup>ど</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>  
ま<sup>ま</sup>で<sup>ま</sup>ご<sup>ご</sup>連<sup>れん</sup>絡<sup>らく</sup>い<sup>い</sup>た<sup>た</sup>だ<sup>だ</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>申<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>上<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>ます。





創立 100 周年記念・副読本

やまざき

発行日 2011.11.19

発行所 横須賀市立山崎小学校

横須賀市三春町 6 丁目 4 番地

印刷 有限会社 サガラ印刷所

横須賀市公郷町 1 丁目 18 番地

表紙 6年 向中野 敢太

中表紙 4年 伊藤 徳

4年 宮城 亮太

